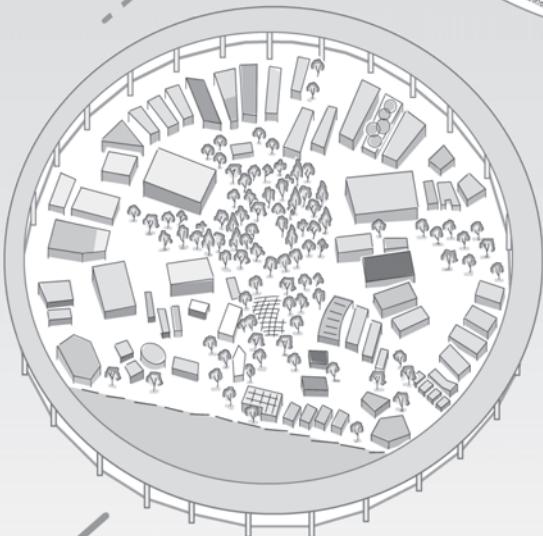
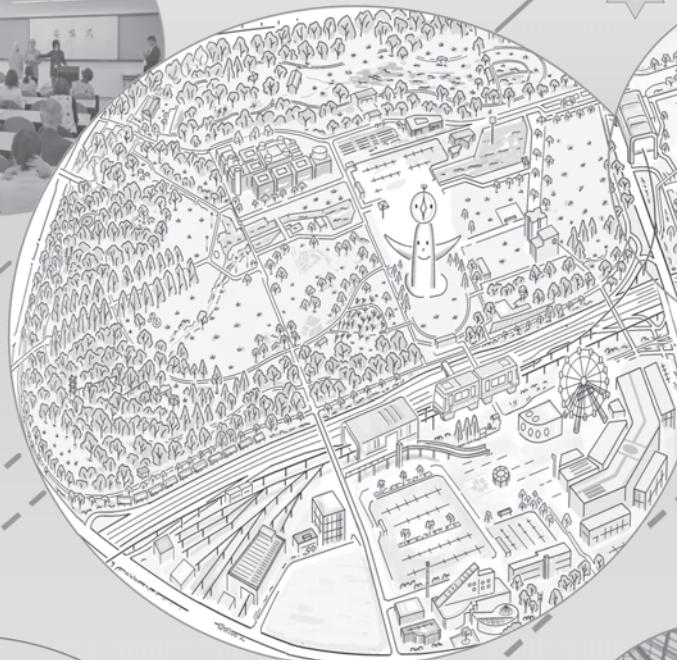


第32卷

研究報告書

ISSN 0919-7648



7
2025

公益財団法人
千里リサイクルプラザ 市民研究所



はじめに

大阪湾を埋めない暮らしのために

公益財団法人 千里リサイクルプラザ
主担研究員 花嶋温子

近畿地方で暮らす人の多くは、毎日、大阪湾を埋めながら暮らしている。毎日出すごみのうち、燃やすもの（吹田市では、「燃焼ごみ」）は、収集されて焼却炉で燃やされて、大阪湾にある最終処分場に運ばれて、埋め立てられている。私たちの日々の暮らしは、大阪湾を埋め立てることによって成り立っている。

近畿 2 府 4 県の 169 の自治体から出される廃棄物を埋立処分しているのは、大阪湾広域臨海環境整備センター、通称大阪湾フェニックスセンターである。1981（昭和 56）年に公布された「広域臨海環境整備センター法」という法律にもとづいて設置された日本で唯一の団体である。尼崎沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場という 4 つの埋立処分場を大阪湾内にもっている。しかし、すでに、尼崎沖埋立処分場は埋立を終了しており、泉大津沖埋立処分場もほぼ完了している。現在、自治体のごみの焼却残渣などを受け入れているのは、神戸沖埋立処分場と大阪沖埋立処分場の 2ヶ所のみである。2023（令和 5）年度 1 年間に 138 万トンの廃棄物や残土などが大阪湾に埋め立てられた。

大阪湾を埋めるのは、もちろん合法的に行われていることで、海の環境にも配慮して、先に海と埋立地を区切る護岸を作つてから、その内側に廃棄物を埋め立てている。当初の計画では、廃棄物を埋め立てて土地を造成し、それを売却して収益を得る計画だったが、その後、社会経済情勢が変化し沿岸部の土地需要は減り、環境汚染対策のために、埋立跡地の利用も制限されるようになり、土地造成による収益はほとんど見込めない。

大阪湾フェニックス計画による広域での最終処分が実施されるようになる前は、近畿圏の自治体は最終処分場不足で困っていた。特に吹田市や豊中市のような都心部の自治体は、市内のどこにも最終処分場を建設するための場所がない。大阪湾フェニックス計画前の時代は、吹田市役所に最終処分先を尋ねると、「民間企業に委託して適正に処分しています」としか回答がなかった。環境対策の十分な公共関与の最終処分場が建設されることは、環境保全の視点からも望ましいことであった。

一方、広域の計画と最終処分場ができたことによって、しくみが大規模になってしまい、排出者に切迫感がなくなった。近畿 2 府 4 県 2000 万人の暮らしから出る廃棄物を処理する施設があるのだから、住民である私ひとりが廃棄物を減らす努力をしなくてもい

い、あるいは、私ひとりが努力してもたかが知れているという気分になってしまう。市町村にしても、169の市町村が関与する最終処分場だから、この先どうするかは誰かが考えてくれるだろうという気分になってしまう。集団が大きくなることによって、個々の責任意識が希薄になってしまった。

このような状況のなかで、実は吹田市は他の自治体に比べて、一人当たりの最終処分量が少ない。2023(令和5)年度の一年間に市民一人あたりの最終処分量（大阪湾を埋めた重量）は、岸和田市が43.7kg、豊中市が29.8kg、池田市が38.0kg、寝屋川市が32.1kg、高槻市が32.2kgなのに対して、吹田市は14.3kgである。

なぜかというと、吹田市では、資源循環エネルギーセンター（いわゆる焼却施設）に灰溶融施設をつけて、焼却灰を溶融スラグ（高温で溶かして砂のようにしたもの）に加工し、路盤材やインターロッキングブロックに使ったりしているからである。すべてのスラグの利用先がみつかる訳ではないので、大阪湾フェニックス大阪沖埋立処分場にも一部埋め立てているが、スラグとして再利用する分だけ、吹田市は大阪湾を埋める量が少ない。大阪府民全体の平均が36.3kg/年だから、吹田市民ひとりあたりの最終処分量は、府民平均の4割に満たない。これは誇るべきことである。ただし、その分費用もかかっている。法律の基準を満たす最安値で処分することが良いことなのか、それとも、持続可能なしきみのために、誇りを持って貢献すべきなのか、その程度は吹田市民が考えなければいけないことである。

市民一人ひとりが、自分たちの暮らしを支える仕組みを知って、それに興味を持ち、疑問を持ち、自分たちで探求していく仕組みが吹田市にある千里リサイクルプラザの市民研究所である。そして、その毎年の研究成果をまとめたものがこの研究報告書である。吹田市資源リサイクルセンターは、日本で初めてリサイクルプラザとして国庫補助を受けた施設であり、自主財源をもった公益財団法人千里リサイクルプラザの市民研究所は他に類を見ない。

今年は、秋にくるくる環境スクールで、大阪湾広域臨海環境整備センターの大阪沖埋立処分場を見学に行く予定である。私達が埋め立てている場所を実際に見て感じて「大阪湾を埋めない暮らし」をどうやって作って次の代にわたすのか、一緒に考えはじめたい。



大阪沖埋立処分場

公益財団法人 千里リサイクルプラザ 市民研究所

研究報告書 第32巻 目次

はじめに

目 次

市民研究所 特集ページ ······ 3 ~ 1 1

市民研究事業の進捗状況とその評価(令和6年度)

市民研究所長 三輪 信哉

海外からのくるくるプラザ視察見学

国際化 PG 上川善一郎

各プロジェクトチーム (PT) の報告

市民とお店をエコでつなぐPT

プラごみ・食品ロスを中心として ······ 1 5 ~ 3 6

I PT 全体報告

1 はじめに

2 「プラスチックごみ削減」の研究活動の継続

3 「食品ロス削減」の研究活動の継続

4 市域での協働活動の展開

5 おわりに

II 各研究員の研究報告

資料 食品ロス量の推移 (平成25~令和4年度)

吹田ごみゼロシステム研究PT

ーごみゼロ (するをなくす) へのシステム研究ー ······ 3 9 ~ 5 2

1 はじめに

2 活動テーマ

(1) プラごみゼロに向けた世界の事例

～世界から見た日本の取り組みは？～

(2) 迷惑がられている竹等の循環利用

(3) 身近なプラスチック・アクションを実行中

(4) 2024年度ブログ発信の振り返り

(5) 広域化について考える 事例：鎌倉市の選択

身近な環境を調べよう P T

—吹田市のため池の環境調査（第2報）— ······ 55~66

- 1 はじめに
 - 2 調査方法
 - 3 調査結果
 - 4 考察

別紙—1 調査したため池の概要

別紙—2 ため池の調査結果の概要

SDGs啓発PT 69~94

～2024年度活動を振り返って～

- 1 はじめに
 - (1) 研究テーマ
 - (2) 研究テーマ設定の理由
 - (3) 研究方法
 - (4) 研究経過
 - (5) 研究成果

2 その他

PT 新メンバーからの抱負

- 1 令和 6 年度(2024 年度)公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告書
 - 2 しみんけんきゅうニュース令和 6 年度 (2024 年度) 年間概要
 - 3 マイ食器持参啓発運動アンケート
 - 4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所設置規則
 - 5 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所運営方針

市民研究所 特集ページ

市民研究事業の進捗状況とその評価(令和6年度)

市民研究所長 三輪 信哉

海外からのくるくるプラザ視察見学

国際化 PG 上川善一郎

市民研究所事業の進捗状況とその評価（令和6年度）

研究所長 三輪 信哉

1 はじめに

千里リサイクルプラザ市民研究所の令和6年度の進捗状況について以下に述べる。この進捗は、2022（令和4）年度から2026（令和8）年度までの5年間を対象とする第二次中期計画に基づくものである。

最初に第2次中期計画に述べられている重点取り組みについて整理し、その後に2024（令和6）年度の取り組みとその評価、課題を記す。

2 第2次中期計画における市民研究所の方向性

最初に、千里リサイクルプラザ第2次中期計画の中での市民研究所に関する事項を整理しておく（注1）。

第2次中期計画では基本理念として、「地球環境保全の重要性にかんがみ、持続可能な社会への転換に向け、市民、事業者、教育機関、行政等との協働のもと、地球温暖化の防止等を含む循環型社会の構築・推進に関する事業を展開する。」を

掲げている。

第1次中期計画の推進及びその中間見直しを行う中、過去5年間で新たに生まれた課題を元に、5年後の財団の姿を描きながら、次の5つを第2次中期計画推進のための視座として設定した。

- (1) SDGsが描く社会への環境問題の取組
- (2) 豊かな環境がもたらす健康と共生社会
- (3) ITが結ぶ新たな社会での活動方針
- (4) 市民研究所の新展開と調査研究活動の拡大
- (5) 地域の環境ハブとしての役割

である。

この5つの視座のもと、第2次中期計画では、施策計画として5つあげ（注2）、そのうちの一つ「(5) これからの市民研究所のために」では、市民研究所として次の三つを重点取り組みとして掲げている。「①柔軟な研究所運営体制の構築、②主担研究員の役割の再検討、③調査研究活動の充実と社会への還元」である。その具体的な取組項目を表1に示す。

表1 第2次中期計画、市民研究所の重点取り組み

重点取り組み	具体的取組項目
①柔軟な研究所運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none">・市民研究員、主担研究員が集うことができ、また来館者には市民研究所の活動を広報できる場を、センター内に常設する。・主担研究員の協力も含め、いろいろなルートを活用し、大学や企業との連携や協働による共同研究を模索する。・PT活動の拡大に取り組み、PTが多様なテーマや活動内容を持つように、従来の評価体制や方法、予算のサポート体制を見直す。・PTの括りでの調査・研究活動とは異なり、より緩やかな環境問題への取組の場としての「(仮称)研究グループ」の設置について検討を進める。・暫定的に実施してきた、市民研究員の勧誘や市民研究員相互の交流の場である「くるくるつながり広場」を適切な時期に正式な組織として位置づけ、その役割に沿った内容の充実を図る。・以上のことを進めていくために、事務局市民研究所担当の現行の担当業務を見直し、各PTや主担研究員の調査・研究・実践活動のサポートに注力できる体制を整える。
②主担研究員の役割の再検討	<ul style="list-style-type: none">・主担研究員と市民研究員と事務局が緊密に連携し、リアルタイムで情報を共有し、同じ方向性で進めていく。・これまで主担研究員の役割は、PTへの指導・助言が中心であったが、これからは主担研究員が核となり、定期的に主担研究員相互の意見交流を目的とした主担会議を実施する。・主担会議で主担研究員から専門性を活かしたPT活動のテーマ設定を提案したり、新たな市民研究員を募集したり、市民との直接交流の場を設置するなど、主担研究員の新たな役割を構築する。
③調査研究活動の充実と社会への還元	<ul style="list-style-type: none">・環境問題の市民目線での研究成果を社会に提言し還元するという活動を続けている中、市民研究所の活性化を模索する。・環境問題に対する人々の関心が高まっている中、SDGs啓発プログラム作成PTや身近な環境調査PTが活動をスタートさせるなど、今後も社会情勢に対応していく。・市民研究員の調査研究活動に必要な予算の確保や市民に向けた成果発表の場を設置して、市民研究員が他団体や他組織との交流を通じた協働での研究活動が活発になり、社会への還元につながるよう進める。

出典：文献2、13頁～14頁

3 令和6年度、PG (Planning Group) の活動について

(1) 活動の経緯と構成、内容

以上の第2次中期計画とは別に、2026年に財団として市より指定管理の審査を受けるにあたり、2023年秋より市民研究員、主担研究員、プラザ事務局で話し合いを重ね、2024(令和6)年度から2026(令和8年)年度までにプラザ、研究所の改善をはかるための短期の取り組みを定めた。①環境教育、②施設案内・見える化情報化、③国際化、④関西万博、の四つの取り組みである。これらを進めるために、事務局、主担研究員からなるPG(企画グループ)を立ち上げた。構成メンバーは表2の通りである。

あわせて、専門的な立場から市民研究所の活動に助言をすることのできる「環境アドバイザー」を設けた。

表2 PGの構成メンバー

PG名称	主担研究員	事務局
環境教育	三輪、金子	大森、山中※、下村※、安田
施設案内・見える化情報化	三輪、花嶋	天野、山中※、下村※、安田
国際化	三輪、内田	上川
関西万博	小幡	平田、天野

※は環境アドバイザー

「環境教育」では、小学校や公民館などへの出前講座、また学校での環境教育への支援の改善について話し合う。「施設案内・見える化情報化」では、プラザは啓発施設として学校や、国内外から多くの見学者が来館していることから、施設の展示や案内の内容のアップデートを図るとともに、より深い啓発ができるようにと検討を重ねる。「国際化」では、途上国から見学者が来館することから、さまざまな表示の多言語化、また施設案内の多言語化が求められている。何より吹田市、日本が重ねてきた循環型社会形成の取り組みを海外に発信していく必要があると考える。「関西万博」については、大阪・関西万博で、リユース食器使用で貢献すべく、京都のエコトーン、京

エコロジーセンターと共同で取り組む。

(2) PGの2024年度の取り組み

①環境教育 PGについて

毎年3千人近い吹田市立小学4年生が授業の一環としてプラザ施設を見学に来る。プラザ創立以来約9万人、現人口40万人の4人に1人はプラザに来たことになる。また市民研究員がエコスクールや授業などでの出前講座に取り組んでいる。

学校長OBが環境アドバイザーとして関わることで、教育現場の実情の理解や学校とのスムーズな連携、教育委員会、教育センターなどとの繋がりの強化をはかっている。現在のところ環境アドバイザー(学校長OB)が、①市民研究員の出前講座に参加し助言する、②見学と一体となった教室での授業案を作成する、③学校教員対象の夏季研修プログラムを作成する、に取り組んでいる。

②施設案内・見える化情報化 PG

エネルギーセンター・破碎選別工場・プラザの三者が統合された施設案内ならびに展示内容の検討を始めている。

③国際化 PG

後述の報告を参照いただきたい。今のところ大きな展開ははかれていないが、プラザの紹介パンフレットを中国語、英語で作成している。

④関西万博 PG

大阪・関西万博が4月13日より10月13日まで開催している。すでにプラザ施設にて、回収されたリユース食器を日々、洗浄し、現地に搬入する業務が遂行されている。

(3) ESD活動推進拠点

プラザは、前述のように小学生をはじめとする多くの来館者を迎えるとともに、学校教育の現場にもPT、ATの市民研究員が研究や活動の傍ら、積極的に出前講座に取り組んでいる。こうした地道で継続的な環境教育の取り組みがあり、文科省・環境省が認定する「ESD活動推進拠点」として2024年10月7日に登録を完了することができた。

ESDは国連主導で始まった「持続可能な開発のための教育」のことで、それをさらに国内で行き渡らすため、全国に199の拠点施設があり、関西でも17施設が登録している。

この一環で、市民研究員、施設案内人、事務局職員対象に、環境省主催のESD研修をプラザを会場に実施した（注4）。また、2023年度より関係のできた千里高校から生徒や先生方をお招きし、「総合的な探究の時間」で研究された結果を3月11日にプラザで発表していただいた（注5）。

4 令和6年度の検討項目について

（1）市民研究所事業の検討項目

令和6年度の市民研究所の諸活動を評価するために、表3に示すように令和6年度の「検討項目」「具体的な検討課題」「年度当初の現状と課題」を置いて、一年間、市民研究所の活動を取り組んできた。その取り組みの中間結果については、年5回開催される研究運営委員会ごとに、確認してきた。

以下では具体的に取り組んだ内容と自己評価を述べる。すでに述べて来たPGの活動について重複する部分もあるのでご容赦願いたい。

なお、表3に示す検討項目や課題については必ずしも表1に示した第2次中期計画の「重点取り組み」「具体的取組項目」とは一致していない。

この点については、平成8年度以降は現在検討中の第3次中期計画との整合性をはかり、PDCAを適切に運用できるよう、計画と評価項目が対応したものとすべきであろう。

（2）令和6年度の取り組み結果と課題

A 市民研究所の今後の方針を考え、充実した運営体制の構築をはかる。

① 市民研究所運営体制再構築をはかる。

PTには各研究会の研究に対して、月1回開催の定例会を基本に、主担研究員が助言を行った。主担研究員どうしも、隔月で行われる主担会議にて、研究会の進行などについて意見交換を行った。また各PT、ATに事務職が入り、会の進行や調整をスムーズに行なった。

市民研究員の研修活動の充実を図るために、くるくるサロンや、各種研修に参加を呼び掛けた。

環境出前講座の内容の充実、出前担当者のスキルアップ向上のために、環境アドバイザーや主担研究員が出前講座に参加することで、指導、助言を行なった。市民研究員はそうした機会を通じてさらにスキルアップを目指している。

表3 令和6年度 市民研究所事業の進捗状況

検討項目	具体的な検討課題	令和6年度当初の現状と課題
A 市民研究所の今後の方針を考え充実した運営体制の構築をはかる。	①市民研究所運営体制再構築をはかる。 ②ATの実践活動とPTの調査・研究活動のそれぞれの特色を生かし、情報交流を通じて互いに高め合う。	・PTとATの活性化及び相互連携を進める。 ・つながりラボ（旧工房3）からの発信力を高めるためデジタルサイネージなどを活用した環境整備を進める。 ・市民研究員の研修活動の充実を図る。 ・環境出前講座の内容の充実、出前担当者のスキルアップ向上のために環境アドバイザー等が指導助言を行う。
B 市民研究員の増加に向けての方策を考え制度化する。	①くるくる環境スクールの実施 ②くるくるサロンの実施 ③くるくるつながり広場の実施 ④広報活動の充実	・「くるくるサロン」や「つながり広場」を定期的に開催し、市民研究員増員はもちろん、市民研究員同士の交流の場をめざす。 ・プラザHPのみならず、他の情報ツールを活用する。
C 多様なボランティア受け入れ体制を作る。	①くるくるサポーターの活用 ②施設案内専門員の質的向上と増員 ③もったいないバザールへの大学生の参画	・施設案内専門員の説明スキルの向上と説明内容の充実のために研修会を実施。（花嶋主担研究員からの指導助言、他環境施設への見学等） ・大学生のイベント等への参画を積極的に進めていく。
D 主担研究員の関わりを充実させる。	①定例会、代表者会、研究運営委員会等への参加 ②研究報告書への指導・助言 ③研究実践発表会での助言 ④しみんけんきゅうニュースからの発信 ⑤くるくるサロンでの講演等	・市民研究所や各PT活動への積極的な指導助言。 ・しみんけんきゅうニュース等を通じて、主担研究員からのより多くの情報発信。 ・主担会議からの提案。 ・くるくるサロン等での今日的な環境問題への提案。
E 関係機関・団体との連携	①学校とのネットワークの拡大と深化を図り、環境教育の支援を充実させる。 ②関連する分野での他の環境団体や大学等との連携を進める。	・小学校でのクラブ支援以外にも、その他の公共施設（学童、公民館など）への環境出前講座拡充のアプローチを行う。 ・環境教育企画グループ（PG）を中心に小中学校へ授業支援や教員対象の体験型研修（SDGsカードゲームなど）を計画する。 ・もったいないバザール参画企業、大学との連携及び新規参加団体、企業への参加要請。

前述のように、新たにPGを設けることで、研究所と事務局で直近の重要課題の解決に向け、話し合いを重ねている。

【課題】

環境教育として、「総合的な探求の時間」にとりくんだ生徒の来館、発表の経験から、小学校のみならず高校への広がりもこれから目指していく。

高齢化や共働きの一般化、労働環境や価値観の変化など、社会の変化により、研究員を希望する人材が減少している。オンライン参加など、研究員が参加しやすいような研究活動を模索する必要がある。

つながりラボ（旧工房3）からの発信力を高めるためデジタルサイネージなどを活用した環境整備を進めようとしたが、これについては施設の大規模改修工事のため保留となった。

② ATの実践活動とPTの調査・研究活動のそれぞれの特色を生かし情報交流を通じて互いに高め合う。

PT間では、ごみゼロPTがブログを運営しており他のPTからの掲載希望も出てきている。さらに複数のPTからSNSを使った外部発信を行うようになってきている。

また、代表者会では、PT、ATが参加し、情報交換に努めている。また、身近な自然PTのように他のPTからの参加を求める取り組みも始めている。

【課題】

PT、ATの交流のみならず、施設案内人や工房指導員の交流など、多角的な交流を行うことで、高めあっていくことも課題である。

B 市民研究員の増加に向けての方策を考え、制度化する。

① くるくる環境スクールの実施

市民研究員の高齢化と減少が課題であった。そこで、「くるくる環境スクール」を体験型の魅力ある講座内容に変え、また募集に関する広報活動は、多くの媒体を通じて積極的に行った。その結果、スクール生20名でスタートできた。環境への問題意識の高い方々が多い。エコクッキング、もったいないバザール、施設見学バスツアー等、

体験型の講座を計画したところ、スクール生の肯定的な感想が多かった。スクール修了生から9名の市民研究員加入があった。また、一般からの加入もあり、市民研究員増員につながった。

【課題】

これまで市民研究員になる方がゼロの年もあった。今後とも研究員が増えるよう、スクールのあり方を検討を続ける必要がある。

② くるくるサロンの実施

主担研究員が話題提供し、一般市民や研究員が参加するくるくるサロンを実施した。

第1回（5/25）講師谷村主担研究員「江戸時代の人々のリサイクル術を学んでみよう」

第2回（9/1）講師花嶋主担研究員「天神祭ごみゼロ大作戦」

第3回（1/26）講師内田主担研究員による「中国古典から見るSDGs或いは環境問題」、

第4回目（3/8）講師中山氏、下村氏により「小学校における授業案」。

【課題】

参加者がおおむね市民研究員等に限られ、さらに多くの一般市民の参加が求められる。また当初の趣旨である参加者が気軽に自由に活発に意見交換できる場とできるように取り組む必要がある。

また講師についても主担研究員にとどまらず広く研究所外にも依頼することも考えられる。

③ くるくるつながり広場の実施

環境スクール修了生を対象に、12月、1月、2月と、くるくるつながり広場を3回設けたが、環境スクール生はすでに自身が所属するPT、ATを早期に決めたため、2月の広場への参加は見られなかった。

【課題】

今後とも、つながり広場を継続するかどうかも含めて、ありかたを検討する必要がある。

④ 広報活動の充実

広報手段として、吹田市のウェブサイトを活用してスクール生の募集や環境問題講演会の広報を行った。スクール生の募集では、広報の地域を広げたことで多くの参加者が得られたのではと考えられる。またインスタを活用して、當時、研究所ならびにプラザの活動をアップし、広報につとめ

た。

【課題】

広報活動では、プラザ全体として、インスタなどでこまめな情報発信をするようになった。引き続きより多くの媒体を通じて情報発信をこまめに行い、積極的に行っていく。

「市民研究」というと一般市民からはハードルが高く感じられる。市民研究活動が社会的にも大事であることを伝えつつ、面白く楽しいものであるよう、SNSの活用を通じて発信していく必要がある。

また、メルマガの開始など、新たな媒体の可能性を検討していく必要がある。

C 多様なボランティア受け入れ体制を作る。

① くるくるサポートーの活用

千里リサイクルプラザが展開している「くるくるサポートー」制度は、プラザの取り組みに賛同し、ボランティアとして支えたいとする市民を対象に随時募集している制度である。市民研究所ではこの制度を活用し、研究所の活動やプラザ全体の取組への市民の参画の幅を広げている。

活動内容は、破碎選別工場と市民工房の案内対応、市民工房や子ども達への環境学習支援の手伝い、プラザ主催のイベントの手伝いなどである。

【課題】

主として市民研究員、施設案内専門員がサポートーとして活動しているが、一般市民や学生でサポートーとしてのみ参画している人はほとんどいない。サポートーそのものの取り組み内容を明確にし、また研修制度を確実なものにするなど、取り組む必要がある。

② 施設案内専門員の質的向上と増員

花嶋主担研究員が施設案内の場に5月15日に参加し、何を大切に伝えたいのか、伝え方の工夫など多岐にわたって助言した。また、展示内容の改善やエネルギーセンターと破碎選別工場との連携についても助言した。施設案内専門員のスキルアップのために「京エコロジー」と「さすてな京都」への研修を実施した。

【課題】

施設案内専門員が高齢化し減少しつつある。新規養成が進んでおらず、専門員の増員が喫緊の課

題である。そのためにも、「施設案内・見える化情報化PG」での検討を通じて、統合的な案内内容の検討、展示施設の更新・充実、施設案内専門員の名称変更や、募集方法の改善、研修プログラムの開発など、多角的にまた迅速に検討する必要がある。

③ もったいないバザールへの大学生の参加

千里リサイクルプラザが開催するもったいないバザールに阪大13名、千里金蘭大4名の合計17名の参加があり、近隣大学との連携を進めることができた。

【課題】

バザールへの大学生の参加を一過性に終わらせず、近隣大学との連携をより一層進めていく。ボランティアとして求めるだけでなく、大学生が学びを得ることのできる人材育成の場となるよう、展開する。

大学へはこまめに情報を発信し、つながりを密にしていく必要がある。

D 主担研究員の関わりを充実させる。

① 定例会、代表者会、研究運営委員会等への参加

主担研究員が参加しやすいよう従来の対面のみの会議を対面・オンライン併用の会議へと変更した。また、これらとは別に、主担研究員の役割については、約2か月に1回、オンライン主担会議を開催し、市民研究の充実と、研究所のありかた、目指すべき方向などを話した。

【課題】

いずれの会議もオンラインを併用するようになってきている。他方、対面でこそコミュニケーションが充実するので、オンライン・対面を工夫していく必要がある。

また、会議では報告・伝達内容が多く、一方通行的になりがちである。会議の参加者が活発に意見交換しアイデアを出して行けるような会議進行に努める必要がある。

② 研究報告書への指導・助言

各PTで研究報告書を作成するに当たって、各主担研究員が丁寧な指導・助言を行った。また、報告書の最終校正にあたっては事務局が担当して

いる。

【課題】

個人研究活動が活発化し、PT の報告書への投稿頁数が急増している。経費の関係から頁数や投稿数を絞らなければならなくなってきた。冊子を中心とする報告の形態も検討していく必要がある。

③ 研究実践発表会での助言

12月7日に行った研究実践発表会において各チームの取り組みについて主担研究員が助言を行った。また試験的にポスターを使っての発表を2件、設けた。

発表会後に各チームの年間活動に対して、主担研究員並びに事務局がアドバイスシートや助言書を通じて指導助言を行った。

【課題】

研究実践発表会では、個人研究が増えつつある中で、発表時間が限られているために、今後とも発表、評価方法を考える必要がある。

また、評価にも時間がかかるために、評価方法も検討していく必要がある。

④ しみんけんきゅうニュースからの発信

しみんけんきゅうニュースの印刷、内容及び発行回数について検討した。しみんけんきゅうニュースで、主担研究員が記事を書き、定期的な情報発信ができた。

【課題】

けんきゅうニュースが研究所の記録として、また発信する媒体としてその機能を發揮するため、内容や部数、送付対象、配架場所などをさらに検討する必要がある。

⑤ くるくるサロンでの講演等

前述

E 関係機関・団体との連携

① 学校とのネットワークの拡大と深化を図り、環境教育の支援を充実させる。

環境教育PGを中心となって進めた。学校現場での環境教育推進のために、8月23日吹田市の教育長訪問、12月26日教育センター長訪問を行い、教育委員会との連携強化を進めた。結果、令

和7年度夏期に教員対象の研修講座を開催することが決定した。また、教員への授業支援を行うため、授業支援プログラムの充実を図り、お任せパック的な授業やゲストティーチャー型など、様々な形態での授業支援を検討した。

【課題】

今後とも教育委員会との連携強化を進めることで、小学4年生対象の授業を直接行うことを進める。

小中高への環境教育の推進をしていく。高校に対しては「総合的な探究の時間」に関して、専門的な助言を行うとともに、生徒の発表の場を設ける。

また、大学との環境教育分野での連携を検討する。

② 関連する分野での他の環境団体や大学等との連携を進める。

もったいないバザールへの大学生の参加、及び新規企業・団体の参加が増えてきた。SDGs PTでも大学のSDGsゼミとの連携を検討している。また、大学との社会連携を結ぶ手始めとして大阪学院大学と連携協定を結んだ。

なお黒田主担研究員が外部で行ったシンポジウム「ハインリッヒが撃った鴨」を、プラザが共催で行なうなど、外部展開も試みた。

【課題】

市民研究所のPTが他の環境団体と連携する機会をさらに意識し、進める。

企業・団体との継続的な連携及び新規企業・団体との新たな連携を図るために、情報収集や聞き取りを行い、更に具体的な連携の方法について検討する。

5 おわりに

現在、地球温暖化問題、生物多様性問題、プラスチック問題、食ロス問題と、これらのグローバルな問題は、全ての国が自国の事として解決しなければならない問題で、国際的な場で議論が重ねられている。

国が制度化を進めても、環境創生のため、市民自身が意識を高め行動変容し、またそれを促すための情報や場の提供がなされなければ、社会の変容は困難である。制度がいくら整っても、制度と

個々人や多様な組織を繋がなければ社会は変わらない。

だからこそ、市民の目線で一般市民の方々に知ってもらい、市内の仕組みを変え、時には制度を変えて行くことも必要になる。社会が変わるためには、市民研究活動がもっと世に知られ、「環境研究」、「環境教育」、「環境啓発」、「社会変革」を意識して、世の中に積極的に働きかけていく必要がさらに大きくなっていると言えるだろう。

千里リサイクルプラザが管理運営するくるくるプラザはその先駆的な存在として、全国のモデルとなる数々のプラザ施設の中でも、市民研究所を併設する唯一の施設である。市民研究所は30年以上にわたる継続的な取り組みが評価され、2025年3月11日には令和6年度「おおさか環境賞」を受賞した。

大学研究者である主担研究員を有する研究所は今後ともその特質をさらに生かし、循環経済社会の創出、持続可能な社会の創生、すなわち「環境創生」に向け、「行動変容」「人材育成」に向けその使命を果たすことが望まれていると言えよう。

そのためにも今後とも内部評価、外部評価を重ねながら前進していく必要がある。

注 釈

- 1) 市民研究所は定款の中に位置づけられている。「公益財団法人千里リサイクルプラザ定款」の「第2章 目的及び事業」に本財団の「目的」ならびに「事業」が記されている。「(目的) 第3条 本法人は、地球環境保全の重要性にかんがみ、地球温暖化の防止等を含む循環型社会の構築・推進に関する事業を展開し、もって持続可能な社会への転換に寄与することを目的とする。」「(事業) 第4条 本法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。(1) 啓発・普及活動等に関する事業 (2) 市民研究等に関する事業 (3) 講演・講座の開催等教育に関する事業 (4) その他本法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項の事業は、大阪府内において行うものとする。」(文1)
- 2) 5つの施策計画は(1)来館者の自発的活動のためには、(2)環境情報受発信機能の充実のために、(3)魅力ある市民工房と実践教室のために、(4)地域における環境活動のために、(5)これからの市民研究所のために、である。(文2)
- 3) 重点取り組みについては、その13頁～14頁に詳細に述べている。(文2)

- 4) 「令和6年度 教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修～SDGs達成に向けた環境教育・ESD実践講座～」、内容：カリキュラム・デザイン・コース/講師派遣型研修、主催：環境省、協力：文部科学省、日時：2025年1月24日(金)13:00～16:00、場所：(公財)千里リサイクルプラザ
- 5) 令和7年3月1日に、千里高校発表会生徒10名教員3名が来館下さり、プラザ12名が参加して、四つのテーマで発表していただいた。プラザからは研究所、事務局から12名が参加した。発表テーマは(1)寒天プラスチック利用によるたばこフィルターの開発、(2)モーダルシフトの研究、(3)里山に関する研究、(4)フローロスに関する研究であった。千里高校からは佐々木校長先生、担当の西沢先生、前教諭の大西様が来館された。

文 献

- 1) 公益財団法人 千里リサイクルプラザ「公益財団法人千里リサイクルプラザ定款」https://www.senri-recycleplaza.or.jp/wp-content/files_mf/1686963369%E5%AE%9A%E6%A%CBER5.6.7.pdf (2025年5月1日閲覧)
- 2) 公益財団法人 千里リサイクルプラザ「公益財団法人 千里リサイクルプラザ・第2次中期計画書・令和4年度(2022年度)～令和8年度(2026年度)」令和4年(2022年)3月、https://www.senri-recycleplaza.or.jp/wp-content/files_mf/1648780226%E7%AC%AC2%E6%AC%A1%E4%B8%AD%E6%9C%9F%E8%A8%88%E7%94%BB%E6%9B%B8.pdf (2025年5月1日閲覧)
- 3) ESD活動支援センターとは「ESD活動支援センターとは」 <https://esdcenter.jp/aboutus/> (2025年5月1日閲覧)
- 4) 千里リサイクルプラザ・ESD活動推進拠点登録内容 <https://esdcenter.jp/kyoten/#kinki> (2025年5月1日閲覧)

海外からのくるくるプラザ視察見学

国際化 PG 上川善一郎

1 はじめに

環境問題はあらためて言うまでもなく、国際会議の俎上に幾度となく載せられ、国際的な取組みなくしては解決への糸口さえ見出すことは困難である。

昨今地球規模での気候変動が人間を含む動植物の生存を脅かす様々な現象を引き起こしているのは周知のとおりである。CO₂他の温室効果を持つガスに起因する急激な気温上昇が均衡状態を崩し北極の氷が溶け出して海面の上昇を招き、太平洋上の島嶼部の一部に水没が確認されること、また海上の大気が暖められることによる上昇気流がもたらす大規模な台風、ハリケーンや豪雨の発生等、その被害状況は年々激しさを増している。

本年（令和7年）の大阪・関西万博開催を機にインバウンドで訪日する外国人観光者はひときわ多くなり、大阪では繁華街である梅田や難波でも人通りの中ですれ違ったびに異なる言語での会話が聞こえ、まるで香港にいるかのような錯覚に陥ることがある。

こうした背景の中、くるくるプラザでも近年、海外からの視察見学者が増加してきている。

以下ではプラザ来館者数の変化をたどり、今後のプラザの果たすべき役割について検討したい。

2 国内、国外からの施設見学の推移

2-1 観学団体と見学者数の推移

図1には、海外から来館する視察見学者数と来館者総数に対する海外来館者比率を示している。表1にはその具体的な数値を年度ごとに示している。

これらに示すように、団体総数ではプラザが開館した1992年以降、2002年ごろまでの10年間は全国に先駆けた施設だけに、見学団体も毎年200団体を超える、来館者数も1万人近くあった。その後は年間100団体6000人前後が来館し、コロナの前年2019年までその傾向は続く。コロナ

が始まり団体数も来館者数も激減したが、2024年には6千人超えとコロナ以前に戻りつつある。なお、以上の団体の中には市内小学校の施設見学も含まれ、36校、3500人が来館する。

海外からの来館者は2005年以前の統計はないが、2011年頃まではおおむね5団体前後で、人数も二けたどまりであった。それが2012年以降、100人を超える来館者となり、コロナ直前の2019年には34団体、1073人の来館者があった。



図1 海外からのくるくるプラザへの視察見学者数と比率の推移

表1 国内、国外からの来館者数の推移

視察見学	団体 総数	人数	内、海外からの視察見学	
			団体数 (比率)	人数 (比率)
1992 平成4年度	359	7,383		
1993 平成5年度	716	15,135		
1994 平成6年度	536	13,061		
1995 平成7年度	463	11,509		
1996 平成8年度	416	11,995		
1997 平成9年度	353	10,657		
1998 平成10年度	304	10,159		
1999 平成11年度	258	8,084		
2000 平成12年度	217	7,222		
2001 平成13年度	209	7,507		
2002 平成14年度	190	7,701		
2003 平成15年度	131	6,543		
2004 平成16年度	125	6,517		
2005 平成17年度	116	6,773		
2006 平成18年度	103	5,929	7 (6.8%)	68 1.1%
2007 平成19年度	117	6,212	4 (3.4%)	54 0.9%
2008 平成20年度	94	6,040	3 (3.2%)	64 1.1%
2009 平成21年度	100	6,604	2 (2.0%)	46 0.7%
2010 平成22年度	95	6,076	2 (2.1%)	19 0.3%
2011 平成23年度	112	6,783	1 (0.9%)	9 0.1%
2012 平成24年度	141	7,108	7 (5.0%)	180 2.5%
2013 平成25年度	113	6,555	6 (5.3%)	118 1.8%
2014 平成26年度	107	6,129	5 (4.7%)	170 2.8%
2015 平成27年度	106	5,994	9 (8.5%)	281 4.7%
2016 平成28年度	109	6,264	9 (8.3%)	153 2.4%
2017 平成29年度	118	6,307	21 (17.8%)	566 9.0%
2018 平成30年度	87	5,500	16 (18.4%)	544 9.9%
2019 令和元年度	117	6,734	34 (29.1%)	1,073 15.9%
2020 令和2年度	12	942	0 (0.0%)	0 0.0%
2021 令和3年度	37	1,948	0 (0.0%)	0 0.0%
2022 令和4年度	64	4,448	1 (1.6%)	9 0.2%
2023 令和5年度	77	5,272	4 (5.2%)	66 1.3%
2024 令和6年度	79	6,061	7 (8.9%)	129 2.1%

平成4年度(1992年度)～平成17年度(2005年度)は視察見学の内訳データ未取得のため、同期間の海外からの視察見学者数は把握不可。

2-2 国外からの来館者数とその内容

表2に2019年以降、5年間の海外来館者の内容を示す。コロナ前の中国からの観光客の急増に呼応するかのように中国からの来館者が増大した。いわば修学旅行の一環で学生が訪問していることがわかる。また同様にマレーシアからの学生の来館者もあった。

専門家としての研修は、中国建材集団、日中経済技術促進会、マレーシア投資開発庁などであった。中国、マレーシア以外の諸国は（公財）地球環境センターのJICA研修としての来館であった。

表2 令和元年2019年から令和5年2023年の海外来館者の内容

国・地域など	団体数	総人数
中華人民共和国	学生	22
	業界団体、行政	5
マレーシア	学生	1
	行政	1
アフリカ	ジブチ、マリ、ガボン	
アジア	フィリピン、ラオス	
中南米	ブラジル、キューバ	
東欧	ウクライナ	

3 考察

特にアジアやアフリカ諸国には政治的な不安要素を抱えながらも、高度成長期の日本のように経済が成長軌道を描く国が少なからず見られ、日本が辿ってきたごみや公害問題等の対策を学んでおきたいとの意欲がいよいよ高まってきているものと考えられる。

くるくるプラザでは、JICA(独立行政法人国際協力機構: Japan International Cooperation Agency)の招待研修を年2回、（公財）地球環境センターを通じて受け入れており、また年によっては中央政府機関、州政府などからの直接の見学要請にも応じている。

一足先に環境問題の解決に腐心し、科学技術とシステムを融合して作り上げた日本の環境対策について学びたいという海外からの要望に、くるくるプラザも現状こうした対応を行なっている。

吹田市のごみ処理施設が視察見学の候補となる理由は、ごみ処理場に環境啓発施設が併設された日本で最初の施設であること、吹田市という中核都市において市内のごみ処理が域内で1箇所に集められ、破碎選別による資源化処理と有害物質であるダイオキシンを生成しない燃焼工場での処理で完結することが、モデルケースとして非常に参考になると考えられることによる。

発展途上にある国々は、初期段階ではごみをそのまま辺境部等に埋め立てることが通常行われる。ただ、嘗ての日本がそうであったように、年を追うごとに加速度的にごみは増加し、埋立地はすぐに飽和状態になり、行き詰まることになる。

次の段階では焼却によるごみの減容処理が採用されるが、燃焼自体がCO₂の発生源となることは回避できず、また燃焼工場が十分に環境適応の整備がなされていない場合は、燃焼時の有害物質発生も制御できず大気汚染や公害を引き起こす。

吹田市のごみ処理システムを海外で導入するには、国（州）内にごみの収集業者を組織し整備すること、さらに現地の人々がごみ出しのルール（分別）を定められたとおりに運用するよう国（州）が教育や指導を徹底するというソフトの部分は勿論のこと、破碎選別や燃焼工場というハードの部分について、経済や軍事等に優先して予算を確保するという政治的な決断が必要になってくる。

4 おわりに

途上国の状況を考えると、視察見学後に海外でごみ処理等の環境問題について実際に行動変容が生じているケースは少ないのかもしれないが、最近JICAの研修でくるくるプラザを訪れたフィリピン人の研修生が自国に戻った後に、衣類の「あげます・もらいます」をまねて所属する機関で古着の回収・展示・販売を始めたというニュースが耳に飛び込んできた。こうした小さくとも嬉しい成果の積み重ねがいずれ大きな果実となって帰ってくることを信じて、海外からのさらに多くの視察見学の受入に努めていきたい。

市民とお店をエコでつなぐプロジェクトチーム

プラごみ・食品ロスを中心として

I P T 全体報告

1 はじめに

2 「プラスチックごみ削減」の研究活動の継続

- (1) 調査・研究活動の目的と概要
- (2) 「プラスチックごみ」の情報収集・勉強会
- (3) 第三回我が家家のプラスチックごみ調査
- (4) 脱プラスチックの重要性
- (5) 市民とお店P T研究員の自由研究
- (6) 分析、考察、提案



3 「食品ロス削減」の研究活動の継続

- (1) 日本の食品ロス量の推移
- (2) 「食品ロス削減」の情報収集・勉強会
- (3) 「明治なるほどファクトリー大阪」工場見学
- (4) 分析、考察、提案



4 市域での協働活動の展開

- (1) 環境出前講座活動
- (2) 吹田市ごみ減量再資源化推進会議への参加
- (3) その他
- (4) 分析、考察、提案



5 おわりに

II 各研究員の研究報告

資料 食品ロス量の推移（平成25～令和4年度）

市民とお店をエコでつなぐプロジェクトチーム

打越 明美* 五十川有香 糸永 陽子*
小池 順子 福田 規子 松浦真理子*
菊田 善雄* 馬場慶次郎 吉田 竹文* (*印は執筆者を示す)

市民とお店をエコでつなぐP T調査・研究

プラごみ、食ロスを中心として

I PT全体報告

1 はじめに

私たちのPTは「プラスチックごみ削減」「食品ロス削減」を研究テーマに掲げ活動している。

2024年度はコロナ明けでもあり、食品工場の見学をはじめ下記の研究活動を行った。

(1) 「プラスチックごみ削減」の研究活動の継続

- ・ホームページ、新聞等からの情報収集
- ・「プラスチックごみ削減」に関する環境出前講座「すごろくゲーム」の実施

(2) 「食品ロス削減」の研究活動（継続）

- ・ホームページ、新聞等からの情報収集
- ・環境出前講座「食品ロスすごろくゲーム」の実施と更新

(3) 市域での協働活動の展開

- ・環境出前講座活動
- ・「吹田市ごみ減量再資源化推進会議への参加・協働」

プラスチックごみの地球環境への影響及び各国の脱プラスチックの取り組みについては 2024 年発行の第 31 巻研究報告書で述べた。

私たちPTは、特に「お店」から出る「プラスチックごみ」（食品トレー、ペットボトル、レジ袋等）を中心に研究している。

そして今年度 10 月より、市民とお店PTの各研究員が各々研究テーマを持ち研究を始めている。10 月からなので下半期と来年度も研究を続ける予定である。

以下、順に報告していきたい。

2 「プラスチックごみ削減」の研究活動（継続）

(1) 調査・研究活動の目的と概要

「プラスチックごみ削減」を研究し広く啓発活動

に生かすことをテーマとした。

2024 年度も「プラスチックごみ」についての一般的な知識を新聞、ホームページ等で収集し、定例会では主担当の先生を交えての勉強会も行った。

(2) 「プラスチックごみ」の情報収集・勉強会

ホームページ、新聞等から「プラごみ」に関する項目を選び出して定例会で勉強した。

以下に、収集したタイトルの一覧とそれぞれの概要を記す。

①毎日新聞「プラ汚染規制へ政府間交渉開始」

2024 年 4 月 25 日

厳しい規制をどこまで盛り込むかを巡り各国の隔たりは大きく、交渉は難航が予想。欧州連合（EU）やアフリカの国々は、世界共通の削減目標やプラスチックの生産制限を盛り込む厳しい規制を目指す。

②毎日新聞「プラ規制隔たり、追加協議を設定 政府間交渉委閉幕」

2024 年 5 月 2 日

次回に条約案の合意を目指すが、どこまで厳しい規制を盛り込むかを巡って各国に隔たりがあり、意見集約が進まなかった。

③NHKニュース「どうなる？“プラスチック条約”」

2024 年 5 月 10 日

政府間交渉の課題はいろいろあるが、大きな焦点は新規のプラスチックの生産規制まで踏み込むか？である。

④毎日新聞「漂流微小プラ、分布を可視化」

2024 年 5 月 17 日

環境省は世界中の海面を漂う微小なプラスチック粒子の調査結果をデータベース化し、分布状況などを可視化したウェブサイトを公開した。

⑤毎日新聞「黒プラスチックも再利用 OK キヤノン、新装置販売」

2024 年 6 月 7 日

燃やすしかなかった黒いプラスチックもリサイクルに——。

⑥毎日新聞「製造業、再生プラ義務化」

2024年6月28日

政府は27日、製造業に対し再生プラスチックの使用を義務付ける方針を固めた。

⑦一般社団法人プラスチック循環利用協会

「廃ペットボトルの行方」 2024年7月31日
日本のリサイクル率は他の国と比べてどれくらいなのか？ペットボトルのリサイクルについて、日本の現状をお話します。

⑧毎日新聞「マングローブ脅かす海面上昇とごみ」

2024年8月13日

西表島（沖縄県竹富町）では、地球規模の環境問題の影響が世界の「縮図」となって現れている。

⑨毎日新聞「微小プラごみ年28000トン」

2024年8月30日

房総半島沖の深海に年間推定2万8000トンものマイクロプラスチック（MP）が沈んでいるとの観測結果を、海洋研究開発機構の研究チームが明らかにした。

⑩毎日新聞「プラ汚染解決へ 条約案を集約」

2024年10月25日

政府間交渉委員会のレイス・バジアス議長が23日、東京都内で講演し、「汚染を終わらせる効果的な条約案を取りまとめたい」と語った。

⑪毎日新聞「プラ流出防止義務化」

2024年11月1日

プラスチックごみによる汚染防止条約について、生産から使用後までプラ製品のライフサイクルを通じて環境への流出防止策を講じることを締約国に義務づけることなどが盛り込まれている。

⑫毎日新聞「プラ汚染 深刻化」

2024年11月10日

自然環境にどのくらいあるの？ 川に1億トン、海に3000万トン蓄積。

⑬毎日新聞「人工芝由来の微小プラ流出どう防ぐ？」

2024年11月19日

指針ではMPの流出を防ぐため、流出経路の確認の仕方、排水溝などに設置するフィルターの選び方、人工芝の維持管理の仕方などについてまとめていく。

⑭毎日新聞「プラ汚染対策 深い溝」

生産規制に産油国反発

2024年11月21日

⑮毎日新聞「プラ条約へ大詰め」

2024年11月24日

最終会合では、プラごみの適切な管理や各国の事情に応じた対策強化に関する条文案を中心に交渉を進めていることが検討されている。

⑯毎日新聞「人体からプラ検出」 報告相次ぐ

2024年11月26日

東京農工大の高田秀重教授（環境化学）らのグループは今年、日本で初めて、血液からプラスチックが検出された事例を報告した。

⑰ヤフーニュース「プラスチック条約、最後の政府

間会議始まる」

2024年11月25日

プラスチックの生産量上限を強制的に設定するのではなく、リサイクルなどプラスチック廃棄物の削減に向けた解決策に重点を置くよう求めている。

⑯NHKニュース「プラスチックめぐる国際条約 合意意見送り 各国の隔たり埋まらず」

2024年12月2日

今後の交渉ではプラスチックの生産から廃棄まで包括的な規制と産油国を中心とした懸念をうまくすりあわせていくことが大きな課題になる。条約に対する社会の期待は非常に大きいので、各国には意見の隔たりを埋め着地点を探ることが期待される、と話していた。

⑯毎日新聞「マイクロプラ研究 東大チーム」

魚、海水中の方が排出困難

2025年2月4日

東京大の研究チームが、海水と淡水の両方に適応できるメダカの一種を使い、マイクロプラスチックの体内残留と排出について両方の環境で比較した結果、海水中の方が残留量が多いことを突き止めた。

以上、2024年度の新聞やニュース記事から読み取れることは二つある。一つはマイクロプラスチックに関する条約の成立に向け努力が重ねられたが、生産まで踏み込む先進国と、産油国始め多くの国の利害が錯綜して締結に至らなかったことである。

今一つは、海洋プラスチックがもたらす被害の深刻さが指摘されるとともに、マイクロプラスチックが人体中に蓄積しているとの研究結果が報告され始めたことである。

今後ともマスメディアの情報に目を向けて、プラスチックに関する動向を把握していきたい。

(3) 第三回我が家のプラスチックごみ調査

2024年3月23日（土）「我が家のプラスチックごみ調査」の第3回目を行った。今回は7家族15人分の各家庭から出るプラスチックごみ3日分を集めての調査である。

7家族15人分（のべ21日、105人日）の プラスチックごみの集計・内訳

吹田市の店頭回収透明トレー	310g(14.2%)
吹田市の店頭回収プラトレー	120g(5.5%)
吹田市の回収しているペットボトル	80g(3.7%)
分けることのできない回収トレー	395g(18.2%)
プラ表示のみ種類の分からなもの	480g(22.1%)
プラ表示も無く分別しにくいもの	760g(34.9%)
ハンガー1本他	30g(1.4%)
合計	2175g(100%)

総計 2175 g ÷ 15 人 ÷ 3 日 = 1 人 1 日当たり約 48.3 g



7家族分のごみ



分別



計量



ブレインストーミング

プラスチックごみは、皆さんのがきれいに洗って持参していただきたいので、分別・計量作業もスムーズにできた。

ブレインストーミング結果

- ・プラの表示が分かりにくい
- ・分別不能なプラが多い
- ・菓子の個包装が多い
- ・ペットボトルが少ない（若い世代が少ない為？）
- ・詰め替えパックは洗うと下水道量が増える
- ・自治体によってプラ回収の方法が異なる

等々

2年ぶりの調査だったが、皆さんの協力で約一時間で終了した。また、3日分では量が少なく、食品が多かった。家庭によって一人当たりのプラスチックごみの量にバラツキがある。

市民研究として細かく分ける作業は分析のためと

はいえ苦労し、辛い。

以上の調査から「容器包装」に関する提案を考えてみた。

- ・パック容器はサイズ等共通化した方が回収しやすい。
- ・プラ素材の多さ、複合素材の多さ、種類を減らせないか。
- ・吹田市の分別で、トレーで分けてよいもの、悪いものの区別は市民にとって難しすぎる。
- ・自治体が同じ分別方法をとれないか。
- ・プラスチックを質別に分別するのは大変。
- ・洗えないフィルムが多いのをどうするか。

等々

(4) 脱プラスチックの重要性

プラスチックごみの排出が国際的に危険視されている理由は以下の3つが挙げられる。

① 地球温暖化の進行

地球温暖化は、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスが大量に大気へ放出されることで、地球の気温が上昇し、あらゆる自然環境のバランスが崩れてしまう現象。地球の気温が上昇することで、異常気象による自然災害が増加したり、干ばつによって食糧危機が深刻化する恐れがある。

ほかにも、海の水温が上昇することで熱膨張が起きたり、北極などの氷河が溶け海面が上昇することで居住地が減少していくといった恐れも危惧されている。

プラスチックのほとんどは石油で作られているため、製造・処分・経年劣化にわたるすべての過程で温室効果ガスを排出している。少しでも地球温暖化の進行を防ぐため、一刻も早い脱プラスチックへの取り組みが必要だといえる

② 海洋プラスチック問題

プラスチックごみは、毎年約800万t（ジャンボジェット機にして5万機相当）におよぶ量が海洋に流出しているといわれている。

使い捨てで海に放流されてしまったプラスチックごみは、分解されることなく漂流し続けるので、破片を魚や海鳥が誤飲してしまったり、触れることで怪我をしてしまうと、最悪の場合死んでしまうこともある。実際に海に生息しているアザラシやウミガメなどが、捨てられたプラスチックごみに絡まり、

そのまま餓死してしまったという例もある。

海洋プラスチック問題は海に住む生物たちに危険を及ぼしており、生態系のバランスに悪影響が出ることが危惧されている。

③ 健康被害の懸念

長く海を漂流したプラスチックは、海水に含まれる汚染物質を吸着しながら少しづつ小さくなり、やがてマイクロプラスチックとなる。

魚はプランクトンなどを食べながら生きているため、マイクロプラスチックを同時に摂取してしまうことも少なくない。

マイクロプラスチックを摂取した魚や生物を人間が食べることで、間接的に人間の体内にも取り込まれてしまう。

マイクロプラスチックが人体へもたらす具体的な影響はまだはっきりとは解明されていないが、ある研究では実際に血液や便からもマイクロプラスチックが検出されている。有害な化学物質が体内に蓄積されて健康被害を引き起こす恐れがあると指摘されており、脱プラスチックの取り組みを進めることは、人類の健康被害を回避することにもつながる。

◎ 脱プラスチックはなぜ意味ないと言われるのか 個人の取り組みが評価されにくい。

脱プラスチックの取り組みとして日本で大きな関心を集めめたのが「レジ袋の有料化」である。

その際、国や自治体からお店や個人に向けて不要なレジ袋を削減する声かけがされたが、個人で数枚のレジ袋を削減したところで意味はあるのかといった疑問の声が多く上がった。また、レジ袋をゴミ袋として使用している人もいたため、「レジ袋をごみ袋として使っていたので、結局レジ袋が無ければごみ袋を購入するだけでは？」といった声もあった。

一人ひとりの取り組みは規模も小さく、意味がないと感じてしまうこともあるかもしれないが、環境省の調査によると、レジ袋の流通数は有料化前と比べて約10万トン削減されたと報告されている。

確かに脱プラスチックは個人の取り組みが評価されにくいが、国や企業によってそもそもその生産量を減らしつつ、日々の生活では一人ひとりが意識していくことが重要である。

◎ 脱プラスチックのデメリット

脱プラスチックを進める上で大きなデメリット

は、コスト面と使用感の変化である。

代替品の多くはプラスチックと比較すると高価で、プラスチックよりも重いため輸送コストもかかる。また製品の入れ替えに伴う手間や、今までの仕入れの流れを変える手間も発生してしまう。

使用感の変化という面では、紙ストローへの変更に伴い飲み物が不味くなったと感じる人も多いのでは？他にも、紙袋や木製カトラリーへの変更で耐久性が低くなるなど、不便になったと感じる人が少なくない。一方、近年では、このようなデメリットが少ない脱プラ製品の開発も多く進められている。

プラスチックの個包装を無くすることでプラスチック削減を実現している企業もある。

特に飲食店などでは、卓上準備の手間を省くことができるうえ、プラスチックごみの回収・分別が不要で利用後の清掃の効率化も期待できるため、脱プラスチックだけでなくあらゆる面でメリットが得られる。

◎ 脱プラスチックの取り組み例

・個人でできる脱プラスチックの取り組み

レジ袋の使用を控える

ペットボトル飲料水を買わない

使い捨てカトラリー類の使用を控える

・企業が始めやすい脱プラスチックの取り組み

紙袋や紙ストローで使用される紙素材は、自然の条件下で分解されるうえリサイクル率も高くサステナブルに優れた素材。

また木材は加工がしやすく、デザイン次第でさまざまな製品を作ることができる。デザイン性も高く消費者からの印象も良いため、企業としては始めやすい取り組みといえる。

他にも、木材素材を使って開発された脱プラスチック製品も多数あるので、導入を検討する。

脱プラスチックは個人の取り組みが評価されにくいため、意味がないと感じてしまうこともあると思うが、国や企業と力を合わせ、地道に進めることが重要である。

プラスチック製品の手軽さを放棄するというデメリットはあるが、さまざまな利用シーンなどを想定し、まずは始めやすい脱プラスチックの方法を見つけることから始めてみよう。

(5) 市民とお店P T研究員の自由研究

2024年10月より、市民とお店P Tの各研究員が各々研究テーマを持ち研究を始めている。

個人別の研究テーマ

- ①打越 「スーパーの食品トレーの動向と課題」
- ②糸永 「ペットボトル回収機について」
- ③松浦 「日常生活における一次マイクロプラスチック発生抑制について：LOHASの実践を通じてみえてきたこと」
- ④吉田 「身近な中食容器の実情と課題」
- ⑤菊田 「出前講座 “プラスチックごみすごろくゲーム” の新開発」

以上の各人の研究は本文の後に記すのでご覧頂きたい。

尚、10月から研究を始めたので、来年度も研究を続ける予定である。そして、2025年4～5月頃に進捗状況を発表してもらう予定にしている。

(6) 分析、考察、提案

いま世界的な問題となっている海洋ごみは、街の中で出たごみが河川などを伝って海へ流れ込んだものが7～8割を占めている。

中でも海洋プラスチックごみは、自然界の中で完全に分解されることなく途方もない年月をかけて海をさよい、海に暮らす生物に対し悪影響を与え、生態系のバランスを崩す原因となっている。

海へ流れ込む大量のプラスチックごみを無視することはできない。

私たち一人ひとりの取り組みも、海洋プラスチック問題解決には欠かせない。不要なプラスチックを消費しないために、マイバックやマイペットボトルを持参したり、プラスチックごみをリサイクルして再活用したりと、今日からでも簡単に行える取り組みはある。海洋プラスチック問題解決に向けて、できることから始めていくべきだと思う。

2022年4月、「プラスチック資源循環促進法」が施行されたが、国はプラスチックごみの問題にどう向き合うのかを明確にするとともに、さまざまな主体が本気で削減に取り組まなければならない。

3 「食品ロス削減」の研究活動の継続

日本の食品ロスは、2022年度に約472万tと推計されている。(家庭系約236万t、事業系約236万t)これは、国民1人あたりに換算すると年間約38kg、毎日約103g(おにぎり約1個のご飯の量(約110g)に近い量)の食べ物を捨てていることになる。

一方、日本の食料自給率は諸外国に比べて低く、輸入に頼る部分も多い。こうしたことを考えても、たくさんの食べ物を廃棄している現状を変えていく必要がある。

食品ロスに関しては、「持続可能な開発目標(SDGs)」のターゲットの1つとして、2030年までに世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させることが盛り込まれている。

(1) 日本の食品ロス量の推移

2012年度から2022年度までの食品ロス量の推移を最終ページに示す。2022年度は約472万t(事業系約236万トン、家庭系約236万t)。

食品ロス量は2015年度の646万tをピークに減少傾向にある。2021年度はコロナ禍の行動制限によって事業者の需要予測が難しくなり、事業系の食品ロスが増えたため全体でも6年ぶりに増加した。2022年度は再び減少に転じて472万tとなったものの、前述したように、国民1人あたり、1日におにぎり約1個分にあたる約103g、年間約38kgの食品ロスを出している計算になるという。

2022年度食品ロス量が51万t減少した理由として

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、飲食店が営業を縮小したり一時閉店したため、外食による食品ロスが減少した。
- ・多くの人が自宅で食事をするようになり、家庭での食品管理が改善された。
- ・食品サービス業界でテイクアウトやデリバリーの普及が進んだことで、食品の在庫管理がより効率化された。
- ・端材の利用や注文ルール、仕入の工夫により食品の廃棄が減少した。

等の理由が考えられる。

事業系食品ロスの減少の理由については、新型コロナの影響による市場の縮小等の影響があるものの、

納品期限、いわゆる『3分の1ルール』の緩和や、賞味期限の延長等の商習慣の見直し、『てまえどり』の促進など食品事業者の努力によるところが大きい。

食品ロスを2030年度までに2000年度の980万tからおよそ半減させることを目標にしていて、メーカーが調べた商品を安全に食べられる期限からどの程度余裕をもって消費期限を設定するかの基準になる数値である「安全係数」を引き上げ、賞味期限をのばしたい考えだ。

2030年度目標は489万t（事業系273万t、家庭系216万t）となっている。

（2）「食品ロス削減」の情報収集・勉強会

ホームページ、新聞等からの下記項目を情報収集しメンバーと共有した。

①毎日新聞、「なるほどドリ フードシェアリングサービスって？」 2024年5月9日

飲食店売れ残り情報、アプリで共有し販売

②毎日新聞、「コメニ 米粉売り込み」 2024年6月18日

農水省に有志15人の特命チーム ブーム再び
食料自給率アップを

③「食品ロス削減の重要性」 2024年6月30日
食品ロス削減を行うメリット、食品ロス削減の手法

④日本経済新聞、「ファミマ、「涙目」値引きシールで食ロス削減 全店舗に」 2024年12月26日

1年間の食品ロス関連の記事数は以前の年度に比べて激減している。それだけ、社会に「食品ロス」が浸透したことだろう。浸透てきてニュース性はなくなったとはいえ、食品ロス問題が解決したわけではないといえるだろう。

（3）「明治なるほどファクトリー大阪」工場見学

5月17日（金）、高槻市にある「明治なるほどファクトリー大阪工場」様を有志6人で訪問した。

研修目的は、食品ロスを研究していて、ごみ問題、環境への影響、資源の枯渇を含めた食品ロス対策を研究するため。また、クリーンで環境にやさしい工場を目指されているので見学した。

こちらの工場では、チョコレートの製造工程の見学やチョコレートの栄養素や健康効果の紹介などを

通じて、安全・安心なモノづくり、「食と健康」へのこだわりの取組みについて楽しく学べる。
約50品目のチョコレートを生産している。

見学がスタートするエントランスでは、なるほどファクトリーのキャラクターたちが見学



者を迎えている。貴重なカカオ豆の産地や歴史、さらには栽培からチョコレートのでき上がりまでを楽しく学ぶことができる。又、カカオ豆の加工する前のものと加工した後のもの、産地による香りの違いなどを体験することができる。



「きのこの山」の成型工程から「きのこの山・たけのこの里ファミリーパック」の包装工程までを見学できる。



また、2018年5月21日より、「たけのこの里」の世界観の中で、「きのこの山・たけのこの里ファミリーパック」の包装工程を見学できるラインがオープンした。

見学の最後には投票所にて「きのこの山」「たけのこの里」の人気投票を行っていて、投票結果を楽しめる。



そして、工場の巨大な板チョコの看板は、2011年に誕生した世界最大であるプラスチック製広告

看板で、ギネス世界記録に認定されている。

また、この設備で発電されたエネルギーはお菓子を製造する機械や照明などに活用していて、そのことにより、地球温暖化防止に貢献している。

そして、大阪府のアドプト・フォレスト制度に基づき、摂津峡付近にある原城山地区の森林再生活動に取り組まれていて、社会貢献活動として工場周辺や摂津峡の美化活動も実施している。

見学当日は一般客と同じ見学であり、チョコレ

ト生産過程を見せてもらっただけで何か物足りなさを感じ、食品ロスの研究には関係なかったと反省している。事前に企業への見学趣旨や要望などを伝えることが大事だろう。

(4) 分析、考察、提案

食べられるはずのものが捨てられるだけではなく、ゴミの焼却にともなう環境問題も深刻で、水分を多く含む食品の焼却には多くのエネルギーが必要なうえ、処理費用も掛かる。また、焼却時には二酸化炭素(CO₂)が排出され、焼却後の灰を埋め立てる土地の問題も発生する。もし、食品ロスを100トン削減できれば、46トンもの二酸化炭素を削減できる。

(参考文献5)

政府は2030年度の日本の家庭系食品ロス、事業系食品ロスをそれぞれ2000年度と比べて半減させることを目標とし、様々な取組を進めている。近年の食品ロス量は減少傾向にあるが、「半減」の目標を達成するためには、一人ひとりが食品ロス削減の意識を持って取り組んでいくことが大切である。

家庭内の食品ロスについては、①食べ残し57%、②傷んでいた23%、③期限切れ11%（賞味期限切れ6%、消費期限切れ5%）の順で多いことが分かっている。（参考文献6）

食品ロスを減らすための小さな行動として、買物時に「買すぎる」、料理を作る際「作りすぎる」、外食時に「注文しすぎる」、そして料理を「食べきる」ことが重要である。

買い物をする前に、冷蔵庫の食材をチェックして、必要な分だけ買って、食べきり、期限表示を知って、賢く、意識して日頃から行動していきたい。

次世代を担う子供たちに、食べ物を粗末にすることはいけない事で「もったいない」こと、国の食料自給率が39%しかなく、60%もの食糧を輸入していることを伝え、家庭や学校での食べ残しをやめるよう呼びかける。

4 市域での協働活動の展開

(1) 環境出前講座活動

これから時代を担う子供たちに、地球の限られる資源を大切に使い、持続可能な社会を構築するためには何ができるだろうかを問題提起し、3R推進の

重要性を理解出来るように、リデュースとリユースにもなる「おもしろ風呂敷」講座と、「ゴミの12種分別ゲーム」講座、「エコなお買い物ゲーム」講座、そして「食品ロスすごろくゲーム」講座、「プラスチックごみすごろくゲーム」を市内小学校で実施してきた。

① 2024年度の環境出前講座の状況

体験学習実施小学校	4校 4講座
クラブ支援実施小学校	8校 21講座
吹田第五中学校	1校 2講座
公民館	3館 3講座
延べ	30講座 471人受講

2023年度は延べ16講座279名の受講数だったが、2024年度は上記の出前講座を実施することができた。（中学校と公民館での出前講座が実施できた。）

② 出前講座「食品ロス削減すごろくゲーム」「プラスチックごみ削減すごろくゲーム」の実施

「プラスチックごみ削減すごろくゲーム」を新たに企画・実施でき、出前講座のレパートリーを増やすことができた。

③ 「風呂敷講座」の動画未活用

「風呂敷講座」の名称を「おもしろ風呂敷」講座に変更した。

昨年度、動画を作成したが活用できていない。

動画の活用については今後検討し改良もしていかたいが、出前講座での使い方やホームページ掲載も考えていきたい。

(2) 吹田市ごみ減量再資源化推進会議への参加

会議は、学識経験者、市民団体、事業者、行政が集まり構成されていて、年2回行われる。

2024年度 第1回 2024年7月9日(火)

議案) ①会長・職務代理者の選出について

②吹田市ごみ減量再資源化推進会議

設置規定の改正について

③食品ロス削減について

ア) 2024年1月に開催したフード

ドライブの取り組み結果

イ) 2024年のてまえどりキャンペーン

④その他

ア) EXPOグリーンチャレンジ参画

イ) 廃食用油の回収について

ウ) その他

- 2024年度 第2回 2025年2月7日（金）
議案) ①北摂7市3町と民間11事業者との協定の進捗報告
- ・2月18日のイベントについて
- ②市からの報告
- ・食品ロス削減について
 - 2024年8月に開催したフードドライブの取組結果
 - ・2024年10月に実施した「てまどりキャンペーン」の結果
 - ・「オホホ サイクル プロジェクト」への参画について
- ③ディスカッション
- ・マイバック持参率向上について
- ④その他

吹田市ごみ減量再資源化推進会議に参加して感じることは、製造業者、販売業者は食品ロス、プラごみの減量に努力されていることと、行政はその努力を市民（消費者）に見える（知らせる）工夫をしてあげるべきで、消費者は、企業努力にコストがかかっているのを理解することだと思う。

(3) その他

- 「もったいないバザール」での
“風呂敷包み方講座”
- 
- 11月20日（日）開催。
2023年度に続き今年も「もったいないバザール」で
“風呂敷包み方講座”を実施した。

(4) 分析、考察、提案

コロナが治まって、小学校での環境出前講座実施校は増えてきている。2024年度は、小学校のクラブ支援以外に中学校1校の出前講座が2回実施できたと公民館での出前講座が3か所で実施できたのがよかったです。

今後は、私たちが考えた動画を使っての講座や4講座実施で楽しく参加し学んでもらえるようにしていきたい。

風呂敷を活用する文化は衰退してしまったが、風呂敷使用のお買い物袋が活用されると、風呂敷が見

直されるチャンスでもある。私たち大人がもっと風呂敷を活用する生活習慣を身に付け、新しい文化として受け入れてもらえる努力をしていきたい。

「おもしろ風呂敷」については、家庭内での風呂敷使用が無くなっているので、“バンダナ”だけでの講座を続けるか、他の講座を開発するかを話し合ってみようと考えている。

4講座で学んだことを生活の場での実践行動に繋げるにはどうしたらよいかを引き続き考えていく。

また、家庭でのコミュニケーションを図り、家族で環境意識を高めてもらうために“すごろく図”を利用してもらえるよう、出前講座終了時に訴える。

5 おわりに

2025年度の活動計画は次の事項を考えている。

私たちのPTでは引き続き、世界的に問題となっている「食品ロス削減」問題と「プラスチックごみ削減」問題を、行政の考え方と方向に合わせて、どう解決すべきか、活動すべきかの研究を行う。

広く市民に伝える方法として、公民館等での出前講座を増やしていくように事務局にお願いしたい。

(1) プラごみに関する調査研究

- ① 2022年4月施行された「プラスチック資源循環促進法」について、行政・スーパー等の取り組み、進捗状況の確認・研究。
- ②「プラごみ削減」の訴求・告知活動をどのように進めていくかを引き続き検討する。
(たとえば、「我が家のプラスチックごみ」調査の提言内容を参考に、また環境出前講座「すごろくゲーム」の実施等)
- ③ 2025年度工場見学先として、再度「エフピコ西宮工場」様を検討したい。
- ④ PTメンバー各自の研究テーマを追求し深掘りする。

(2) 食品ロス削減に関する研究継続

「食品ロス削減」問題については、「食品ロスすごろくゲーム」講座を通して子供たちに食べ物の大切さ、食べ物への感謝、「もったいない」の心を伝え、世界には飢えに苦しんでいる多くの子供たちがいる一方で、日本では大量の食品が無駄にされている現

実を教える。

また、持ち帰り用「すごろく図」で遊んでもらって「食品ロス削減」問題に家族みんなで関心を持つてもらえるよう訴えていく。

(3) 環境出前講座の実施

小学校でのクラブ支援で「おもしろ風呂敷」「お買い物ゲーム」「ごみの12種分別ゲーム」「食品ロス削減すごろくゲーム」「プラスチックごみ削減すごろくゲーム」を行い、また動画活用の講座も検討してみたい。

各講座の終了時には当日の資料を配布し、講座の趣旨を説明する。資料に関しては、見直しが必要な箇所があるのでチェックする。そして、学校OBの先生方に助言を頂きながら、児童がより一層理解しやすく楽しい講座を目指して改良を重ねていく。

(4) 吹田市ごみ減量再資源化推進会議に協働・参加

2018年5月、「すいたレジ袋削減・マイバック推進協議会」は解散になり、市の一般廃棄物処理基本計画の施策に基づき、発生抑制型社会の構築を目指して、市民、事業者、行政の三者から成る「吹田市ごみ減量再資源化推進会議」が発足した。

構成団体のメンバーとして引き続き参加協働する予定である。

以上の4つの柱を据えて、実行可能な計画を立て、早い時期から取り組んでいきたい。

参考文献

1) 日本財団ジャーナル

<https://www.nippon-foundation.or.jp/>

(2025年3月10日閲覧)

2) (一社) プラスチック循環利用協会「プラスチックのはてな」

<https://www.pwmi.jp/library/library-1445/>

(2025年3月10日閲覧)

3) NPO 法人日本もったいない食品センター「日本の食品ロスの現状」

<https://www.mottainai-shokuhin-center.org/now/>

(2025年3月10日閲覧)

4) (一社) Social Innovation Japan 「「給水」で、

世界を変えよう。」

<https://www.mymizu.co/> (2025年3月10日閲覧)

5) 農林水産省

<https://www.maff.go.jp/> (2025年3月10日閲覧)

6) 消費者庁

<https://www.caa.go.jp/> (2025年3月10日閲覧)

7) SAWANNA

<https://www.sawanna.jp/> (2025年3月10日閲覧)

(菊田善雄)

II 各研究員の研究報告

出前講座“プラスチックごみすごろくゲーム”的
新開発

菊田善雄

1. はじめに

これまで各種の出前講座を開発してきた。その経験を活かしPTとしてプラスチック問題を題材にした新しい講座を開発・制作した。

本講座では小学校高学年でも理解でき、プラスチック問題に关心を持ってもらえるように楽しみながら学べるクイズ問題（3択又は○×）を考えた。

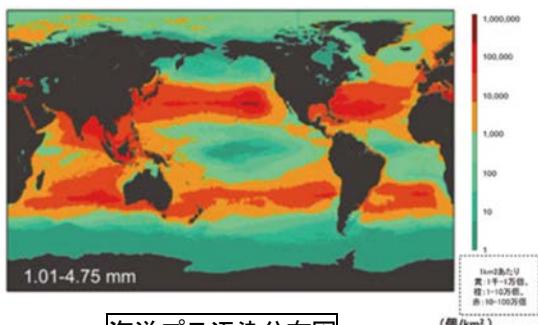
2. 講座の流れ

- ア) プラスチックとは、
- イ) プラスチックの問題とは、
- ウ) 今、私たちができることを考える
- ア)～ウ) の説明は、下記エ) を見せながら行う。

3. 講座の進め方

- ア) 「食品ロスすごろくゲーム」と同様、「プラスチックごみすごろくゲーム」を作成する。
- イ) パソコンとプロジェクターを使用し、クイズ問題（34問）を出しながら講座を進める。
- ウ) 「プラスチックくず」「マイクロプラスチック」の現物見本を見せる。（各5～6セット用意）
(現物見本を見せた方が効果的)

エ)



海洋プラ汚染分布図

海洋プラスチックごみが完全に自然分解されるまでに必要な年数



海洋プラごみが分解されて細かくなる年数



奈良公園の鹿の胃内画像

4. 講座内容

ア) プラスチックとは？

「プラスチック」は、「合成樹脂」ともいわれる。人工的にたくさんの分子を合成したものがプラスチック。

「プラスチック」という言葉は、英語で「自由に形をつくれる」という意味で、そのような性質をもつ製品を「プラスチック」と呼ぶようになった。

イ) プラスチックの問題とは、

生態系の問題、地球温暖化の問題、マイクロプラスチック問題、海洋プラスチック問題。

- ・マイクロプラスチックとは、直径5mm以下の微細なプラスチック片を指し、海洋汚染の大きな原因とされている。

プラスチックは自然に分解されないためマイクロプラスチックは主に海へ蓄積されていく。細かくなつても自然分解することではなく、数百年間以上もの間、自然界に残り続けると考えられている。

- ・大気にも漂うマイクロプラスチック。身近な発生源と人体への影響。
- ・マイクロプラスチックは、ありとあらゆるプラスチック製品から発生する。
- ・マイクロプラスチックは、海だけでなく空気中にも含まれている。
- ・マイクロプラスチックが増え続けると、人体にも影響が出る。

ウ) プラスチック問題＝私達の暮らしと命の問題

- ・プラスチック問題は、暮らしと命につながる問題でもある。
- ・このままでいけば、5年以内に大きな環境の変化が起きるかもしれない。
- ・いま私たちは地球の環境を左右する重要な分岐点に立っている。

- エ) 問題の解決のため、いま私達にできること
- ・製品を選ぶとき、環境への配慮についても考えてみる。
 - ・大切な道具を修理しながら使い続けることも大切である。
 - ・消費者側が積極的に環境意識を高めて、商品と企業を見極める必要がある。

ゲーム終了後、プリントを配布し説明、質疑応答。
最後に、感想を聞いてみて修正等行っていく。

5. これまでの実施内容と今後の取り組み

「すごろくゲーム」に関しては、「食品ロス」を題材にした「すごろくゲーム」を実施していたので、「プラスチックごみすごろくゲーム」に関してはクイズ問題を考えるだけで実施可能だった。

「食品ロスすごろくゲーム」はコロナ前に企画制作したがコロナで約3年弱実施できず、これまでの実施校は9校(食品ロス7校、プラごみ2校)のみ。

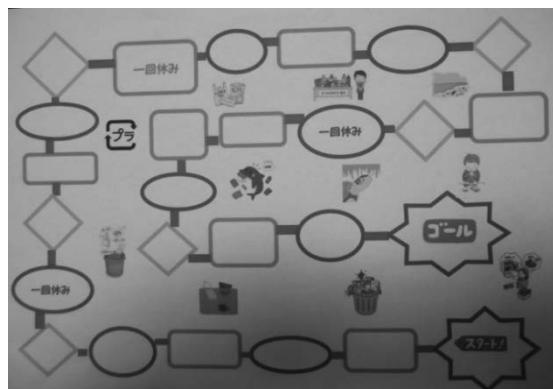
5人1組でのグループ対抗戦で進めていくが、人数が足りない場合は先生に入っていただく。

5~6人の場合は良いが4人のグループが出来るとそのグループが早く上がってしまう人が出るので調整が難しい。

「食品ロスすごろくゲーム」は当初クイズ問題を口頭で実施していたので、盛り上がりてくると騒がしくなり声が聞き取りにくくなることが多かった。そこでパソコンとパワーポイントを使った講座に変えて改善を図った。

クラブ支援の場合、どのグループにも4~6年生に入ってもらうようにグループ分けする。

また、今年度より「すごろく図」のマスを5マス増やすようにした。



5マス増やした新すごろく図

クイズ問題に関しては、先生と相談しながら難しい問題は省いていき新しい問題を入れ替えていく。

「すごろくゲーム」は概ね好評だが、授業時間が45分と60分では45分授業の時間配分が難しい。

そして、ゲーム終了後にプリントを使用して「食品ロス」「プラごみ」について説明している。

参考文献

- 1) 海洋プラ汚染分布図
環境省 令和2年度版環境・循環型社会より
- 2) 海ごみが分解されて細かくなる年数
IN YOU journal より
- 3) 奈良公園の鹿の胃内画像
獣医師 鹿のプラスチックごみ誤飲記事より

スーパーの食品トレーの動向と課題
打越明美

1. はじめに

人口40万人の吹田市にはスーパーが33店舗ある。吹田市では、食品トレーは市の12種分別の対象ではなく、スーパーでの自主的な回収とされている。各スーパーでは食品トレーを含む複数の回収ボックスを置き、回収している。

食品トレー回収状況の現状がどのようにあるか、まとめてみました。

2. 食品トレーの用途

食品トレーは以下のような食料品を載せるために使われる。小さい物は散らばらないように。かたちが壊れ易いものは保護のために使われていることがわかる。またお惣菜など、中食にも使われている。

野菜	キノコ、トマト、シソ みょうが
果物	イチゴ、さくらんぼ スイカなどカットしたもの カップに入っているもの
その他	菓子、饅頭、クッキー ちりめんじやこ、 漬物（カットの物）、塩昆布 お惣菜

3. 食品トレーの回収について

店頭回収出来る食品トレーは次のようなものである。

【店頭回収できるもの】

- ①洗って、乾かしているもの
- ②シールのついているもの（少量可）

【店頭回収出来ないもの】【燃焼ごみ】

- ①汚れているもの
- ②プリントされているもの

回収量を上げるために、市民が汚れを洗ってから持参する意識変容が必要である。プリントされているものについては、再度トレーにすることはできず、たとえばプリントが剥がせるような工夫や、プリントを不要とする市民の意識変容が必要である。

4. シールについて

食品トレーに貼られているシールについても対策が必要である。トレーに貼ってあるシールは

○はがしやすい物

- ・プラスチック製のもの
- ・形状で、くぼみのあるもの

○はがしにくいもの…紙製

これらについても、剥がしやすくする技術的な工夫が必要であるだろう。

シールをきれいに剥がしてなくても、トレーを回収する店舗と、シールが残っているものは回収しない店舗があるのはなぜだろう。

容器回収業者の選定で、各店舗の回収状況は変

表1 吹田市内スーパーの店頭回収調査（2025年2月～3月調査）

店舗	種類						コメント
	透明トレー	牛乳パック	食品トレー	ペットボトル	アルミ缶	その他	
A店 千里山	1	1	1	2			シールの貼られているものは入っていない
A店 北千里	1	1	2	2			シールのついているものが混ざっていた
A店 南千里	5	2	3	6			近隣の人は洗ってきれいなものを持ってくるが、少し離れている所から来られる人は汚れているものを持ってくるらしい
B店 岸部	1	1	1	3	1		透明トレーの中に発砲トレーが混ざっている
B店 豊津	1	1	1	1			入口2ヶ所あるが、1ヶ所の回収BOX設置
C店 千里丘	1	1	1	2	1		入口付近と店外の2ヶ所設置している
D店 山田		1	1	1			食品トレーに発砲トレーのみ入っていた
E店 千里山		1	1	1			分別、守られているように思った
F店 江坂			1	1	1		外から中が見えない。玉子パックを回収している
G店 新芦屋下		1	1	1			
H店 北千里		1	2	1	1	アルミ(P)1	食品トレーに、シールの貼っているものが混ざっていた
H店 茨木		1	1	2	1		
I店 千里丘	1		1	2		飲料用(P)1	
J店 江坂			1	1	2		ペットボトル回収機が設置
K店 千里丘	1		2	2			

わるようである。

吹田市では、食品トレーは可燃ごみとして扱っているが、増えてもいいのだろうか。

○シールを剥がす方法

【プラスチック製】

洗う前に力を入れて引っ張り剥がす

【紙製】

①水につけ置きしてから

②水にぬらさない

私は湿らせてへらで擦り取っている。

○食品トレイの自宅での保管

- ・ごみ袋に入れると角があつたりするので、袋が破れる。
- ・風があると軽いので飛んでいく。

個人的には以上の取り組みをしているが、一般の人が取り組める方法をどのように周知するかも考えねばならないだろう。

5. おわりに

私たちプロジェクトは2013年(平成15年)に「市民とお店をエコでつなぐPT」として【使用済み食品容器のリサイクル拡大にむけて】のテーマで、店頭回収の現状調査をおこなってきた。今回の調査表より感じたことは、各店舗のBOX設置数は減っているように思う。スーパーはどのように考えているのだろうか。

それと、表示が、**食品トレー**となり、プラスチックトレーを回収している店舗が減ってきている。以前は、**透明トレー**と**発砲トレー**に分けられていた。なぜだろう?

適品を持参する人は、リサイクルされるものだと思って投入しているのに、汚れたもの(不適品)が入っていると、産業ごみになる。

また、透明トレーの中でも、様々な材質(PET APET PS)のプラスチックが使われている。これを一括して食品トレーとして混ぜて回収ボックスに投入しているが、回収された容器はどのようにリサイクルされているのだろうか。

集められた量とリサイクル出来る量の比率はどれくらいになるのだろう。

容器の中には、バイオマスが含まれているものもある。が、自然の木に変わりCO₂を排出しないものにならないだろうか。

今回、調べていて、様々な疑問が湧いて来たので次年度も引き続き、調査していきたいと思う。

ペットボトル回収機について

糸永陽子

1 はじめに

私が初めてペットボトルの回収機を見たのは三重県の中部地区にあるイオン名張店の店頭で、10年以上も前のことである。研究会でプラスチック問題を考えるということで、そのことを思い出し、吹田では、また大阪府ではどのようにになっているのかを調べてみようと思った。十分に調査できているわけではないが、現時点でのわかったことを記してみたい。

2 ペットボトルとは

私たちの周りに氾濫しているペットボトルであるが、そもそもペットボトルとは何なのかを述べてみたい。

2-1 素材としてのPET

ペットボトルとは、合成樹脂の一種である「ポリエチレンテレフタレート (PET)」を素材とした容器のことを言う。

PETの約9割は飲料容器に利用され、他にも調味料、化粧品の容器、非常時のトイレにも用いられる。

ポリエチレンテレフタレートはポリエステルの一種で、略称としてPETあるいはペットと呼ばれる。ちなみにポリエステルには、ダクロン(米)、テトロン(日)、テリレン(英)などの繊維も含まれる。

プラスチック容器に使われる素材の種類としては、AS樹脂(SAN)、塩化ビニール(PVC)、高密度ポリエチレン(HDPE)、低密度ポリエチレン(LDPE)、ポリプロピレン(PP)、ポリスチレン(PS)、ポリエステル(PET)などがあり、それぞれの特徴に応じて用途も異なる。

ここでPETと比較するためにPEをとりあげ、両者の特徴を表1に示す(1)。

表1 PETとPEの特徴の比較

	PET(ポリエチレンテレフタレート)	PE(ポリエチレン)
硬度	硬い	
柔軟性	低い	高い
燃焼性	燃えにくい	よく燃える
耐候性	比較的高い	低い
特徴	耐熱性が高く、高透明で、発色があり、こしが合って硬く、強度がある。	化学的に安定しており、加工がしやすく、比較的低温でシール成形でき安価

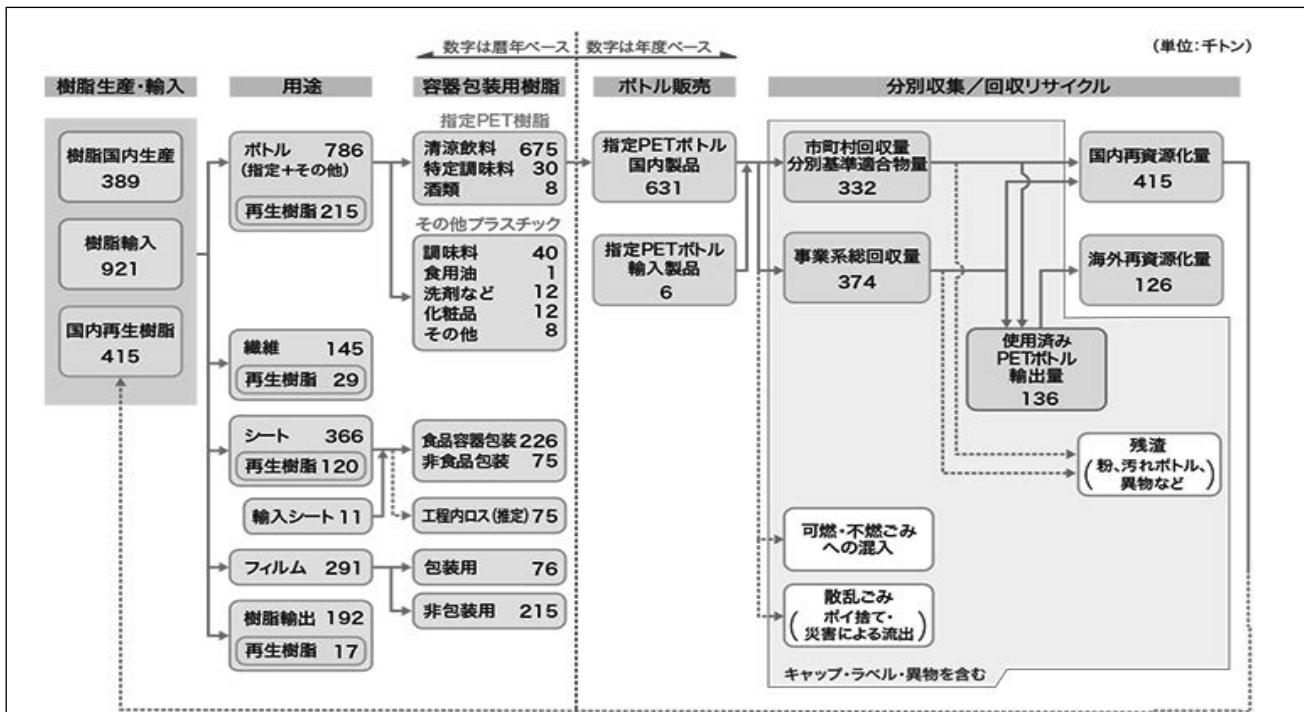


図1 PET樹脂のマテリアルフロー (2023年度)

出典: 文献 (2)

このようなPETの特徴から、ガラス瓶や缶などの飲料等の内容物を保存する容器として急速に使用が拡大した。

なお、PETのマテリアルフローは以下の図1に示される。

2-2 ペットボトルの歴史

ペットボトルは1967年頃に、アメリカのデュポン社が基礎技術を確立し、1973年に特許を取得したことに始まる。日本では1977年に醤油容器として採用され、その後、清涼飲料水や酒類、乳飲料など幅広い用途で使用されるようになった。以下では文献より一部抜粋してペットボトルの歴史を記す。

表2ペットボトルの開発と利用、リサイクルの歴史

開発と利用の歴史	
1967	デュポン社が基礎技術を確立
1973	デュポン社のナサニエル・ワイエスが特許を取得
1974	アメリカで炭酸飲料用ボトルとして使用開始
1977	日本において醤油容器として採用
1982	食品衛生法が改正され清涼飲料容器として使用が認められる
1985	酒類用容器として使用が開始される
1996	500mlペットボトル飲料供給開始
2002	乳飲料容器としても使用が開始される
リサイクルの歴史	
1990年代初頭	PETボトルリサイクルの取り組み開始
1993	PETボトル協議会が大型ペットボトル再商品化施設を建設
1997	容器包装リサイクル法が施行（4月）
2004	内閣府食品安全委員会が再生PET樹脂の食品に直接接する用途への使用を認める

出典：文献(3)、文献(4)

3 ペットボトル回収機の実態

3-1 吹田市内の薬局店頭の回収機

令和6年、吹田市にある一部のS薬局の店頭にペットボトル回収機があることを知り、研究員数名で見学に行った。

そこではS薬局のカードをかざして、キャップを外した、つぶされていないペットボトルを投入すると、5本毎に1Sポイントが付与されることになっていて、5本に満たない場合には次回に繰り越される仕組みである。

S薬局の責任者に聞き取りを行うと、ペットボトル回収機を設置可能なスペースがある店舗（吹田では16店舗中2店舗）に設置し、S薬局のSDGsの取

り組み（ゴミ減量とリサイクル）の一環であるとのことであった。それ以上の詳細な聞き取りはできていない。

3-2 堺市のコンビニ店頭での回収機

大阪府下で他に回収機を設置しているところはないかと検索したところ、堺市のセブンイレブン店頭に回収機が設置されていることがわかった。大阪府内初のコンビニと地域活性化包括連携したペットボトルの水平リサイクル（透明なPETボトルに再生し、何度も資源循環させることで石油由来の資源の消費を削減しCO2排出量を削減できる）を行っている。

2022年10月13日より順次稼働を開始し、回収したものPET to PETでまた飲料として販売することで循環経済を実現しようとしている。

表3 ペットボトル回収機の概要

機械メーカー	（株）寺岡精工
機械サイズ	W650×D500×H1330
収容量	280本（500mlペットボトル換算）
投入PETサイズ	2Lまで投入可

出典：文献(7)

ラベルとキャップを外した後、水で軽くすすぎ、つぶしていないペットボトルを回収機に投入する。ペットボトル5本投入につき1nanacoポイント（電子マネー）が付与される。堺市内の設置店舗は2023年11月の時点で76店舗、2025年3月28日には全国のセブンイレブンペットボトル回収機設置店の数は4319店舗となっている（5）（6）。

4 おわりに

循環経済を作るなかで、こうした回収機によるPETボトル回収が広がることは消費者にとっても取組やすく、税金による分別回収に頼り税負担に転嫁されることなく循環が形成される。行政の回収によるときにはペットボトルを多く使用する人の分を使用しない人も負担することになるが、そうしたことを回避できることにもなると考えられる。

今回は初めての個人研究で、深く掘り下げることができず、今後、普及すべきだとは現時点では明確に示すことはできていないが、今後もこうした回収機による回収システムの可能性について検討してい

きたい。

(文献)

(1) SAITO WARE 「プラスチック容器に使われる素材、種類と特徴について紹介」(2022年7月18日)、

<http://www.saito-youki.co.jp/news/detail.php?id=116> (2025年3月29日閲覧)

(2) PETボトルリサイクル推進協議会「マテリアルフロー」

http://www.petbottle-rec.gr.jp/data.materia_flow.html (2025年3月29日閲覧)

(3) PETボトルリサイクル推進協議会「PETボトルリサイクルの歴史」

<http://www.petbottle-rec.gr.jp/more/history.html> (2025年3月29日閲覧)

(4) クリクラ南九州「【平成】ミネラルウォーター・飲料業界の30年を振り返る」

<http://www.crecla-minami.jp/blog/heisei-history-of-beverageindustry/> (2025年3月29日閲覧)

(5) 堺市「【大阪府内初】セブン-イレブンによるペットボトル回収」

<https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/gomi/torikumi/kaiyo/petbottle.html> (2025年3月29日閲覧)

(6) セブン-イレブン「ペットボトル回収機 設置店舗一覧 (2025年3月28日時点:合計4,319店舗)」

https://www.sej.co.jp/csr/recycling_list.html

(2025年3月29日閲覧)

(7) 寺岡精工「リサイクル関連機器:ペットボトル減容回収機」

<https://www.terao-kaseiko.com/jp/products/category/012/124/> (2025年3月29日閲覧)

「日常生活における一次マイクロプラスチック発生抑制について：LOHAS の実践を通じてみてきたこと」

松浦真理子

1. 目指せ！ チリツモ大作戦

外的な要因で5mm以下にマイクロ化する容器包装や製品（二次マイクロプラスチック）（以下MPsという）は、私たち市民が適切に管理・使用し、廃棄の際適切に排出すれば、環境への放出を防ぐことが可能である。

しかし、一次MPsであるマイクロビーズを含む化粧品や合成樹脂製のスポンジの使用、合成繊維衣類の洗濯の際に、大量のMPsが発生している。MPsは、下水道へ流出し、浄水場のフィルターをすり抜け、河川や海に長期間分解されずとどまり続け、深刻な海洋汚染を引き起こす原因の一つになっている。

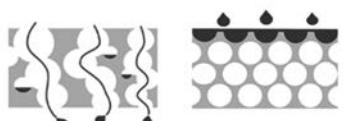
この汚染を止めるることは容易なことではないが、私は、一市民として、今すぐできることがあればトライしたいと考えた。一人一人ができるることは微々たるものだが、1億人が行動すれば大きな力になることを信じたい。

2. 私のこだわり、「セルロース・スポンジ」

2023年10月、自由研究「身近なプラスチックを調べてみよう」で、私の選んだ課題は、「シンクで発生するMPsを減らすこと」である。

早速、Webショッピングで無漂白のセルロース・スポンジを探して購入し、毎日何回も使用するスポンジをポリウレタンフォームからセルロースに替えた。

セルロース・スポンジは、再生可能な木材パルプからつくられ、綿などの天然繊維を加えて補強された100%天然素材の製品である。セルロースの気泡構造は連続気泡であり、その気泡部分が体積の95%を占めている。（図1左）したがって水になじみやすい性質（親水性）を有し、水に触れると毛細管現象で素早く吸水し膨らむのである。（4. ①）



左)連続気泡
右)独立気泡

図1 気泡の模式図（参考文献3）

3. セルロースとポリウレタンフォーム（スポンジ）の主な特徴の比較

ポリウレタンフォームのスポンジが一般的なのは、安価で使用感も優れているからだろう。セルロースは、その泡立ちや耐久性が改良され、広く受け入れられるようになることを期待したい。

表1 セルロースとポリウレタンフォームの比較

	セルロース 100%植物繊維	軟質ポリウレタン フォーム (PUR) 合成樹脂(プラ)
柔軟性	○WET状態	○
弾力性	○WET状態	○
耐熱性	○	○
耐薬品性	○	○
吸水性	○	○*
耐久性	×	△
生分解性	○	×
紫外線	○	×
泡立ち	△	○

注) PURは、軟質タイプ、硬質タイプとその中間があり、家庭用品から産業資材まで様々な分野で使用される。スポンジは、連続気泡である。※特にセルロースは、その特性上ねじり絞りをせず握り絞りをし、防黴のために使用後は乾燥(天日干し)させ、汚れたら重曹を加え煮沸可。

（参考文献 2, 3, 4）

4. セルロースの観察と実験

以下の現象の観察と実験を行い、YouTubeにショート動画を公開した。



①乾燥圧縮のセルロース・
スポンジを水につけると
… (2025. 3. 7)



②セルロース・スポンジ1枚6切れを植木鉢の
土に埋めた。(2025. 2. 27) ③土中で分解される
ことが証明できるか? (2025. 4. 3)



<https://x.gd/jjb2X>



5. DAISO イオン北千里店にてキッチン・スポンジコーナーの調査 2025.3.21

キッチン・スポンジ販売の実態把握のため、近隣で一番品揃えの充実しているお店を調査した。



キッチン・スポンジコーナー

撮影OKとSNSで噂のセルロース・スポンジを発見 (2025.3.7)

表2 樹脂の材質表示記号 JIS 規格

ポリウレタンフォーム	PUR (Poly Urethane resin)
ポリエステル	PEs (polyester)
ナイロン	PA (polyamide)

参考文献 5) 6)

表3 ポリウレタンフォーム・スポンジの品揃え

タイプ	付属物	種類
ネットスポンジ	PEs ネット	11
シートスポンジ	水切れのよい PURのみ	2
2層 or 3層ソフトタイプ	PEs 不織布付	7
2層ハードタイプ	PA 不織布付	2
2層ベーシックタイプ	PEs/PA 不織布付	2
混合タイプ	アソート袋詰め	1
	合計	25

・ハードタイプの不織布には研磨剤入りもある。
・PUR以外の材質：
メラミンスポンジ 10種類以上
PA 製品・PEs 製品等数点
セルロース・スポンジ 2種類のみ

スポンジの材質は、やはりポリウレタンフォームが多かった。消費者のニーズがあり、また、業界も売れる/売りやすい製品の製造、品揃えをしているのだろう。次いで、メラミンが多かった。メラミンは、PUR以上にMPsを発生させているのだ。近年、茶渋落としに重曹を使用する動きもあるが、まだまだメラミンが使われているのであろう。

私は、まず、この目に見えない一次MPsによる汚染の実態を「見える化」して伝えたい。お店の意識変革を促すことは難しいが、消費者が変わればお店も変わらざるを得ないのではないか。

6. これぞ、LOHAS!

私たちのPTは、約1年半、「身近なプラスチック」というテーマで、各自の気づきを大切に、中でも個人が最も関心のある課題の研究を行ってきた。調査、検討、創意工夫を重ね、LOHASの実践をすることが楽しく、充実した時を過ごすことができた。

スポンジをウレタンからセルロースに替えただけで、シンクでMPsの発生を抑制できることを実感し、ストレスフリーとなった。今すぐできることから実践し、小さな成功体験を積み重ねること、何よりもそのプロセスを楽しむことが大切であると思う。

7. 今後の展望

2025年度の身近なプラスチックの自由研究の課題は、「天然繊維・再生繊維へのシフトと合織衣料のMPs放出の抑制について(仮題)」とする。近年販売店の衣料素材は、天然繊維や、レーヨン等の再生繊維が増加している。まず店頭調査を実施、機能性の面で手放せない合織衣料の洗濯について考える。研究を続けながらブログや動画、さらにSNSを活用して、LOHASで繋がる仲間づくりをしたいと思う。

参考文献等

- 1) Sma Style.shop セルロースのecoスポンジ(無漂白・ホワイト)圧縮
<https://smastyle.theshop.jp/> (2025.3.8直近閲覧)
- 2) 東レ・ファインケミカル(株) CELLULOSE SPONGE CATALOG
https://www.torayfinechemicals.com/products/pdf/kin_ser.pdf (2025.3.8閲覧)
- 3) 富士ゴム産業株式会社「ウレタンフォームとは?」
https://www.fujigomu.co.jp/whats_urethaneform/ (2025.3.8閲覧)
- 4) スポンジホームセンター「スポンジとは?ウレタンとは?スポンジを買う前に知っておくべき7つのこと」(2025.3.8閲覧)
<https://www.sponge-homecenter.jp/hpgen/HPB/entries/4.html>
- 5) 樹脂の略称一覧 山宗株式会社
<https://www.yamaso.co.jp/reference/abbreviate/> (2025.3.28閲覧)
- 6) 工業情報とメーカー実務の百科事典 プラスチック(樹脂)の記号一覧表 (2025.3.29閲覧)
<https://www.toishi.info/sozai/plastic/list.html>

1. はじめに

中食（なかしょく）という言葉を聞いたことがあるだろうか。中食とは、外食と内食の中間地点にある食事の形態で、調理済み食品を持ち帰り食べる指す。

持ち帰り食べるため必要となる容器。生活様式の変化や技術進化が進み、今や中食で欠かすことのできない役割を担っている。その中でも今回は、持ち帰り容器に着目し実状と課題について記すこととする。



図 内食・中食・外食



図2 容器の進化

中食の市場に革命をもたらしたのは、コンビニエンスストアといえる。1988年にセブンイレブンで電子レンジ加熱ができる耐熱弁当容器が初めて使用され、中食の利用がより推進された。

容器の材質には、現在ではプラスチックが多く使用されている。軽く衛生的で、大量生産することができる点から、今や欠くことのできない素材となっている。

2. プラスチック食品容器の種類と特徴

1) ポリスチレン (PS) 容器

①OPS (二軸延伸ポリスチレン) 容器

ポリスチレンシートをタテ、ヨコ二方向に延伸し、シートに配向（注）を与えることによって強度を増したものでガラスのような透明感があり、蓋材に多く使われる。

主に『お弁当のフタ・フードパック』に使われる（注2）。



②HIPS (耐衝撃性ポリスチレン) 容器

ポリスチレン (PS) にゴムを配合して衝撃性を向上させた素材を使用した容器。衝撃に強く、剛性に優れている。ハイインパクトポリスチレン (HIPS)とも呼ばれる。

主に『惣菜・刺身』などの容器に使われる。



③ PSP (発泡スチロール) 容器

ポリスチレンを発泡させて作られた容器。

発泡させることで95%の空気とわずか5%の原料から出来ている。

軽くて丈夫でクッション性があり、発泡プラスチックであるため熱を伝えにくく、食品の保存性に優れている。

主に『カップ麺・惣菜・肉魚・丂・弁当・納豆』などの容器に使われる。



④耐熱PSP (発泡スチロール) 容器

発泡スチロール (PSP) の耐熱性を向上させた素材を使用した容器。電子レンジ温めも可能。

主に『弁当・惣菜・丂』などの容器に使われる。



2) ポリプロピレン (PP) 容器

①PP (ポリプロピレン) 容器

ポリプロピレン (PP) を原料にした半透明の容器で、曲げても割れにくく、熱や油に強い特長がある。

主に『惣菜トレー・フードパック』などの容器に使われる。



②PPF (フィラー入りポリプロピレン)

ポリプロピレン (PP) を原料とし、これにタルク (注3) など無機物を配合した容器。

熱に強い特長があり、油分を含んだ食品を温めるような用途にも適している。

主に『弁当・惣菜』などの容器に使われる。



③発泡PP (ポリプロピレン) 容器

ポリプロピレン (PP) を発泡させた容器。

曲げても割れにくく、熱や油に強いほか、発泡させてるので、温かい食品をのせても手で持つことが出来る。

主に『弁当・惣菜』などの容器に使われる。



3) PET 容器

①A-PET (非結晶ポリエチレンテレフタレート) 容器

透明性が高く、耐油性、成型加工性、耐薬品性にも優れている。ただし、耐熱性は他のプラスチック食品容器よりも低いので、熱のかかる用途へのご使用は避けること。

主に『サラダ・惣菜・寿司・刺身』などの容器に使われる。



②C-PET (結晶性ポリエチレンテレフタレート) 容器

結晶性を利用して成形品としたもの。

A-PET とは異なり耐熱性 (220°Cまで) が高く、調理済み食品の電子レンジによる再加熱用容器として適している。



4) バイオマス(植物)由来の原料を使用した容器

①PLA (ポリ乳酸) 容器

植物から作られるプラスチックのため、石油資源の節約と CO2 を増加させない。

使用後は微生物により水と二酸化炭素に分解させることが出来る。

主に『カットフルーツ・サラダ』などの容器に使われる。



②バイオ PPF (フィラー入りポリプロピレン) 容器

ポリプロピレン (PP) にバイオマス由来のエタノールより製造したポリエチレン (PE) を一部原料として使用し、これにタルクなどを配合した容器。一部植物由来の原料を使用していて、耐熱性がある。

主に『弁当・惣菜』などの容器に使われる。



③バイオ PET (ポリエチレンテレフタレート) 容器

テレフタル酸とバイオマス由来のエタノールから合成したポリエチレンテレフタレート (PET) を原料として一部使用した容器。

植物由来の原料を使用していて、透明性がある。

主に『サラダ・惣菜』などの容器に使われる。



5) リサイクル原料を使用した容器

①再生PSP (発泡スチロール)

容器店頭回収されたトレーをリサイクルした再生原料を使用した容器。

使用済のトレーを原料としてつくられている。

主に『肉・魚』などの容器に使われる。



②再生 PET (ポリエチレンテレフタレート) 容器

使用済み PET ボトルや店頭回収された透明容器などをリサイクルした再生原料を使用した容器。

主に『サラダ』の容器、『刺身・寿司』のフタに使われる。



3. おわりにかえて

実に多種多様なプラスチックが、容器として利用されていることがわかる。

色とりどりで食卓にそのまま出しても遜色のない容器が多く、日々進化している性能に驚くことが多い。重ねても潰れない。お寿司が潰れない。中身が漏れない、性能の割に安価などメリットが多い一方で、一度きりの利用でゴミとして捨てられているのが現状であろう。

日本プラスチック食品容器工業会も一度利用したプラスチック食品容器は、食品の油や肉汁、残渣などが付着しており、雑菌の繁殖しやすい状態になっている為、絶対に再使用しないことと注意喚起をしている。

便利になった反面で、環境に対する問題が取り沙汰されるようになっている。筆者は日常的に中食を利用するが、常にゴミの問題について考えさせられている。

参考に私が容器を利用したとある日の容器重量について記す。

重量を計測した結果、レジ袋の重量が想像していたよりも重いことが意外で、蓋付きの中食容器が増えたことにより約倍の重量を有している点が印象的であった。

表 筆者のある 2 食の中食に伴う容器重量

内容	容器	蓋
弁当	13g	10g
お寿司	15g	13g
巻き寿司	15g	11g
フライドチキン	6g	6g
レジ袋	9g	-
合計	98g	

私の在住する豊中市でのごみ収集の区分は、プラスチック製容器包装となる。

ペットボトルやアルミ缶などは材質がわかりやすくリサイクルに対しての認識がずいぶんと進んでいるが、中食容器はサイズが異なることが多くかさばり、回収の手間があることが弊害となり回収が進んでいないのではないかと考える。また多種多様な材質が存在し、一般消費者には違いがわからず、ペットボトルのように水平リサイクルが難しいことが一番の問題点と考える。

店舗においてもコンビニでは、ペットボトルの回収は行っているが、プラスチック類の回収は一部の店舗に限られている。スーパーについても同様で、前述した多品種の容器を回収した後、分別や再利用が上手く行われているのかが気がかりである。

今後は、メーカーの企業努力と店舗・自治体の回収動向、ゆくえについて調査を実施していきたい。

※注釈

注) 配向とは、繊維や分子、結晶などが一定の方向にそろうこと。

注2) 容器の写真は全て(参考文献) より引用した。

注3) タルクとは、天然に存在する鉱物で、含水珪酸マグネシウムを主成分としている。

参考文献

(一社) 日本プラスチック食品容器工業会「プラトレネット」https://www.japfca.jp/pratore_index.html
(2025年3月5日閲覧)

食品口数量の推移（平成24～令和4年度）

令和4年度食品口数量は472万トン、うち事業系は236万トン。

（単位：万トン）

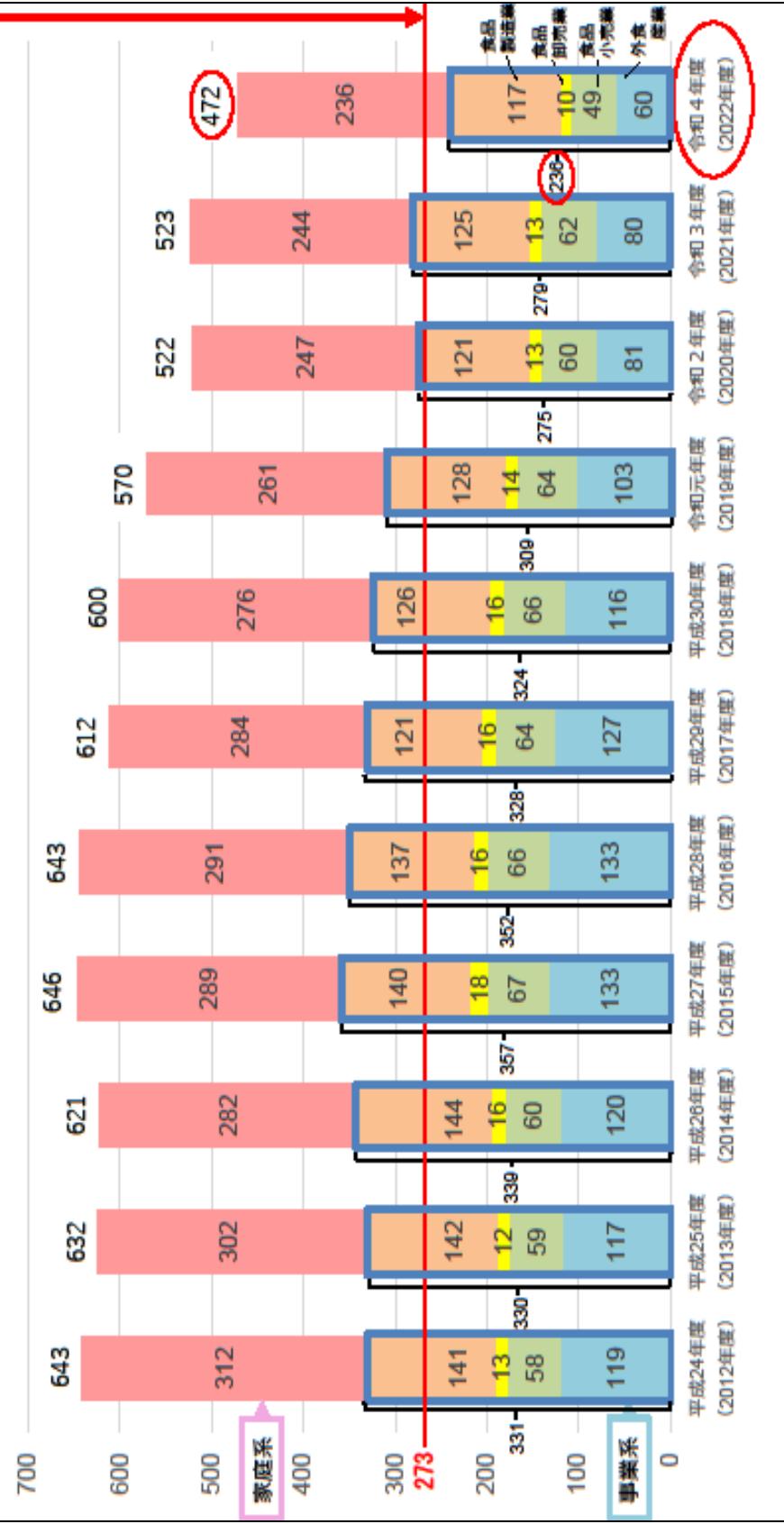


図1 食品口数量の推移（平成24～令和4年度）

吹田ごみゼロシステム研究プロジェクトチーム

—ごみゼロ（するをなくす）へのシステム研究—

1 はじめに

2 活動テーマ

- (1) プラごみゼロに向けた世界の事例～世界から見た日本の取り組みは？～
- (2) 迷惑がられている竹等の循環利用
- (3) 身近なプラスチック・アクションを実行中
- (4) 2024 年度ブログ発信の振り返り
- (5) 広域化について考える 事例：鎌倉市の選択

吹田ごみゼロシステム研究プロジェクトチーム

井上 道代* 川端 公大 茶園 征也 林 裕加吏*
平木 徳弘* 山下 宗一* (*印は執筆者を示す)

「吹田ごみゼロシステム研究プロジェクトチーム」

1. はじめに

「吹田ごみゼロシステム研究プロジェクトチーム」はごみゼロ（するのをなくす）をテーマに研究を進めているが、メンバーの研究報告書のテーマは次のとおりである。

- (1) プラごみゼロに向けた世界の事例
- (2) 広域化について考える 事例：鎌倉市の選択
- (3) 身近なプラスチック・アクションを実行中
- (4) 迷惑がられている竹等の循環利用
- (5) 2024年度ブログ発信の振り返り

ご覧いただいてわかるように、ごみゼロ・ごみ減量の分野は多岐に亘っており、その多様な分野や課題をできるだけカバーしようと各メンバーが自らの関心事項を踏まえつつ、研究を進めている。

2. 2024年度の主な成果と課題

(1) 主な成果

主担研究員の指導の下、4名のメンバーが5つのテーマについて研究報告書を記載し、またブログについても2024年度は44（前年比+1）の発信ができた。研究内容や研究の進捗状況、課題意識等を一定程度、書き纏めることができたことはひとつの成果である。

(2) 主な課題

①具体的な行動への落とし込み

雑がみの啓発活動、神戸市エコノバの見学など2023年度より継続して実施できた活動やテーマもあるが、チーム全体としてはまだ具体的な行動が弱いと言える。

②市環境部とのコミュニケーション

2年連続して何もできなかったことはチームとしての反省点であり、今後どのように進めるべきか再考すべき時期にきている。

3. 2025年度に向けて

(1) メンバー

新たに3名を迎える、計7名で活動する。

(2) 調査研究テーマ

ごみゼロ（するのをなくす）へのシステム研究

- ① プラスチックごみを減らす研究を中心に
- ② ごみゼロを目指して
- ③ 国際プラスチック条約、プラごみ削減の先進事例、吹田市の現状と課題の検討
- ④ 「ごみを減らしたらお得だよ！」キャンペーンの展開案検討
- ⑤ 迷惑がられている竹と落葉の循環活用
- ⑥ 新加入メンバーのテーマ（今後追加予定）
- その他、ブログ発信の充実、市環境部とのコミュニケーションのあり方等を検討する

4. おわりに

3名の新加入メンバーを迎えると同時に、これまで長年に亘りご指導をいただいた土屋正春主担と当PT前身の「吹田ごみ物語編集PT」よりリーダーを務めていただいた茶園征也さんが当PTから離れられることになった。これまでの長年のご功績に心より感謝し、御礼申し上げると共に、いつでも当PTはじめ研究所の活動に再び関わっていただくことを関係者一同よりお願いする次第である。



土屋正春主担研究員



雑がみリサイクルを教える茶園征也さん

「プラごみゼロに向けた世界の事例」
～世界から見た日本の取り組みは？～
井上 道代

1. はじめに

国連環境計画の報告書¹⁾によれば、日本は容器包装プラスチックごみの1人当たり排出量では世界第2位の大量排出国だ。その点からも、プラスチックごみ問題で大きな責任を負っていると言える。

しかし、昨年韓国釜山で話し合われた**プラスチック汚染国際条約**をめぐっての日本政府のスタンスは「世界一律ではなく、各国の事情を踏まえ、ほかの対策が効果を生じない場合に各国で検討すべき」というもので、「世界共通の規制を設けなければ、たとえ条約ができたとしても各国がばらばらに対応する状況は変わらず、汚染がさらに拡大することになる」(WWF ジャパンの三沢氏)との批判がある。

さらに、東南アジアにプラごみを輸出している日本は、現地の若者からの「先進国では廃棄物管理が整っているのを見たことがある。素晴らしいシステムがある豊かな国なのに、なぜプラごみを送って来るのか。送った先で起きている危機を真剣に受け止めてほしい。」「インドネシアは、先進国全体のごみ捨て場ではない。私たちは、現在の世代が残した負担を背負わされたくないありません。」との声を真剣に受け止めなくてはならないのではないだろうか。²⁾

それでは、世界では、プラスチックごみに対して、どのような取り組み・規制がされているのか、事例を見てていきたい。

2. 「使い捨てプラスチックの使用禁止」世界の事例³⁾

世界は、レジ袋の有料化よりもっと先に進んでいる。プラスチック製のレジ袋の禁止⁴⁾をはじめ使い捨てのプラスチックを禁止する動きが各国で始まっている。

資料1、2

(1) EUでのプラスチック規制を表1にまとめた。
・写真は、2018年に世界で初めてプラスチック容器を一切使わない売り場を導入したオランダの小売チェーン「エコプラザ」の写真。

表1 EU各国のプラスチック規制など

国等	使い捨てプラの規制内容
フランス	2020年1/1～、使い捨てのプラスチック容器について原則使用禁止。 2022年1月～すべての小売業において野菜と果物のプラスチック包装が禁止。
イタリア	2020年1/1～、マイクロプラスチックを含有する化粧品の製造禁止。
イギリス	2023年10月、全面的に使い捨てプラスチックが禁止。スーパーでバラ野菜用プラスチック袋廃止。100%再利用可能なネットを導入。
オランダ	「プラスチックフリー」のスーパーができる。



オランダの小売チェーン「エコプラザ」

(2) インド

・2022年4月から【プラスチック製のレジ袋・カップ・ストロー・皿・ペットボトルなど】禁止。

(3) 中国

・2017年12月に、廃プラスチックの輸入を禁止する法律を制定。
・2021年1月プラスチック禁止令が施行され、全国のレストランで使い捨てプラスチックストローの提供が禁止され、主要都市の店舗ではプラスチック製のレジ袋の提供が禁止された。2022年末までに中国全土でプラスチック袋を使用禁止に。プラスチック製品も規制開始。

(4) ケニア

・2017年に、すでにプラスチック袋の製造・輸入・使用を全面禁止。違反した場合には、約220万～440万円程度の罰金、1～4年の懲役等厳しい施策。

・ちなみに、日本でも亀岡市は2021年1月よりプラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例が施行された。亀岡市では2018年12月に「プラスチックごみゼロ宣言」⁵⁾が市長・市議会共同で発信されていて、丁寧な市民説明会や地道な市民の取り組みが背景にあってこの条例に結びついていると言える。

3. 様々な工夫によるプラスチックごみ削減

法律による規制だけではなく、生活に密着した様々なシステムの工夫もある。

(1) ドイツ

・ドイツでは、ペットボトルを返すと容器代がもらえるので、ポイ捨てではない。スーパーなどに置かれた回収ボックスに入れ、出たレシートをレジに渡してお金を受け取る。ボトルに、容器代が書かれている。(デポジット制)

(2) インドネシア

・インドネシアで2番目に大きい都市スラバヤでは、ペットボトルやプラスチックカップをバスターミナルやバス停に持つて行くと、市営バスに乗ることができる。

(3) タイ

・ペットボトルごみを増やさない工夫として、ホテルなどでも、ガラスびん入りの水が用意されている。

(4) 中国

・空港などに給水機があり、マイボトルに冷たい水とお湯を入れることができる。マイボトルに茶葉を入れてお茶を楽しむ人もいる。

(5) アメリカ

・カリフォルニア州のハンバーガーショップのごみ箱は二種類のごみ箱があり、生ごみや紙は「コンポスト用」に、プラスチックは「リサイクル用」に分けて入れている。
・サンフランシスコ空港でペットボトル入りの水の販売を禁止し、給水機を設置。⁶⁾

フィンランドでも、ペットボトルのデポジット制が行われていて、空のペットボトルの容器を返すと20セント(35円相当)が戻って来るとのこと、ポイ捨てではないとのこと。

現行の容器包装リサイクル法では、自治体が税負担で容器包装を分別収集しており、リサイクルに必要な費用の大半が製品価格に内部化されておらず、このような状況では、事業者や消費者に発生抑制に取り組む十分なインセンティブが働かず、環境への大量の流出も食い止められていない。

意識変容に頼りすぎのではなく、経済的インセンティブを活用したデポジット制など、社会の仕組として整えることによってこそ、プラスチック汚染問題の解決の道はあることを示していると感じる。⁷⁾

4. 日本での、吹田市での仕組みづくりは?

・そろそろ、啓発や意識変容のみに頼ることはやめ、本気でプラスチック汚染に対処するための規制や仕組みづくりを、始めることが必要ではないだろうか。昨年の吹田市環境審議会でのごみ減量についての議論を抜粋してみた。

令和6年度の環境審議会議事録より (抜粋)

委員「全国のごみの減量の大きな要因の1つとして有料のごみ袋の指定を行っていることが挙げられるが、吹田市は有料ごみ袋を指定していない。なぜ、導入しないのか。」

さらにごみの減量を図るには指定有料ごみ袋を指定するべきであり、教育よりも経済的効果の方が簡単に減らすことができるがどう考えているか。」

市「ゴミ袋の有料化は、過去に検討を行っているが、市民生活に大きな影響を及ぼす施策になるため、慎重に議論しその時期を見極める必要がある」

会長「吹田市民の方は有料化に反対の意見が多いのか。」

市「アンケート等を行っていないため、意見の多寡は分からぬが、過去には、ごみ袋の無料配布を行っており、無料配布をやめる際に様々な意見を頂いた。」

…様々なご意見を頂くことが想像できる。」

会長「現在の吹田市はすぐに有料化する必要はない」と見受けられるが将来的には検討するべきである。」

市「今後ごみ焼却施設の建替が必要であり、その規模を小さくするためにもごみ減量は必要である。…しっかりと議論研究を進めなければならない。」

副会長「京都市は 10 年以上前からゴミ袋の有料化をしている。また、最終処分場の費用が高額なので、家電は家電量販店で回収してもらうことにより、最終処分量を減らしている。だが、大阪は最終処分場の利用料が安く、そこまでごみ排出量は抑制されていない。…」⁸⁾

環境審議会でも、ごみの減量に向け、指定有料ごみ袋についての論議が行われている。それでも、「最終処分場の利用料が安く、そこまでごみ排出量は抑制されていない。」と、切迫感はない様子。

しかし、焼却に頼るごみ処理からの脱却は、気候変動対策としても重要だ。指定有料ごみ袋の必要性及びメリットを市民に分かりやすく伝える具体的な方策が必要ではないだろうか。

参考文献

- 1) 国連環境計画報告
[singleUsePlastic_sustainability_\(5\).pdf](https://www.unep.org/resources/documents/singleUsePlastic_sustainability_(5).pdf)
p. 5, fig. 1.5.」
- 2) 「プラごみ私たちの国になぜ輸出？」～インドネシアの 17 歳が各国に訴え～ | [suitagomi のブログ](https://ameblo.jp/suitagomi/entry-12883130867.html)
<https://ameblo.jp/suitagomi/entry-12883130867.html>
- 3) 【2023 年最新版】各国の「脱プラスチック」の現状を徹底解説 | 世界のソーシャルグッドなアイデアマガジン | IDEAS FOR GOOD
- 4) プラスチックを取り巻く国内外の状況 - 環境省
<https://www.env.go.jp/council/03recycle/y0312-03/y031203-s1r.pdf>
- 5) 総務省資料 000702290.pdf
https://www.soumu.go.jp/main_content/000702290.pdf
- 6) 「プラスチックモンスターをやっつけよう！」きみが地球のためにできること 高田秀重/監修 クレヨンハウス編集部/編
- 7) 「河川のごみ問題から見る容器包装リサイクル制度の課題」同志社大学 原田禎夫准教授
Rev Environ Econ Policy Stud vol. 8 no. 1
https://www.jstage.jst.go.jp/article/reeps/8/1/8_95/_pdf/-char/ja
- 8) 令和 6 年度第 1 回吹田市環境審議会議事概要
https://www.city.suita.osaka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/035/927/Overview.pdf

資料 1 各国におけるレジ袋規制

1.2 海外におけるプラスチック資源循環関連施策： 各国におけるレジ袋規制		
地域	種別	国・地域
アジア	課税・有料化	台湾、ベトナム、 中国 、インドネシア、イスラエル
	禁止令	バングラデシュ、ブータン、 中国 、インド、モンゴル、スリランカ、イスラエル
アフリカ	課税・有料化	ボツワナ、チュニジア、ジンバブエ
	禁止令	ベニン、ブルキナファソ、カメルーン、カーボベルデ、コートジボワール、東アフリカ、エリトリア、エチオピア、サンビア、ギニアビサウ、ケニア、マラウイ、モーリタニア、モーリシャス、モロッコ、モザンビーク、ニジェール、ルワンダ、セネガル、ソマリア、南アフリカ、チュニジア、ウガンダ、ジンバブエ、 マリ 、 タンザニア
オセアニア	課税・有料化	フィジー
	禁止令	パプアニューギニア、バヌアツ、マーシャル諸島、パラオ
中南米	課税・有料化	コロンビア
	禁止令	アンティグア・バーブーダ、コロンビア、 ハイチ 、パナマ、 ペリーズ
ヨーロッパ	課税・有料化	ベルギー、ブルガリア、クロアチア、チェコ、デンマーク、エストニア、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、 リトアニア 、マルタ、オランダ、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、 キプロス
	禁止令	イタリア、 フランス

黒字：発効 赤字：議会承認 強調文字：課税のうち有料化、禁止令のうち製造禁止
出所) "SINGLE-USE PLASTICS A Roadmap for Sustainability", United Nations Environment Programme, 2018

資料2 各国による使い捨てプラスチック規制

1.2 海外におけるプラスチック資源循環関連施策： 各国における使い捨てプラスチック規制の動き①	
国・地域	施策内容
フランス	<ul style="list-style-type: none"> 2016年8月30日に政令を公布し、2020年1月1日以降、使い捨てのプラスチック容器について原則使用禁止とする。 対象製品は、主な構成要素がプラスチックで、使い捨ての想定されているタンブラー、カップ及び皿。例外は家庭用コンポストで堆肥化できる生物由来の素材を50%使用するプラスチック容器で、2025年までにはこの割合を60%に引き上げる。 対象者は、プラスチック製の使い捨てタンブラー、カップ及び皿を、自身の経済活動での必要性により、有償あるいは無償で流通・使用。あるいは国内市場に初めて投入する個人または法人。
イタリア	<ul style="list-style-type: none"> 2018年6月、欧州委員会に対して、2020年1月1日より、マイクロプラスチックを含有する、洗い流せる化粧品の製造及びマーケティングを禁止する計画を通知。規制対象は、不水溶性の5mm以下のプラスチックを含有した製品。 同規制は、2019年1月1日より、非生分解性で堆肥化できない綿棒を禁止する内容も含む。製造業者は、綿棒の正しい廃棄方法を包装に明記しなければならない。 いずれの規制も、罰金は、2,500～25,000ユーロ。もし、含有製品の数量が多大である場合、または、それらの価格が違反業者の総売上20%を超える場合は、罰金が大幅に増大する可能性がある。
イギリス	<ul style="list-style-type: none"> 2018年4月18日、プラスチックストロー、マドラー及び綿棒の販売を禁止する意向を発表。施行にあたっては、産業界と連携して代替製品の開発や法制化への適用に必要な時間を確保する予定。
ニューヨーク市	<ul style="list-style-type: none"> 市議会が、バー、レストラン、喫茶店でプラスチックストローとマドラーを使用禁止にする法案を提案。(シングルユースの買物袋の使用、公園でのペットボトルの販売は既に禁止されている) 例外は障害者と医療用。既に60以上のレストランがストローの使用をやめている。

出所) フランスLegifrance.gouv.fr, "Décret n° 2016-1170 du 30 août 2016 relatif aux modalités de mise en œuvre de la limitation des gobelets, verres et assiettes jetables en matière plastique", <https://www.legifrance.gouv.fr/eli/decret/2016/8/30/DEVP1604757D/jo/texte> (閲覧日: 2018年3月19日)
 イタリア<https://chemicalwatch.com/6753/italy-to-ban-microplastics-used-in-rinse-off-cosmetics-products> (閲覧日: 2018年6月22日)
 イギリス<https://www.gov.uk/government/news/uk-government-rallies-commonwealth-to-unite-on-marine-waste> (閲覧日: 2018年4月25日)
 TBS:http://news.tbs.co.jp/newsi_sp/osen/archive/20180328.html (閲覧日: 2018年4月16日)
 ニューヨークNew York Times, <https://www.nytimes.com/2018/05/23/nyregion/new-york-today-plastic-straw-ban.html> (閲覧日: 2018年5月23日)
 New York Times, <https://www.nytimes.com/aponline/2018/05/23/nyregion/ap-us-nyc-plastic-straws.html> (閲覧日: 2018年5月23日)

1.2 海外におけるプラスチック資源循環関連施策： 各国における使い捨てプラスチック規制の動き②	
国・地域	施策内容
台湾	<p>2018年12月、2019年から食品・飲料業界でいくつかの段階に分けて使い捨てのプラスチック飲料用ストロー、プラスチックバッグ、使い捨て容器・器具を禁止する予定であることを発表。</p> <p>➢ストロー</p> <p>✓2019年から、ファーストフードチェーンなどで店内でのプラスチック製使い捨てストローの提供を禁止</p> <p>✓2020年以降、無料のプラスチック製ストローがすべての飲食店で使用禁止</p> <p>✓2025年、持ち帰り用のプラスチック製ストローはお金を支払わなければならない</p> <p>✓2030年、完全に使用禁止</p> <p>➢プラスチックバッグや使い捨て容器・器具</p> <p>✓2020年、無料のプラスチック製ショッピングバッグ・使い捨て容器・使い捨て器具などを小売店で提供することが禁止</p> <p>✓2025年には使用するのに追加で手数料を支払うことが義務づけられる</p> <p>✓2030年、完全に使用禁止</p>
サウジアラビア	<p>・サウジアラビア標準化公団(SASO)は2017年7月9日、プラスチックに関する新たな規制を発表。同年12月12日より運用開始。</p> <p>・厚さ250ミクロン以下のポリエチレンまたはポリプロピレン(主に容器包装に用いられる)を使用した使い捨てプラスチック製品の製造・輸入を禁止。</p> <p>・プラスチック製品における政府承認の酸化型生分解性材料の使用を義務付け。</p>
コスタリカ	<p>・2021年までにペットボトルやレジ袋など使い捨てプラスチック製品を、再生可能かつ180日以内に水中で分解可能な製品に置き換えることを宣言。</p>

出所) Taiwan to ban single-use plastic drinking straws, plastic bags, disposable utensils entirely by 2030 | Hong Kong Free Press HKFP
<https://www.hongkongfp.com/2018/02/22/taiwan-ban-single-use-plastic-drinking-straws-plastic-bags-disposable-utensils-entirely-2030/>
 (閲覧日: 2018年3月19日)
 サウジアラビア <https://www.s-ge.com/en/article/news/20173-saudi-arabia-clean-plastic-legislation> (閲覧日: 2018年4月18日)
 コスタリカ <https://thecostaricanews.com/2021-costa-rica-will-be-first-country-eliminate-single-use-plastics/>

(三菱総合研究所作成) 16

迷惑がられている竹等の循環利用 林裕加吏

1. はじめに

わが街、千里ニュータウンは竹林を含む緑地に囲まれている。竹は毎年勢力を拡大し、放っておくと竹藪となり、生物多様性が失われる。

2. 竹林の有効活用について

竹林整備に関わり、手入れされた竹林はとても美しく、街のすぐ近くでこのような緑の癒しの空間を体感できることは貴重である。

しかしながら、手入れをする人手不足により整備が追いつかない。竹林が有効活用されれば、竹林に手が入るのではないか。

2024年6月伐採した竹の処分方法として粉碎チップ化する機械が竹林に入り、竹チップが大量に発生したため、これを雑草対策として利用できないか実験をおこなった。

3. 竹チップ散布

方法として2024年6月吹田市の許可を得て吹田市青山台の遊園に10cmの厚さ、2m²ほど竹チップを散布（フェニックス遊園）また10月にも吹田市の協力を得て竹チップを散布した。（ふじのき遊園）

4. 経過観察

2025年4月まで観察する。（フェニックス遊園）わずかに生えた雑草はスッと抜け、雑草の発生を抑える効果があることが認められた。

また、チップを敷いていた地面には糸状菌が発生していた。

5. 循環利用について

のことから竹が雑草対策として役に立ち、また糸状菌により土壤がよくなる利点もあると思われる。竹の利用法があることで竹林整備が進むと住民にとっても心身の健康に役立ち、自然を感じられ有益と思われる。

同じように公園等でごみとして焼却処分されている落ち葉も有機物として肥化できることから、バイオネストをつくり有効に循環利用できないか実験をしていきたい。

また、街路樹や公園等で役目を終えた樹木も有効に利用することで焼却処分するごみの減量になるのではと利用法を模索したい。



写真1 2024年6月21日 竹チップを散布



写真2 2024年8月21日



写真3 2025年3月19日

落ち葉をごみとしないバイオネスト



写真4 2025年4月27日千里北公園伐採木置場

身边なプラスチック・アクションを実行中

平木 徳弘

1 はじめに

ここ最近の一番の話題はお隣の大阪市が2025年4月よりプラスチックの一体回収を開始したであろう。



図1 大阪市のプラスチック一体回収のお知らせ

大阪市がEXPO2025の開始と共にプラスチックの一体回収の取り組みをスタートすることを歓迎すると共に、EXPO1970を機に大きく発展した吹田市でもプラスチックごみを分別回収しリサイクルする重要性にいち早く気づき、実行してもらいたい。

2. プラスチック規制関連の主な動き

ここでプラスチック関連の動向で、特に注目すべきことを抽出しておく。

(1) 東京23区

2024年度 大変お世話になったブログ「東京23区のごみ問題を考える」(注1)によると、2025年3月10日時点で東京23区では「容リプラ」「製品プラ」

の分別回収実施区は19区(モデル実施を含む)に達し、未実施・実施時期不明は中央、世田谷、練馬、江戸川の4区のみとなっている。

(2) 米国ニューヨーク市

2024年3月に開催された「プラスチックごみを考える学習会」での同志社大学 原田禎夫准教授のお話によると、ニューヨークでは弁当・総菜のプラ容器がすでに禁止され代替品として紙の容器が使われているとのこと。ニューヨークで実現できているのであれば、日本でもプラ容器不使用の弁当や総菜を一日でも早く売り出してほしい。

(3) EU

EUの多くの取り組みのひとつであるが、プラスチック容器包装の種類別「再生材の最低含有割合」の2030年と2040年の目標(規制値)を決めようとしている。

表1 EU プラ再生材の最低含有割合規制(案)

対象	再生材の最低含有割合	
	2030年以降	2040年以降
主要部分がPET製で、使い捨て飲料ボトルを除く接触に注意が必要な包装	30%	50%
PET以外のプラスチック製で、使い捨て飲料ボトルを除く接触に注意が必要な包装	10%	25%
使い捨て飲料ボトル	30%	65%
上記以外の包装	35%	65%

注:接触に注意が必要な容器包装とは、食品、飼料、医療、医薬品などに使用される包装。

このように、世界の先進地域や都市では政策が進化し、プラスチックの使用削減、リユース・リサイクル、サーキュラーエコノミーの取り組みが進んでいく。一市民の立場でも住んでいる国、地域や自治体によって環境面・経済面・社会面での便益や取り組み格差が生じていると感じる。

3. 2050年世代から現世代へのアドバイス

2024年5月、近畿経産局と近畿環境事務所が中心となって「カーボンニュートラル実現に向けたフューチャー・デザイン分科会」が設置された。吹田市職員を含む地方自治体や企業のメンバーを集めたワークショップが開催され、報告書が公表されていた(注2)が、その内容を要約すると

- ・参加メンバー全員が2050年に生きる将来人の視点に立つ
- ・2050年時点の近畿地域の社会状況(環境や災害、ライフスタイルや価値観、都市構造や産業等)を描

写する

- ・その共有された 2050 年時点の社会状況を踏まえて、2024 年時点の現世代に対するアドバイスとして施策や対策のアイデアを提案するといった興味深いものであった。

一つのグループでは「ゼロ・ウェイストの推進」についても議論しており、そのまとめは以下の通りである。

【2050 年における近畿地方の社会状況】

- リサイクルは出来ているが、原料が限られており衣服等、レパートリーが少ない。
- 排出されるゴミはほぼ全てリサイクルされている。
- 新たに流通する製品すべてがリサイクルで生産されている（リユース品も流通）。
- 廃棄税が制定された。
- 高度な消費予測が実現し、計画生産、計画消費が進んでいる。

【2050 年世代から 2024 年世代への施策アドバイス】

- 2024 年当時からリサイクルできる素材の活用拡大に向けた商品開発をすすめる。【産・学】
- これまでリサイクルできなかった素材をリサイクルできるよう研究開発をすすめる。【学】
- リサイクルできる素材でつくられた製品の認証を進める。【官】

- 廃棄費用へ課税することで廃棄コストを上げ、リユース・リサイクルを進める動機付けを高める。

【官】

- リサイクルできるスキームの確立をすすめる。

【産・官】

- 包装削減など積極的に廃棄物を減らす努力を進める。【産】
- リユースの推進を進めるため地域で気軽に使わなくなったモノを交換する空間づくりや仕組みづくりを進める。【産】

- 学校でごみを発生させないことの重要性を教育する。【官】

波下線を記したように、廃棄費用への課税が当然のように議論されていたことが非常に興味深い。ごみの有料化や廃棄費用への課税はごみの削減に向けて今すぐ検討すべき政策と言えよう。

4. 身近なプラスチック・アクションを実行中

ここまででは主に自治体等を中心とした政策面の動向や注目点を俯瞰してきたが、このような政策動向を可能な限りモニターすると同時に、一市民の立場でどのようなアクションを行うべきか、また何ができるか検討し、具体的に行動する一年とした次第である。ここでは、2024 年度に実行したプラスチック関連のアクションや調査について 6 点触れておく。

(1) 洗濯機のマイクロプラスチックを自主回収

この取り組みは 2022 年度にスタートし、すでに 3 年目となった。非常に簡単な取り組みで、洗濯した後、洗濯機に付属している糸くずフィルターに付いたごみを水道水で下水に流さずに、ティッシュペーパーなどでふき取って燃えるごみとして廃棄するアクションである。わずかな行為だが、少しでもマイクロプラスチックの排出削減につながると思う。

ちなみにこの取り組みのきっかけとなったのは、2020 年に施行されたフランスのサーキュラーエコノミー法である。その第 79 条に「洗濯による環境中のプラスチックマイクロファイバーの分散を減らすために、2025 年 1 月から、新しい家庭用または業務用洗濯機には、プラスチックマイクロファイバーフィルターまたは機械の内部または外部のその他のソリューションが装備される」とある。法でそこまで細かく国が規制することに感心すると共に、この規制を踏まえて自ら日本でできることは何だろう？と考えたことが取り組みの端緒であった。

無理なく長い期間継続できており、みなさんにもおすすめしたいアクションである。

(2) プラスチックごみの分別を開始

2023 年京都に旅行に行った際にプラスチックごみを試行的に分別したが、2024 年 12 月から本格的にプラスチックごみの分別を開始した。

3 か月プラスチックごみを分別した気付きは次のとおりである。

- ・ほぼ 1 週間でプラスチックごみが約 400 排出
- ・プラスチックを除いた燃えるごみは約 2.5 週間で 400 排出。非常に重い→(3)へ
- ・プラスチックごみで最も多いのはティクアウト容器→(4)へ
- ・製品プラスチックの排出はほとんどなかった

(3) 生ごみの水切りを調べて実行

プラスチックごみを除いた燃えるごみが非常に重いことから生ごみの水切りができていないことがそ

の原因かと考えた。水切りについて調べたところ、その方法は以下の5点+αであった。

- 方法① 生ごみになる部分は極力濡らさない
 - 方法② 三角コーナーをやめる
 - 方法③ ごみ用ネットにまとめてギュッと絞る
 - 方法④ 新聞紙やキッチンペーパーを使う
 - 方法⑤ 天日干しにする
- 奥の手 生ごみを作らない！食べてしまう！
ポイントのみ記載したが、詳細は本件を記載したブログを参照願いたい。(注3)

これまで①②はできていたので③を追加し実行しているが、燃えるごみの重さはほぼ変わらない。言い換えればプラスチックごみが軽い証左と言えよう。

(4) カレーチェーン店へメールで要望

以前より認識はしていたが、改めてテイクアウト容器の占める割合が多いため、某カレーチェーン店にプラスチック容器を減量もしくはなくすことができないか要望したところ以下の回答であった。

平素は弊チェーン店をご利用いただき誠にありがとうございます。また、ホームページへのご投稿あわせてお礼申し上げます。

お寄せいただきましたご要望は、店舗担当者ならびに弊社担当部署に伝達いたしてまいります。

これからも、お客様に満足していただける新しい商品の開発とより良いサービスの提供に努めてまいりますので、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。このたびはご投稿ありがとうございます。

見方によっては箸にも棒にもかからない回答であるが、企業の立場からするうかつなことは言えないため仕方のないところである。それよりも、このような消費者の声がより大きくなつてプラスチック不使用のテイクアウト容器が一日でも早く日本でも誕生してほしいと思う。

(5) お店のプラスチック調査2024に参画

2024年9月～11月にNPO法人環境市民が主催する首題の調査に参画した。吹田市、豊中市、京都市の計7スーパー・マーケットの青果物売り場でのプラ包装率等を調査した次第である。一番の成果は自分自身の足で現場を調査した充実感であろう。ふだん足を運ぶスーパーの景色が違つて見えて非常に新鮮であった。調査後も主催者の事務局から様々なご提案、アプローチを頂戴し大変有難い。

(6) 神戸市エコノバ(資源回収ステーション)を訪問

2025年3月プロジェクトチームの関係者とともにエコノバ2拠点「あづま」「ふたば」を訪問した。

エコノバの運営や利用でどのように市民が参画しているのか知ることが今回の訪問目的の一つであった。訪問先の一つエコノバあづまはもともと阪神・淡路大震災のボランティアをされていた方が今も中心になって運営をされている。どこをみてもきれいで整然としていたことが印象的であった。ボランティアをスタートされた仲間が発展的に運営をされていて、市民が運営を請け負っていると言えよう。



写真1 整然と並ぶ手作りの回収ボックス

二番目の目的は神戸市のエコノバを吹田市でも展開できるか考察することであったが、その結論は保留したい。

神戸市が容器包装プラスチックを行政回収し、かつ地域密着型の施設を設置していることに比して吹田市は容器包装プラスチックを行政回収していない点、近年では地域社会の集団回収の活動が不活性化していることを考慮すると、吹田市版エコノバを設ける意義は大きい。

但し、いくつか検証しないといけない課題もある。

- ① 設置場所・施設の確保

- ② 施設を運営するNPO法人・団体等の目途
- ③ コストの検証
- ④ コンサルタントの起用

課題はあるが、まずは吹田市の関係者が神戸市のエコノバを訪問し、自らの眼でその良さやメリットを感じていただければ有難い。

5. プラスチック・アクション - 次のステップ

第4章で述べた取り組みは基本的に継続したいが追加して2025年度に検討・実行したいことを以下記載する。

(2) プラスチックごみの分別について

大阪では容器包装プラスチックと製品プラスチックの日毎の“数”(大きさ・重さは問わない)を10分類に分けて記録し報告する仕組みを運営する団体があるので、その調査に参加する。

(5) お店のプラスチック調査

主催者であるNPO法人環境市民事務局からの新たな提案を吟味した上で、同意できるようであれば取り組みに参画する。

(6) 神戸エコノバ関連

難易度は高いことが想定されるが、できる範囲で吹田版エコノバ創設の可能性を調査する。

6. おわりに

ここまで2024年度の諸取り組みについて述べてきたが、なぜここまでプラスチックごみの問題に拘るのか最後に触れておく。

一言で言えば、プラスチックごみが年々増加しており、このままではプラスチックによる環境負荷が大きくなり過ぎるためである。

昨年の報告の再掲であるが、環境省が毎年公表している「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査の概要」から抽出した過去15年間において容積比率ベースでどれだけプラスチックごみが増えているか、とりまとめた結果を以下に示す。

表2 過去15年のプラスチックごみ容積比率の推移

	2007年	2012年	2017年	2022年	単位：%
ペットボトル	3.1	4	5.4	7.5	
発砲スチロールトレイ	2.7	2.6	2.1	2.3	
その他のプラスチック製容器包装	33.1	29.8	35	38.2	
・パック、カップ、弁当容器	18.9	13.6	13.4	15.5	
・商品の袋、包装(アルミなし)	3.7	7.7	9.6	11.8	
容器包装以外のプラスチック	4	5	7.1	7	
プラスチック合計(容積比率)	42.9	41.4	49.6	55	

改めて、プラスチックごみが年々増加している事実を認識した上で、第一にプラスチックの使用量・ごみ量を減らすこと、そして第二にごみとして排出されたプラスチックは燃やさずにリサイクルすることが喫緊の課題であると考える。そして、最後に個人は無理なくできる範囲でプラスチック削減を継続して実行する重要性に触れておきたい。

参考文献

図1 大阪市のプラスチック一体回収のお知らせ

<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000645/645650/zensiban2.pdf>

注1 ブログ 東京23区のごみ問題を考える

<https://blog.goo.ne.jp/wa8823>

表1 EUプラスチック再生材の最低含有割合規制(案)

旭リサーチセンター 「EUの容器包装に関する規則案、マスバランス方式案、ELV規則案」

https://arc.asahi-kasei.co.jp/report/arc_report/pdf/rs-1071.pdf

注2 近畿経済産業局

2050年カーボンニュートラル実現に向けたアイデアカタログ

注3 ブログ 生ごみの水切りはこの方法で！

<https://ameblo.jp/suitagomi/entry-12888358690.html>

写真1 神戸市エコノバ ホームページ

<https://www.city.kobe.lg.jp/a25748/kurashi/recycle/recovery-of-plastic-resources.html>

表2 過去15年のプラスチックごみ容積比率の推移

環境省 容器包装廃棄物の使用・排出実態調査(平成18年度～)

https://www.env.go.jp/recycle/yoki/c_2_research/index.html

2024年度ブログ発信の振り返り

平木 徳弘

1. 主な成果

年度別のブログ公表件数は次のように推移し、わずかではあるが、前年度を上回ることができた。

2019 年度	8
2020 年度	26
2021 年度	8
2022 年度	4
2023 年度	43
2024 年度	44

まだまだ読者数が少ないことが最大課題であるが、24年度はブログでの発信を市民研究所全体の活動とすることを提言し、主担研究員・市民研究員等関係各位に検討、議論いただけたことが有難かった。是非、次年度の成果につなげていきたいと思う。

2. 2024年度発信ブログのタイトル一覧

- ①デコ活を知っていますか？ その2
- ②吹田に隠れている環境貢献企業をご紹介
- ③全国 1729 自治体のうち、消滅可能性自治体はいくつある？
- ④スーパー・マーケットでのプラスチック調査
- ⑤集団回収を増やそう！
- ⑥堺市と京都市のプラスチックリサイクルが前進
- ⑦汚れたペットボトルは宝の山 日仏連合、岡山で完全再生
- ⑧ごみと掃除と幸せな人生
- ⑨グリーンウォッシュとグリーンハッキング
- ⑩江戸時代の人々のリサイクル術を学んでみよう
(現代に活かせる暮らしのヒントを探そう)
- ⑪ペットボトル - 2つの話題
- ⑫「燃焼ごみ」は、燃えるごみ？ 燃やすごみ？
- ⑬自転車を安全に運転していますか？
- ⑭京都 鴨川のごみ問題
- ⑮ウェルビーイングの国別比較と日本の立ち位置
- ⑯日本での SDGs には深刻な課題？！
- ⑰カールスバーグのグリーンファイバーボトル
- ⑱「バーチャルウォーター」という言葉を知っていますか？

- ⑲日常からはじまるサステナビリティ その1
- ⑳日常からはじまるサステナビリティ その2
- ㉑バックキャスティングは万能か？～レゴ社の事例
- ㉒プラごみ条約って、知っていますか？
- ㉓東京 23 区でもごみ袋の有料化を検討
- ㉔東京 23 区 清掃工場の可燃ごみ組成の推移
- ㉕「プラごみ条約って、知っていますか？」続編
- ㉖10月は 3R 推進月間
- ㉗「コロナ禍の集団回収への影響」から考える
- ㉘第5回 INC 政府間交渉に注目しよう！
- ㉙「ごみ焼却大国」脱する道は？
- ㉚EU のプラスチック政策～その革新的な方向性
- ㉛ドイツのデポジットの仕組みについて
- ㉜振り売りを知っていますか？
- ㉝さすてな京都訪問記
- ㉞「カーボンバジェット」て、なんでしょうか？
- ㉟大型家電製品のリユースについて
- ㉟「プラごみ私たちの国になぜ輸出？」～インドネシアの 17 歳が各国に訴え～
- ㉟身近なリスクに備える
- ㉟エネルギー政策の柱...新たな原則「S+4E」とは？
- ㉟家庭ごみ収集の問題
- ㉟2050 年世代からの現世代へのアドバイス ～ゼロ・ウェイストの推進～
- ㉟廃棄物の減量を図るための基本方針～国民の役割～
- ㉟生ごみの水切りはこの方法で！
- ㉟プラスチックごみを考える学習会
- ㉟プラスチック習慣を断つ

3. 2025年度の目標

可能な限り書き手を増やすことによって、ブログの公表件数・コンテンツの多様性を増やし、結果として当ブログの読者数の増加につなげていきたい。

吹田ごみゼロシステム研究プロジェクトのメンバに加えて、全プロジェクトチーム・アクションチーム、主担研究員、市民研究所外の有識者等 幅広い方々のブログ発信への参画とご協力をお願いする次第である。

広域化について考える 事例：鎌倉市の選択

山下 宗一

1. はじめに

広域化については、第31巻研究報告書に報告を書いたように、人口減、それによるごみの減少傾向、廃棄物処理体制の維持、用地問題、担い手の不足等々で、長期に亘って、安定的・効率的な廃棄物処理体制の在り方を考える時に、避けて通れない問題である。3R上位自治体と大阪近辺の自治体について、共同で処理を行うメリット等を調査した結果は、いずれも ウインウィンの関係でうまくいったところばかりで、市民の理解も得られたものであった。さらに共通していることは、いずれも単独でのごみ処理が困難になったために、広域化へ踏み切ったものであった。

2. なぜ、鎌倉市か

鎌倉市は、環境省の3R取組上位市に入っています。ごみの減量やリサイクル率でも大きい成果をあげてきた。市の人口は約17万人で、多くの文化史跡があることで知られている観光地である。また、この地域では広域処理の協議が始まったり、解散したりしている。

鎌倉市に注目したのは、広域化の事例として捉えることが出来るが、市民との関係がうまくいっていない中での広域化であること、本来、単独で清掃工場建設が可能であるのにかかわらず、それを取りやめたことが大きい。鎌倉市におけるごみ処理計画の変遷を表1に示し、その経緯について検討した。

3. 新焼却施設建設問題が浮上

鎌倉市にある2つの清掃工場のうち、今泉クリーンセンターが2015年稼働を停止する。清掃工場は名越クリーンセンターだけになり、2025年には稼働停止となる。このことから、市は、新焼却施設建設を計画する。しかし、市内

で、清掃工場を建設する地域は限定される。

市は、2015年に、市長自ら市議会に行き、新焼却施設について説明し、提案し、市議会は承認する。

議会は、2015年の承認以降、2016年住民と行政が塾議するよう、要請する決議を出している。にもかかわらず、2020年、市が単独での新清掃工場整備から広域化に舵を切った時に、何のアクションも行わなかった。議会で承認されたことが変更されることに、承認した議員達は、首長の説明責任を果たすよう、議会で質問していく必要があると考えるがしなかった。さらに、2024年12月には、逗子市との可燃ごみ、事務委託に係る協議を承認する。まるで、市長の行動にお墨付きを与える機関のようである。こういった姿勢が、市長の独断を許すことになったと考える。

市は、2015年、新ごみ焼却施設設計画を作り、山崎下水道終末処理場未活用地に建設すると発表し、市民に対する説明会を行う。また、2016年3月パブリックコメントを踏まえ、新ごみ焼却施設設計画(124t/日 62t×基)2024年度中竣工予定を策定する。説明会でも出していく。

しかし、幾度か説明会を開催したが、市民の理解は得られなかった。

選定された地域の市民達は、2015年「新ごみ焼却施設に反対する住民の会」を結成し、市に対して方針の撤回を求める。その主張は、下水、し尿施設に加え、ごみ焼却施設がくることを認めないと、ということである。さらに、分かった本音の反対理由は、臭い、排ガス問題、土地の評価が下がる、道が狭い、ダイオキシン、等々である。要は、清掃工場は嫌というので、廃棄物処理法における市民としての協力や廃棄物行政への参加等の姿勢は、何もないものであった。

4. 市長が方針転換

説明会を開いても、理解が得られない状況の中、2019年3月市長は、「鎌倉市は焼却場を作

らない」と宣言してしまう。以降、広域化の方向に舵を切る。2020年、逗子市、葉山町とのごみ処理広域化の協議が進められ、8月に実施計画を策定、11月ごみ処理広域化計画案発表し、・・・10年間、逗子市の焼却場で処理していくことに決まる。

この方針転換に対する議会や市民からの声は上がらなかった。

5. 強引な手法は正しかったのか

市長は、この状況のなかで、2017年3期、2021年4期をはたしている。たしかに、市民の信認を得ての当選であるが、廃棄物行政の進め方は強引、乱暴と言わざるを得ない。行政として、方針転換を決めたのであれば、行政内部の意思を固めつつ、議会に対しての説明、市民に対して、パブリックコメントなどの手続きを進め、出来る限り、幅広い声を集めて、進めていくべきである。こういった丁寧さが、行政と市民との意思疎通を醸成していくと考えるが、行わなかった。こういった姿勢が、市民との協働・連携・協力を生み出さない要因であると考えられる。

6. 2025年以降は

今年2025年1月で鎌倉市の清掃工場は完全停止、4月から、3自治体の可燃ごみは逗子市の清掃工場で処理される（鎌倉市は約1/3）。約10年後にはこの清掃工場も停止となる予定である。それぞれの自治体の担当者に電話した答えは、

葉山町・・・可燃ごみの処理が出来ればよい
逗子市・・・10年のなかで考えたい

鎌倉市・・・10年後までに、更なる広域化を模索したい

というものである。3自治体の中で、一番、あやふや、中途半端な態度でいるのが、鎌倉市である。広域化実施計画の57ページには、逗子市焼却施設停止後の概念図を見ると、可燃ごみを周辺自治体と民間業者に頼る構図が見られる。

更なる広域化などは、ただの絵空事であり、実現性は薄いと思われる。

7. 鎌倉市の進め方は

今回の事例は、単独で新焼却施設建設が出来ることを逃した悪例だと考える。議会で承認され、計画もパブリックコメントを踏まえて作っている。内部の推進体制も整っていた。後は、計画を推し進めるだけである。反対する人々の根拠は、説明会のなかで、充分、論破できるものであるし、市民側に全市民を巻き込むだけの勢いもなければ、錦の御旗もない。

本来の広域化の進め方ではなく、市長選をにらんだ政治的思惑としか、考えられない。さらに言うなら、将来的を見据えた持続可能なごみ処理ではなく、その場その場を乗り切ることしか考えていないとしか思えない。

8. まとめ

さらに、鎌倉市が進めたい生ごみ再資源化施設（今年4月稼働予定）についても、市民及び周辺自治会が反対している。

市の企画したことがほとんど市民に理解されていないとしか思えない。しかし、行政も市民もゼロ・ウェイストを進めたい気持ちはあると考える。ごみ問題は、行政と市民が、協力、連携、協働しなければ、解決しない。せっかく、これまでの成果があるのだから、市はこれまでの姿勢を猛省し、ごみ減量に対し、市民に対する説明、広報を徹底し、広域的な対話の場を設けて、お互いの役割分担、連携協力を進めていくことが大切であると考える。

参考資料

・鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画

[2sihi1machi_jissikeikaku0803.pdf](https://www.kanagawa-u.ac.jp/~2sihi1machi_jissikeikaku0803.pdf)

表1 鎌倉市におけるごみ処理計画の変遷

・1996年 ごみ半減宣言	新焼却施設は、2024年度中 竣工予定
・2007年 ゼロウェイト掲げ、資源化推進	5月逗子市、葉山町と「ごみ処理広域化検討協議会を設置し、同7月に「覚書」を締結
・2009年 市が、逗子市との広域処理に関する覚書、解除	10月 市議会・・住民と塾議を要請する決議 ～市長が反対する市民と話合い～
・市がバイオマスエネルギー回収施設基本計画を策定	・2017年 松尾市政3期目
・2009年10月 市長交代（松尾市政） バイオマス計画中止 分別によるごみ削減方針にかかる	・2018年 市は、久喜・宮代方式減容施設の今泉設置案を発表、予算化するが、議会で否決 ～近隣自治会の理解を得てない～ ～議会に対し、説明不足～
・2011年 ごみ収集有料化や戸別収集計画方針 新ごみ焼却施設計画 候補地4ヶ所挙がる	・2019年3月 市長は「鎌倉市は焼却場を作らない」と宣言
・2012年 ごみ有料化導入のために、戸別収集モデル事業を実施	・2020年 8月 鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画を策定
・2013年 松尾市政2期目 家庭系ごみ有料化実施の方針決定 「鎌倉市ごみ焼却施設基本構想」を策定	11月 鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化計画案発表・・・10年間 逗子市の焼却場で処理してもらうことに決まる 12月 議会 観光厚生常任委員長 報告 ～将来にわたる安定したごみ処理体制の構築について～
・2014年 新焼却炉建設地として、山崎水質浄化センター敷地を選定へ	・2021年 松尾市政4期目
・2015年 3月 今泉クリーンセンター稼働停止：老朽化とごみが減量したため→清掃工場は名越クリーンセンターだけになる 4月 ごみ有料化実施、戸別収集は中止 ごみ焼却施設整備計画 市議会の全体協議会で、市長が候補地、新ごみ焼却施設計画発表・・・承認される ごみ焼却施設を建設すると発表 5月 選定地等 説明会 選定された地域の住民らが「新ごみ焼却施設に反対する住民の会」結成：下水、し尿施設に加え、ごみ焼却施設がくること容認せず、方針の撤回求める 反対理由：臭い、ダイオキシン+土地の評価が下がる、道が狭い、排ガスの問題等々	・2024年12月 ～逗子市と鎌倉市との可燃ごみの焼却処理の事務委託に係る協議について～ 協議後 可決 ・2024年 今泉クリーンセンター跡地は、当面、中継基地として使用。名越が中継基地として機能したら、生ごみ資源化施設稼働計画⇒地元と協議中・・・なかなかまとまらず！！
・2016年 3月 パブリックコメントを踏まえ、新ごみ焼却施設計画（124t/日 62t×2基）策定	・2025年1月名越クリーンセンター稼働停止予定 →中継基地として整備される予定 ・2025年 4月 ごみ戸別収集開始 広域化実施

身近な環境を調べようプロジェクトチーム

—吹田市のため池の環境調査（第2報）

1. はじめに

2. 調査方法

3. 調査結果

4. 考察

参考文献

別紙—1 調査したため池の概要

別紙—2 ため池の調査結果の概要

身近な環境を調べようプロジェクトチーム

大垣 秀樹 岡本 陸奥夫※ 片山 桂子

渋川 京子 西村 聰 二平 耕太郎

林 裕加吏

（※印は執筆者を示す）

吹田市のため池の環境調査（第2報）

1. はじめに

身近な環境を調べようプロジェクトチームでは、2023年度から、吹田市内のため池調査を実施している。

初年度の2023年度は、蓮間池、水遠池、牛ヶ首池、菩提池、春日大池、釈迦ヶ池の6カ所のため池について調査を行い、この結果については、研究報告書第31巻に（第1報）として報告したところである。

吹田市内には、前記の6カ所を含め、「大阪府のデータベース」などを参考にすると約60か所のため池があると思われる。

これらの現状を把握するため、引き続きその他のため池について、2024年度から2か年で調査することとした。

本報では、2024年度に行ったため池の調査結果について報告する。

2. 調査方法

2023年度は、主要な6つのため池について、年4回、水質調査やプランクトン調査も併せて行ったが、今回は、多くのため池を調査するため、年1回の調査とした。

調査に当たっては、前回同様に表-1の「池の観察チェックシート」を用いて、水の汚れや魚、鳥など、10項目について3段階の評価を行い、その合計点で相対的な評価を行った。

表-1 池の観察チェックシート

池の観察 チェックシート		池の名前		
調査日	天気	調査時間	所在地	
2025//	：	：	目印となる植物	
調査項目	10点	5点	0点	点数
水の汚れ	きれい	少し汚っている	汚っている、アオコが発生している	(水の色)
水とのふれあい	近づける	近づけるが、ファンスで囲われている	近づきたくない、又は近づかない	
美しい	とても美しい、または真美を感じる	美しい	特に美しい	不快な臭いを感じる
魚	多い	少しい	見かけない	(種類)
音	静かである	少し音がする	うるさい	
鳥	多くいる	少しい	見かけない	(種類)
昆蟲(チョウやトンボなど)	多い	少しい	見かけない	(種類)
ゴミ	ほとんどない	少しある	たくさんある	(種類)
周辺の植物	よくある	それほど多くはない	あまり生えていない	(植物の種類)
周辺の状態	自然、又は石積みなどで風景がある	あまり風景はない	人工的で殺風景な感じである	
周辺の様子	公園、住宅、道路など		合計	
用途		主な流出・入河川		
感想				

調査は、公園内にあるため池等は樹木も豊富であることから合同で行ったが、その他については、メンバーそれぞれが調査しやすい場所を選定し分担して行った。

今回調査したため池の概要を別紙-1に示す。なお、ため池の概要は、「千里の水：池」¹⁾を参考にした。



（シゲ池での調査風景）

3. 調査結果

2024年度は、34のため池を調査した。

「池の観察チェックシート」による各ため池の合計点を、仮に50点以下、51~79点、80点以上に分類すると、50点以下が16カ所、51~79点が9カ所、80点以上が1か所で、50点以下のやや快適性に欠けると思われる環境のため池が一番多かった。これらについては、調査者による評価の違いや調査の時期が異なるため、ため池の環境も、冬季は昆虫がいなかったり、魚類は潜んでいて確認ができなかったり、冬季以外は渡り鳥が見られなかったりといった季節による違いがあると思われる。

また、造成工事中やすでに造成されていたため池が4か所、竹林や雑木林の中にあって確認できなかつたため池が4か所あった。

各ため池の調査結果の概要を別紙-2に示す。

チェックシートの項目ごとの概要は次のとおりである。

(1) 水の濁り

いずれのため池も若干濁っていたり、アオコが発生して、緑や褐色に濁っていてあまり良好ではなかった。



(新からま池のアオコ)

(2) 水とのふれあい

ほぼ全てのため池が安全対策のためフェンスで囲われていたが、王子池は、一部が水に触れられるような工夫がされていて興味深かった。



(水とふれあえる工夫がされた王子池)

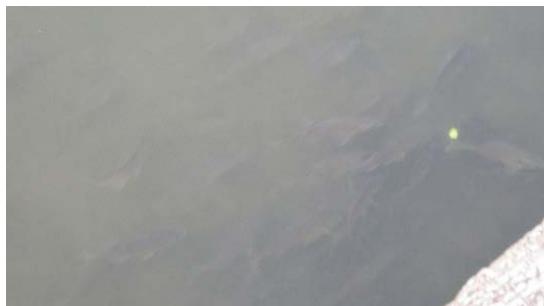
(3) 臭い

臭いはほぼ良好だったが、何らかの臭いを感じるため池も数カ所あった。

(4) 魚

魚類などの生き物は、濁りがあって見えにくかったり、冬季は潜んでいたものと思われるが、9カ所でブラックバスやフナ、ヒゴイなどの魚類が見られ、砂子谷新池ではスネークヘッド（雷魚）やアメリカカザリガニが見られた。

また、多くのため池でアカミミガメが多く見られた。



(王子池の魚)

「吹田の自然2021」²⁾によると、高町池では、コイやゲンゴロウブナ、フナ、モツゴ、ドジョウ、ブルーギル等10種類が、三保が池では、コイやゲンゴロウブナ、オオクチバス、ヨシノボリなど6種類が、海老池では、同じくゲンゴロウブナやフナ、ブルーギルなど4種類が確認されている。

(5) 音

鳥の鳴き声が聞こえるため池や静かなところが意外と多くあったが、自動車の走行音がうるさかったり、少しうるさいところも少なからずあった。

(6) 鳥

鳥類は、見られなかったため池も多かったが、少し又は多く見られたため池が11カ所あり、キンクロハジロやオオバシ、カルガモなどの水鳥の他、宮が谷池、小路新池ではカワセミが見られた。また、ヒドリガモなどの渡り鳥が見られたため池が5カ所あった。



(王子池の浮島で休むカワウ)

(7) 昆虫

トンボやチョウは、春から秋にかけてほとんどの池で見られるものと思われるが、今回の調査では4カ所で見られたのみだった。しかし、砂子谷新池では絶滅危惧Ⅱ類にリストアップされている、青灰色をしたアカトンボであるナニワトンボが見られた。

「吹田の自然2021」によると、砂子谷新池では、その他、アオイトトンボ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボなど22種のトンボが確認されている。また、同報告によると王子池では、アオモンイトトンボ、ウチワヤンマ、オオヤマトンボ等8種が、上池では、クロイトトンボ、モノサシトンボ、コシアキトンボ等6種のトンボが、海老池では、モノサシトンボが、垂水上池ではリスアカネが確認されている。

(8) ごみ

いずれのため池も比較的ごみは少なく良好だったが、中には自転車やタイヤが投げ入れられたり、看板やボール、菓子の袋、プラスチックの袋などのごみが見られたところもあった。



(後谷新池に捨てられた自転車)

(9) 植物

ため池周辺の植物は、隣接地に竹林や公園があったり、自然に生えたと思わ

れる樹木も見られ、比較的多くのため池で見られた。



(木々で囲われた海老池)

また、ため池の水生植物については、ヒメガマが多く見られ、ヨシは比較的少なかった。水面にはヒシが多く見られ、大平池では一面がヒシで覆われていた。



(ヒシで覆われた大平池)

「吹田市のため池の水生植物（1996年）」³⁾によると、海老池では、ヨシ、ヒメガマ、ヒシ等6種類が、高町池ではヨシ、ショウブ、スイレン等8種類が確認されている。

(10) 岸辺の状態

ほとんどのため池の岸辺は、周辺の土が落下しないよう、コンクリートもしくはコンクリートブロックで囲われていたが、あまりむき出しにならず、ヒメガマやヨシが生えて自然な状態に近いため池も多く見られた。



(周辺をコンクリートで囲われた濁池)

4. 考察

今回の調査では、34のため池を調査したが、一番良好だったのは、高町池下流の千里緑地内にある遊水池で、4月の調査では、水辺にはショウブやヨシが生え、カルガモやヨシガモ、コガモが見られた。

また、フナも多く見られるなどヒメボタルの生息地として自然状態が保たれていた。



(自然豊かな高町池下流の遊水池)

その他のため池は、コンクリートやコンクリートブロックで囲われ、周囲は危険防止のため、フェンスで囲われ、中には洪水調節のために設置されたため池も見られた。

王子池は、魚類などが生息しやすいよう、石垣や木製の護岸でできた自然共生型の整備がなされた、との説明看板が掲載されていて、ため池の周辺には、ヤナギやヨシ、アゼスゲ、ショウブ、チガヤなどが植えられ、ため池の中央には鳥や亀が休めるよう浮島が設置されていた。



(自然共生型整備の看板)

吹田市は、市街地の中に小さなため池が多くある。

これらの中には、自然状態が保たれていたり、公園と一体となって憩いの場となるよう整備されていました、生物の生息に配慮されたため池も見られたが、コンクリートなどで囲われた洪水調節のためのため池が多かった。

このような場所でも魚類などの生き物が生息し、トンボやチョウが見られ、野鳥がやってくることが確認できた。

「吹田の自然2021」によると、多くの生き物が確認されており、今後もこれら生き物の保全が望まれる。

身近にこのような自然とふれあえる空間があることは、市民に潤いや安らぎをもたらすものとして、大変重要な役割を持っているものと思われる。

また、子供たちにとっても、身近な自然に触れ合える場所として貴重な存在である。

今回の調査で造成中のため池も見られたが、市内には、○○池公園といった公園も多く見られることから、徐々に少なくなっていることがうかがえる。

市街化の進展により農地が減少し、そのほとんどが役割を終えたものと思われるが、今後は、洪水の調節池として重要である。

今後、これらのため池が、生き物の生息空間としても整備され、継続的に存続することが望まれる。

2025年度は、引き続き残りのため池を調査し、その実態を把握したいと考えている。

参考文献

1) 千里の水：池

(<http://nora.my.coocan.jp/mac/Saigoku/history/water/reservoir/index.html>)

2) 「すいたの自然2021」吹田市環境政策室
2022年3月

3) 西野 敦「吹田市のため池の水生植物
(1996年) 水草研究会報 vol. 60 (1997)

別紙一 1 調査したため池の概要

番号	ため池名	所在地	ため池の概要
1	犬飼池	山田丘 2	大阪大学の船舶知能化実験場となっている。大学内であるが、コンクリートで囲われることもなく自然状態で、南西側に竹林がある。
2	藤白池 (ピアノ 池)	藤白台 3	*千里ニュータウン開発時に従来からある溜池の他に、臨時の遊水池と沈砂池として、二十ほど設けられたうちの一つで「山田川第1遊水池」だけは最後まで残った。
3	上池 (青谷池)	古江台 2	*現代の地図上では「上池」と記されているが、地元では「青谷池」と呼ばれることが多かったようだ。 現在は、はぎのき公園として整備されている。
4	長谷池	豊中市新千里東 町 2	*千里東町公園にある。ニュータウン豊中市域の池としては珍しくオープンな感じがする。また、水辺には菖蒲が多く植えられている。
5	海老池	山田西 2	*現状は、千里ニュータウン（高野台）と山田の境界として、千里緑地の一部になっており、吹田市が管理している。
6	高町池	山田西 3	*竹谷の上部に堤を築いて作られ、かつては竹谷の水田を灌漑していた。現在は、高野台と山田西の間の千里緑地に囲まれたところにある。
7	遊水池	山田西 3	高町池からの水の流れに沿って 1km にわたって千里緑地として雑木林が保全されており、その中間あたりに遊水池がある。一帯は、「ヒメボタル生息地とそのヒメボタル」として平成 23 年 4 月に吹田市の天然記念物に指定されている。
8	王子池	山田西 4	*山田上村の垣当より西方、中ヶ谷の出口に堤を設けて造られた池。この池の下方、山田川右岸の田地だったあたりが字王子だった。以前はタケノコの産地だったが、現在は住宅地の中にある。
9	青葉ヶ丘南 8 の池	青葉ヶ丘南 8	おそらく宅地造成時に洪水調節池として造られたものと思われる。
10	青葉ヶ丘南 11 の池	青葉ヶ丘南 11	吹田市立東山田幼稚園に隣接した林の中にあったが、調査時には造成工事中だった。
11	青葉ヶ丘南 11 の池	青葉ヶ丘南 11	同上
12	星が池	千里が丘北 1	北側に稻荷神社があるが、その奥は小高い山になっている。また、南側にも一段高い千里が丘公園がある。星が池は、この谷を堰き止めて造られたようだ。
13	新蘆屋上の 池	新芦屋上	西から南側が低く、北から東側が高い位置にある。その裾に造られたため池で、地図によると、1970 年代にコンクリート造りとなったものと思われ、現在も深いコンクリート造りで、周辺はフェンスで囲われている。

14	三保が池	新芦屋下	比較的大きな池で、南側には道路があるが、北側には林があり良好な環境にある。 道路側には隣接して調節池があり、水が行き来できるようだ。
15	引谷池	山田東 4	*山田上村の集落の北側に張り出した尾根の裏側が引谷で、ここに堤を設けて作られたのが引谷池だ。主として上村に属する田地を灌漑していた。現在では、池の上半分は児童公園「引谷公園」になっている。
16	津雲公園の池	津雲台 3	津雲公園内の水路をせき止めてできた池で上流部は埋まっていた。
17	高野公園の池	高野台 1	1970 年代に埋められたようだ。
18	千里西 6 の池 (山田池)	千里山西 6	調査時には造成中だった。
19	千里山西 6 の池	千里山西 6	同上
20	佐井寺 4 の池	佐井寺 4	大平池の上流にある小さなため池で、東側に田地がある。高い金網フェンスで囲われ、フェンスには佐井寺水利組合の看板がかかっていた。 現在は造成中である。
21	大平池	佐井寺 4	*上之川の水源として重要な池。北方から続く墓之谷が愛宕山(行基山)の西麓で大きく西に屈曲した所に造られ、尻谷から河田にかけての田地に用水を供給していた。佐井寺村村誌に「掘立年歴享保十九年ナリ」(1734)とある。
22	小路新池	岸部北 4	*吉志部神社の下から、岸辺小路村の集落にかけて、ゆるやかに下る斜面の途中に設けられた池。1996 年頃、道路が小路新池の真ん中を通ったために、こんな小池になってしまった。
23	シゲ池	千里山竹園 1	*下新田の開発・入植とともに造成された由緒ある池だ。 1628(寛永五)
24	後谷新池	千里山竹園 1	*後谷新池は、明治初期に五ヶ所あった下新田の村持の池の中では、最も新しい池だ。目の前を新御堂筋が走り、池畔にマンションが迫ってはいても、アチラ谷は、典型的な千里の農村の谷の面影を残す、数少なくなった場所の一つである。
25	千里山竹園 1 の池 (高坂の池)	千里山竹園 1	住宅が立ち並んだ奥の林の中にあるようだ。
26	砂子谷新池	春日 4	*この池は、下新田の開発・入植とともに生まれた。1628(寛永五)年の「新在家入目もくろぐの事」に、すなこ谷の池とある。

			砂子谷は、比較的浅く広く開けた谷だ。谷の佐井寺側（東側）には、少しづつマンション群に浸食されてきてはいるものの、田畠がまだ残っている。
27	春日社周辺の池	春日 2	*少なくとも二つ位は残っている。ここは、西に凹んだ深い谷で、谷の一部は駐車場、残部は果樹園だ。池は、その上部にあって、U字溝の樋が堤を下って、畑に続いている。
28	春日 2 の池	春日 2	同上。林の中にあるようだ。
29	宮ヶ谷池	原町 2	*池の北方の尾根上に、1720 年頃勧請された地蔵堂が愛宕社として信仰されたことから、この池のある谷が「宮ヶ谷」と呼ばれるようになったのだと思われる。池の北縁から西縁にかけて公園化されたので、池面積は半分程度になった。
30	濁池	原町 2	周辺は道路となり、池はコンクリートと鉄柵で囲われている。
31	新からま池（馬池）	原町 2	*以前は、「たなうら池」「たなうら下池」と記載されていたが、後に、上池は「馬池」、下池は「牛池」と呼ばれ、馬池は、戦後、釣池「新からま池」と改称された。その後、牛池は埋めたてられた。
32	龍ヶ池	原町 3	*竹谷から下る谷と、西側のもう一つの支谷の合流点を堰止めた溜池。西側「上池」と北側が埋め立てられて宅地や公園となり、四角い池になってしまった。池には太陽光パネルが設置されている。
33	榎坂大池	江坂町 3	*上池と下池があったが埋め立てられて半分程度になって、残った部分が「榎坂大池」となった。その後、幼稚園と小学校が建設され、更に榎坂大池公園が造成され、池は元の 1/6 以下の大きさになった。 市の表示板には、（概略）「このため池を自然資源としてとらえ直し、既存の公園と一体的に再整備することによって、市民に水辺空間として憩いの場を提供することとなった。」と記載されていた。
34	垂水上池	円山町 3	*1941-1942 年の改修で流路が変わるまでは、上之川は今より西寄りを流れしており、この池が溜池兼遊水池になっていた。 1998 年 4 月、垂水上池の本体は、すっかり埋め立てられ、隣接にコンクリートで囲まれた貯水池がある。

*印は、「千里の水：池」を参考に記載した。

別紙一2 ため池の調査結果の概要

番号	ため池名	調査時期	調査結果の概要	チェックシートによる合計点
1	犬飼池	R6. 3	水は黒緑色で、周辺は草刈りなどよく整備されていた。時期的なこともあるか、生き物は見られなかった。	60
2	藤白池 (ピアノ池)	R7. 3	青黒くにごっていて魚の姿はみえない。シラサギ、ヒドリガモ5羽が見られた。 春には桜の花が咲きウシガエルの鳴き声が聞こえるが、現在は、ユキヤナギが咲きかけていた。	50
3	上池 (青谷池)	R7. 3	はぎの木公園内の池で、池の一部はコンクリートでできているが、浅瀬の部分には抽水植物が生え自然状態が保たれている。入り口に古江稻荷神社があるので、池の周囲は清掃されているようだが、池の中にはごみが見られる。鳥に餌付けをする人がいるのか人の声のする方に寄ってくる。水は黒くにごり、魚は沢山いると思うが見えない。鴨（ヒドリガモ他）は15羽、大きな水鳥が1羽、モズ他がいた。高木も多く、低木などもキレイに植えられていた。	60
4	長谷池	R7. 6	公園の中の池なので噴水もあり、ベンチに腰掛けてくつろいでいる人が多くいた。 池の半分はスイレンに覆われていて花が咲いていた。また、周辺には花しょうぶやアジサイが咲いていた。池にはコイやブラックバス、アカミミガメ、クサガメ、ウシガエルがいた。	77.5
5	海老池	R6. 4	むらさき公園内にあるが、池は公園から低い位置にあり、周辺は樹木やササで覆われて近づけない。ヤマザクラやカエデが多く植えられていた。池にはカツツブリがいて、コゲラやウグイスの鳴き声が聞こえた。	50
6	高町池	R6. 4	山田西公園内にあり、周辺は樹木で覆われているが、池の周囲は周回できるようになっている。	65

			水は黒緑色でヒゴイやアカミミガメが見られ、オオバン 2 羽、ヒドリガモ 4 羽がいた。 池辺にはハンノキが多く植えられ、ヨシやカヤが生えていた。	
7	遊水池	R6. 4	水は微白色でフナが多く見られた。水辺にはショウブやヨシが生え、カルガモ 2 羽、ヨシガモ 2 羽、コガモが見られた。ヒメボタルの生息地として自然状態が保たれている印象だった。	80
8	王子池	R6. 4	市街地の中にあり、王子池公園として整備されている。池は自然共生型の整備が行われ、各種のヤナギやヨシ、アゼスゲ、ショウブ、チガヤなどが植えられていた。また中央には浮島が作られ、アオサギやコサギ、カルガモヒドリガモ、カワウが見られた。小魚やアカミミガメも多く見られたが、すでにアオコが発生していた。	70
9	青葉ヶ丘南 8 の池	R6. 12	コンクリートで囲われた小さな調節池で、生き物の姿は見られず水は灰黒色だった。	25
10	青葉ヶ丘南 11 の池	R6. 12	調査時は宅地造成工事中ですでに池はなかった。	—
11	青葉ヶ丘南 11 の池	R6. 12	同上	—
12	星が池	R6. 12	星が池公園として整備されている。隣接に稻荷神社があり緑豊かである。水は灰黒色で、オオバンとカルガモ 6 羽がいた。	65
13	新蘆屋上の池	R6. 12	コンクリート造りの調節池で、隣接に竹林の新蘆屋上公園がある。水は少なく灰黒色で、魚は見られず、プラスチックの袋などがあった。	20
14	三保が池	R6. 12	対岸が緑地で紅葉がきれいだった。水は黄土色でホシハジロやカルガモ、マガモがいた。 この池に隣接して調節池がありカルガモが 2 羽いた。	45

			北西側で大規模な住宅造成工事が行われていた。	
15	引谷池	R6. 4	引き谷公園に隣接したコンクリートで囲われた調節池で奥に竹藪がある。 水は褐色で、多くのアカミミガメとクサガメも見られた。池にはボールや落葉、竹が浮いていた。	40
16	津雲公園の池	R6. 4	水は下流部に少し溜まった状態で、ショウブが植えられていた。上流の干上がった部分にはヨシが生えていた。	55
17	高野公園の池	R6. 10	公園内に池は見当たらなかった。	—
18	山田池	R6. 10	宅地造成中だった。	—
19	千里山西6の池	R6. 10	宅地造成中だった。	—
20	佐井寺4の池	R4. 9	金網フェンスで囲われ、見にくい状態だったが、水は黄緑色で生物の姿は見られなかった。 現在は、隣接の田地とともに造成されている。	35
21	大平池	R6. 6	コンクリートで囲われた調節池だが、池の表面はヒシで覆われ、水が見えないような状態だった。キンクロハジロやヒゴイが見られた。 周辺では田植えが行われていた。 R4. 9の調査時は、オオカナダモ、グリーヘアが生え、キンクロハジロが5羽いた。	42.5
22	小路新池	R6. 2	庭園にあるような小さなため池で、中央に噴水があり、擬木で囲われていた。水は黄緑色でアカミミガメがいた。また、コサギやカワセミが見られた。	60
23	シゲ池	R6. 10	コンクリートブロックで囲われており、池の周辺にはあまり木は生えていない。水は黒褐色でCODが10mg/lだった（水温20°C）。 下流に田地があり水は利用されているようだ。 アメンボがおり、シジミチョウが見られた。昨年池の水を抜いたということで魚は見られなか	50

			った。ゴミは少なかったが自転車が捨てられていた。	
24	後谷新池	R6. 10	住宅地にあり、東側に竹林がある。コンクリートで囲われた池で、周辺には木が若干生えている。水は黄土色に少し濁っていた。 (水温 24°C、透視度 20、COD13) 大きなコイやアカミミガメが見られた。ごみは少なかったが自転車やボールが捨てられていた。	37.5
25	千里山竹園1の池 (高坂池)	R6. 10	林の中で確認できなかった。	—
26	砂子谷新池	R6. 10	池の周辺はコンクリートブロックで囲われている。水は黒っぽかったが、透視度はよさそうだ。浅瀬にはヒメガマやヨシが多く生えていたが、周辺に木はない。ヒシが生え、グリーンヘアが付着していた。ブラックバスやブルーギル、アメリカザリガニ、スネークヘッドが見られた。ナニワトンボやシオカラトンボ、カマキリの卵が見られた。また、オオバンが多く見られた。ごみは、カイロ、カン、ペットボトルが捨てられていた。	72.5
27	春日社周辺の池	R6. 10	池があると思われる場所は竹林で、柵があつて入れない状態だった。 大阪府北部公園事務所の看板があった。	—
28	春日2の池	R6. 10	竹林の中にあり確認できなかった。	—
29	宮ヶ谷池	R6. 9	池は、閑静な住宅街の宮ヶ谷池公園内にある。コンクリートブロックで囲われた池で、水は茶色く汚れていて魚などは見られなかった。池には看板やマスクなどが浮いていた。トンボが見られ、池の周辺には木が植えられていて、カワセミも見られた。	37.5

30	濁池	R6. 9	コンクリートで囲われた灌漑用ため池である。多くの藻が浮いていて水の中の様子がわからないが、水はきれいだ。少年が釣をしていたので魚がいるのだと思う。シオカラトンボが見られた	22. 5
31	新からま池 (馬池)	R6. 9	閑静な住宅街に位置する結構大きなため池で、一部矢板でできているようだが周辺には低木が生え、ヨシも生えていて風情がある。大きなアカミミガメやコイが見られたが、タイヤや自転車などごみが多くかった。アゲハチョウやトンボが見られた。アオコが発生していた。	50
32	龍ヶ池	R6. 9	池はソーラーパネルで覆われ、生き物の気配は感じなかった。水は茶色く濁っていた。	40
33	榎坂大池	R6. 10	榎坂大池公園の中の池で、周囲はコンクリートブロックで囲われ、一部にヨシが生えていた。中央に噴水がある。江坂蔵人水利組合の看板と吹田市緑化公園室（2005年）の池についての説明看板があった。 ヒシが生え、ごみが多く見られた。マガモ、カイツブリ他、多くの水鳥が見られた。業者が草刈り中だった。	30
34	垂水上池	R6. 6	公園の池には水はなかった。以前、水がある時に行った時は、ウシガエルの鳴き声が聞こえた。公園にはオガタマノキやオオシマザクラ、イスノキ、マンサクなどが植えられていた。 隣接のコンクリートの調節池の水は黄緑色で生き物は見られずごみが浮いていた。	20

S D G s 啓発プロジェクトチーム

～2024年度活動を振り返って～

1 はじめに

(1) 研究テーマ

(2) 研究テーマ設定の理由

(3) 研究方法

(4) 研究経過

・2024年度活動履歴

(5) 研究成果

・各種実施後のデータ・アンケート・年間評価集計

2 その他

・PT新メンバーからの抱負

「ゲット・ザ・ポイント」で子供達に伝えたいこと

井上 道代

S D G s 啓発プロジェクトチーム

三枝 茂* 井上道代* 大垣秀樹

若生留美子 野村美幸 関ともえ* 森田佳子 金馬悦子

中東 潤 若林 肇 松本由美加 (*印は執筆者を示す)

SDGs啓発プロジェクトチーム

私達を取り巻く環境と2024年度活動について

1. はじめに

(1) 研究テーマ

2024年度は年間を通して環境出前講座を中心とした啓発活動に取り組む事が出来た。

「啓発」という言葉の通り、ワークショップに参加頂いたクラブ支援の子供達が将来、成長していく中で、ふと環境について「そういえば、習った事があるかも?」と思い出し、改めて意識する様になり、何らかの行動に繋げるそうしたきっかけになれば、それがPTとしての活動の成果であり、研究テーマであると感じている。

(2) 研究テーマ設定の理由

SDGsが設定された2015年から10年目に入り、残り5年間でどこまでの成果を感じる事が出来るかは今の世界の動向を見ても疑問な状況になってきている。環境問題に対して、本来、主導的立場にあるはずの先進国と呼ばれる一部の国々が現在、世界を混乱に導き不安な状況を生み出している現実がある。この様な状況であればあるほど、SDGsの重要性が近い将来、更にクローズアップされて進められる事を信じて、私達としては、微力ではあるが、将来を担う小学生達に楽しみながら学習出来るカードゲームを通して、環境に対する意識と興味を持って頂く為にワークショップを行う事をテーマ設定とする。この活動を通して、私達自身も学べる機会を持てる事と子供達との交流の場を通して刺激を受け成長出来ること、また、カードゲームを行った中でのアンケートの結果を通して方向性を再確認することと研究成果に繋げて意識を高めて、これをきっかけとしてメンバー各自が多分野にも興味を拡げて活躍していく様に進めていきたいと思う。

(3) 研究方法

2024年は、“Get The Point”と“なんでやろう？食品ロス”の2種類のカードゲームを中心にクラブ支援、環境出前講座をファシリテーター2名でこなしていく事が出来た。2025年からは、メンバーの減少もあったが、新たに5名のメンバーを迎える事が出来た。総勢8名になり、意識としては新規のチームのつもりで取り組んでいきたいと考えている。新メンバーはファシリテーターについても興味を持って頂けているので、希望される方には認定講座受講にまでつなげて行きたい。また、現状の2種類のカードゲームに加えて新たに2種類程度のゲームを加えてバリエーションを増やす事で切り口を変え、ワークショップ自体のマンネリ感も払拭していく。候補としては大阪府作成の3Rをテーマとしたカードゲームをラインナップに加えること、また、活動を通してネットワークを拡大することで様々な方や企業・団体の皆さんとも知り合う可能性を感じているので、それを活用することで各人が知見を吸収させて頂き、交流することでプラザでの市民研究員としてのレベルアップと活動範囲を広げていくことで情報を共有しながら学習していくことで研究成果に繋げていきたいと感じている。

(4) 研究経過（環境出前講座）

2024年度カードゲーム開催実績

- 5月20日 (月) 千里第一小学校 (エコクラブ) なんでやろう? 食品ロス
- 6月 5日 (水) 千里第二小学校 (エコで遊ぼう) Get The Point
- 6月10日 (月) 吹田第一小学校 (エコクラブ) Get The Point
- 6月26日 (水) 佐竹台小学校 (エコクラブ) Get The Point
- 7月13日 (土) くるくる環境スクール (カードゲーム体験会) Get The Point
- 8月31日 (土) 吹二公民館 (カードゲーム体験会) Get The Point
- 9月 2日 (月) 藤白台小学校 (エコ体験クラブ) Get The Point
- 9月11日 (水) 山田第二小学校 (エコクラブ) なんでやろう? 食品ロス
- 10月19日 (土) もったいないバザール なんでやろう? 食品ロス
- 10月31日 (土) 千里金蘭大学 (カードゲーム体験会) ついついカードゲーム
- 11月13日 (水) 吹田第二小学校 (環境クラブ) Get The Point
- 11月25日 (月) 藤白台小学校 (エコ体験クラブ) なんでやろう? 食品ロス
- 12月 9日 (月) 千里第一小学校 (エコクラブ) なんでやろう? 食品ロス
- 12月21日 (土) くるくるキッズスクール (カードゲーム体験会) なんでやろう? 食品ロス

2025年

- 1月27日 (月) 山手小学校 (SDGs クラブ) Get The Point
- 2月12日 (水) 山田第二小学校 (エコクラブ) なんでやろう? 食品ロス

(5) 研究成果

5月20日(月) 14:40~15:25 環境出前講座 吹田市立千里第一小学校

なんでやろう？食品ロスカードゲーム エコクラブ 参加者25名

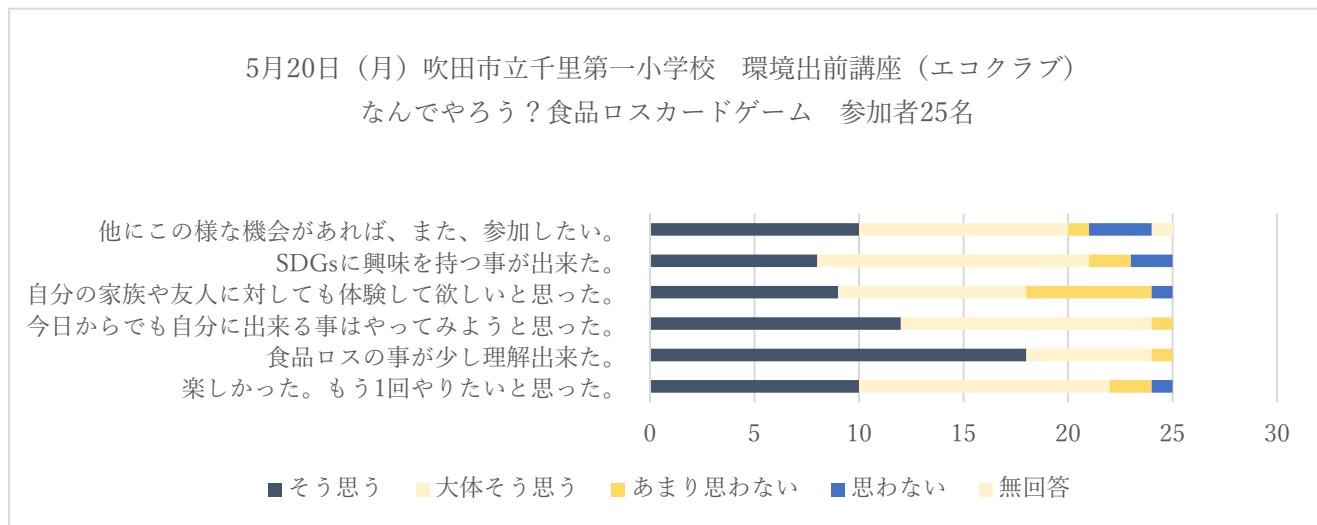
市民研究員(三枝・井上) 環境教育企画グループ(下村) 身近な環境PT(西村)

アンケート回答内訳 4年生(6名) 5年生(8名)・6年生(11名) 25名 先生3名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない	無回答
楽しかった。もう1回やりたいと思った。	10	12	2	1	0
食品ロスの事が少し理解出来た。	18	6	1	0	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。	12	12	1	0	0
自分の家族や友人に対しても体験して欲しいと思った。	9	9	6	1	0
SDGsに興味を持つ事が出来た。	8	13	2	2	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したい。	10	10	1	3	1

今日の学習で「よかったです」「楽しかった」「がんばった」「わかりにくかった」と思うことがあったら自由に書きましょう。

- ・ゲーム楽しかったです。
- ・食品ロスをちょっとずつでも減らしていきたい。
- ・SDGsに取り組める様なのでこらからもクラブをやりたいです。



6月5日（月）13:30～14:30 環境出前講座 吹田市立千里第二小学校

Get The Point カードゲーム エコで遊ぼう 参加者 29名

市民研究員（三枝・大垣・井上・松本）主担研究員（内田） 事務局（大森）

アンケート回答内訳 4年生（9名）5年生（16名）・6年生（4名） 29名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境についてわかりやすい説明だった	28	1	0	0
わかりやすく楽しかった	23	6	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	24	4	1	0
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った	19	8	1	1
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	22	5	2	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	22	6	0	1

今日の学習で「よかったです」「楽しかった」「がんばった」「わかりにくかった」と思うことがあつたら自由に書きましょう。

- ・ゲームとても楽しかったです。
- ・遊びながらSDGsを知り資源の大切さを学べて良かった。
- ・最初は簡単なゲームだと思ったが、実際にやってみて意外と難しいと思った。
- ・資源は貴重だから大切にしようと思った。
- ・木材がリサイクル出来る事を知りました。
- ・一人一人の思いを伝えあえて良かった。
- ・1回目は勝てれば良いと思ったが、2回目はみんなでまとまる事が出来てすごく楽しかった。
- ・ゲームの中でどうやれば資源を残せるかを考えて行えたのでSDGsがとてもわかりやすかった。

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- ・資源はすぐになくなるので大切にしようと思った。
- ・このまま生活すると世界がこわれるなと思った。
- ・SDGsがものすごく大切なものであると知った。
- ・資源を大切にするには、人と人で協力すると知った。

明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- ・電気代が高くなっているので節約する。
- ・人にも地球にもやさしくしたい。
- ・無駄なものを買わない様にしたい。
- ・ものは直して本当に壊れてから捨てる。エコバッグ、水筒、ティッシュじゃなくてタオルを使う。
- ・ご飯を残さない様にする、水を出しつぱなしにしない。

6月5日（月）千里第二小学校 環境出前講座（エコで遊ぼう）

Get The Pointカードゲーム 参加者29名

他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った

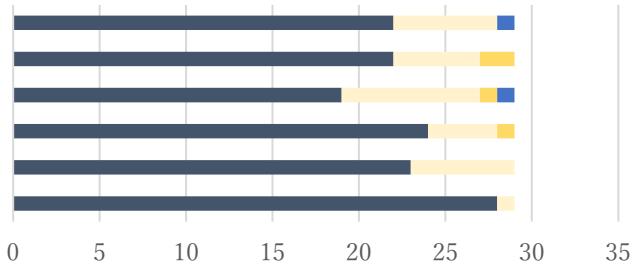
自分で何か出来る事をさがしてみたいと思った

家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った

今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった

わかりやすく楽しかった

エコや環境についてわかりやすい説明だった





6月10日（月）13:50～15:40 環境出前講座 吹田市立吹田第一小学校

Get The Point カードゲーム エコクラブ参加者 16名 市民研究員（三枝・井上）見学（山下）

アンケート回答内訳 4年生（5名）5年生（5名）・6年生（4名）先生（1名） 15名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない	無回答
エコや環境についてわかりやすい説明だった	12	3	0	0	0
わかりやすく楽しかった	13	2	0	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	9	5	1	0	0
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った	8	5	2	0	0
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	9	4	0	1	1
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	12	2	0	0	1

今日の学習で「よかったです」「楽しかった」「がんばった」「わかりにくかった」と思うことがあつたら自由に書きましょう。

- ・ 地球1つ分で足りる様にしないといけない事が大切だと思いました。
- ・ 資源がずっと回復していく事が大切だと思った。
- ・ 皆で出来て嬉しかった。
- ・ 面白かった。
- ・ 木材など復活できる資源は出来るだけ残していく方が良いと思った。
- ・ 今日の学習は学びながら楽しめたので一石二鳥でした。
- ・ 自分で何ができるかを探したいと思った。
- ・ ゲームを通して楽しくSDGsや地球の現状を知る事が出来て良かったと思いました。

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- ・ 資源が無いと物が作れなくなるので大切に使わなくてはならないと思った。
- ・ 1回目と2回目で設定が違ったのでグループで協力して資源の事を考えて理解出来て良かった。
- ・ 必要なものでも使い過ぎには注意した。
- ・ 再生可能を意識して行動したい。
- ・ 1ゲーム目と2ゲーム目を比べて全然違うと思った。

明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- ・ 資源を無駄使いしない様に大切に使う。
- ・ ご飯を残さない様にしたい。
- ・ ごみを減らして出さない。
- ・ 電気をこまめに消す・紙ごみをリサイクルボックスに捨てようと思った。

6月10日（月）13:50～15:40 吹田市立吹田第一小学校

環境出前講座（エコクラブ）Get The Pointカードゲーム参加者 16名

自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった
エコや環境についてわかりやすい説明だった





6月26日（水）13:30～15:20 環境出前講座吹田市立佐竹台小学校

Get The Point カードゲーム エコクラブ 参加者 26名

市民研究員（三枝・井上）事務局（林・山川）

アンケート回答内訳 4年生（17名）5年生（3名）・6年生（2名）先生（1名） 23名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない	無回答
エコや環境についてわかりやすい説明だった	18	4	0	0	1
わかりやすく楽しかった	20	3	0	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	15	6	2	0	0
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った	14	4	2	1	2
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	16	6	1	0	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	15	5	3	0	0

今日の学習で「よかったです」「楽しかった」「がんばった」「わかりにくかったです」と思うことがあつたら自由に書きましょう。

- ・ゲームが楽しかった。
- ・ゲームを通して資源を大切にする大切さを改めて知る事が出来ました。
- ・クライシスやサスティナブルとか色々と理解出来た。
- ・リサイクルはとても大事でこれから気をつけようと思いました。
- ・最初は難しかったけど2回目で理解出来ました。
- ・すごく楽しかったです。すごく分かり易かったです。またやりたいです。
- ・食料を探るのにこんなに大変だとは知らなかったです。
- ・楽しく資源やSDGsについて学べました。
- ・節約しないと大変な事になると思いました。

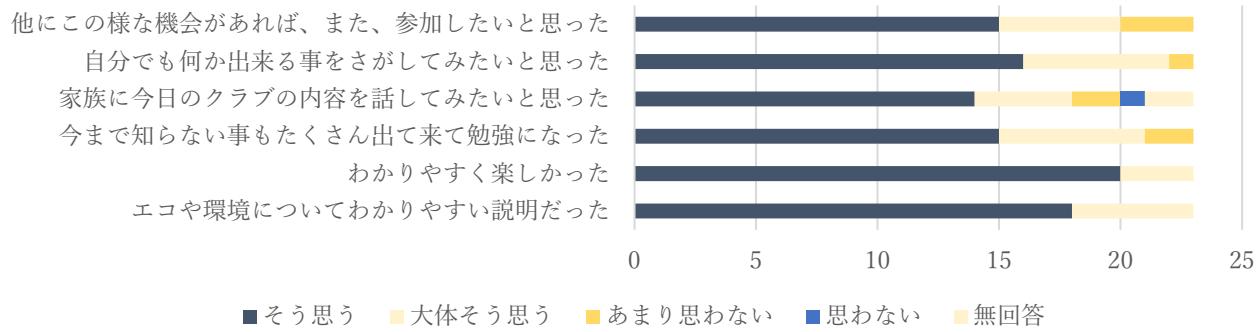
ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- ・目先の利益ばかり考えてはいけない「持続可能な…」の意味を考えさせられました。
- ・SDGsの仕組みが、すごく分かり易かったです。
- ・地球には限られた資源しかない事がわかつた。
- ・協力する事で資源が減りにくくなつた。
- ・もっとSDGsの事を知りたいと思った。

明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- ・プラスチックごみを減らす。
- ・手を洗う時に水を出し過ぎない。食べ物を粗末にしない。
- ・電気をまめに消す。早く寝る。食べ物を残さない様にする。
- ・お母さんに言う。

6月26日（水）13:30～15:20 吹田市立佐竹台小学校
環境出前講座（エコクラブ）GetThePointカードゲーム 参加者26名



7月13日（土）10:00～11:45 くるくる環境スクール

第3回講座 SDGs カードゲーム 参加者 20名

市民研究員（三枝・井上）お手伝い（山下）アンケート回答 20名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない	無回答
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	12	8	0	0	0
わかりやすく幅広い年代で楽しめる内容だと思った	16	4	0	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	11	7	2	0	0
自分もカードゲームのワークショップをしてみたいと思った	8	7	4	1	0
SDGsについて何か出来る事を具体的に探してみたいと思った	10	8	1	0	1
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	14	4	1	0	1

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- 他人の意見を尊重し協力しないと良い結果を見出せない
- 目標を持つと行動が変わるという話の通りで2回目の方が点数について大きく上回って驚いた。
- 個人戦とチーム戦だけで得点の差が協力する事で大きく変わった事をゲームとして気づかされた。
- 自己中心的ではダメで皆と協力してという視点が大事だと思った。
- 1ゲームと2ゲームを比べて全然違うと思った。
- 目標が変わると結果が変わることが実感できるとても良く出来たゲームだと思った。
- グループの人の気持ちが少しわかった様な気がした。
- 資源に回復するものとしないものがある事、資源を残す事の大切さを感じた。
- 回復出来ない資源を使い切ると無くなってしまう事が実感出来た。
- 座学ではなく体感しながら学べた事は良かった。

明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- ・必要な量だけ買う様にする。
- ・SDGsに真剣に取り組んでいる企業かどうかを意識しようと思った。
- ・手前取りを意識しようと思った。
- ・冷蔵庫の中身チェック・不要なものはリサイクルへ・SDGsウォッシュやIDGsを理解したい。
- ・自動車を自転車にペットボトルを水筒へ。
- ・家庭の中の食品ロスは出来るだけ減らそうと思い、食品を傷めずに食べる工夫をしたい。
- ・衣料品のリサイクルについて考えてみたい。
- ・本当に必要なものしか買わない、エネルギーを可能な限り節約する。
- ・家族にも話して共有した。
- ・常に次世代の事を考えたい。

7月13日くるくる環境スクール第3回講座「SDGsカードゲーム」

他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った



SDGsについて何か出来る事を具体的に探してみたいと思った



自分もカードゲームのワークショップをしてみたいと思った



今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった



わかりやすく幅広い年代で楽しめる内容だと思った



エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた



0 5 10 15 20 25

■ そう思う ■ 大体そう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答



8月31日（土）13:50～15:30 吹二公民館

Get The Point カードゲームで楽しくSDGsを知ろう！

Get The Point カードゲーム 参加者 11名

市民研究員（三枝・井上・松本・山下） 参加者 12名

アンケート回答 11名 1年生 1名 3年生 1名 4年生 2名 6年生 2名 父兄・関係者 6名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	8	3	0	0
わかりやすく楽しかった	8	3	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	8	3	0	0
家族に今日のゲームの内容を話してみたいと思った	6	2	2	1
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	6	3	2	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	8	2	1	0

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- ・2回目は皆で工夫しながら対応出来再生資源の有効性を学べた。
- ・欲だけで生活すると資源が無くなってしまう事が続かない、1人1人の意識が大切。
- ・アースオーバーシュートデイについて聞いて驚いた、使い過ぎ残り物を増やさない。
- ・若い方達と一緒にゲームが出来て良かった。
- ・SDGsの問題も若い方達が中心になって問題解決出来れば良い。
- ・低学年でも理解出来、楽しく学習が出来た。
- ・大人は脳トレになると思った。
- ・多くの人がSDGsを身近な問題として考える機会が増えれば良いと思う。

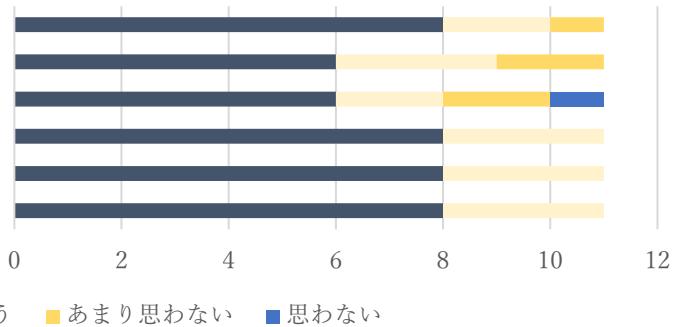
明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- ・もったいない運動。
- ・エコバッグ使用・ペットボトル再利用・マイボトルの使用・プルリングを車いすなどに再利用。
- ・廃棄食品を減らす。環境に配慮した商品を選んで購入する。
- ・節電・余分なものは買わない、今使えるものは最後まで使い切る。
- ・毎日の生活の中で小さい事でもしっかり考えて資源を有効に使っていけるようにしたい。
- ・廃棄食品を減らして食事を作りたい。

8月31日（土）13:50～15:30 吹二公民館

Get The Point カードゲームで楽しくSDGsを知ろう！

他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った
家族に今日のゲームの内容を話してみたいと思った
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった
わかりやすく楽しかった
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた





9月2日（月）14:20～15:30 吹田市立藤白台小学校 エコ体験クラブ

Get The Point カードゲーム 参加者 17名

市民研究員（三枝・井上・松本）アンケート回答 16名 4年生10名 6年生5名 先生2名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	11	5	0	0
わかりやすく楽しかった	15	1	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	11	5	0	0
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った	3	10	1	2
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	13	3	0	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	13	3	0	0

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- 自分が地球の運命を変えるゲームみたいで盛り上がった。
- 自然は限りがあって植物は増えるけれど使い過ぎはダメだと思った。
- 環境維持をしなければ巡り巡って人類が絶滅してしまう。
- 環境について知らない事がたくさんわかった。
- 森林破壊はダメだと思った。
- このゲームがゲームでなかったら私達の生活が大変な事になっていた。

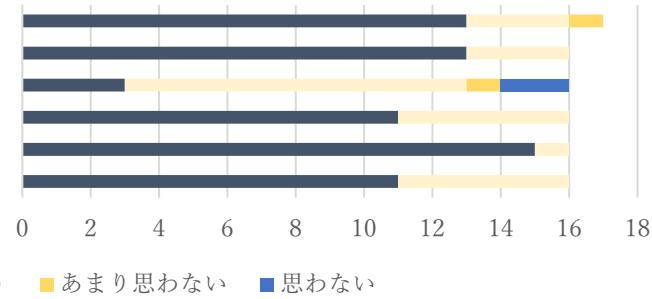
明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- 省エネ・植樹などをしてみたい。
- ごみの分類。
- プラスチックを減らす。
- 水を出しつぱなしにしない。
- 給食を残さない。
- リサイクルをする。
- 牛乳をストローレスで飲む。

9月2日（月）吹田市立藤白台小学校 エコ体験クラブ

GetThePoint 14:20～15:30

他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった
わかりやすく楽しかった
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた





9月11日（水）13:40～14:25 吹田市立山田第二小学校 エコクラブ環境出前講座

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 参加者 28名

市民研究員（三枝・井上）岡本（見学）

アンケート回答 28名 4年生 11名 5年生 10名 6年生 7名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	19	8	1	0
わかりやすく楽しかった	20	5	3	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	19	7	2	0
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った	11	12	4	1
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	17	9	2	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	15	8	3	2

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

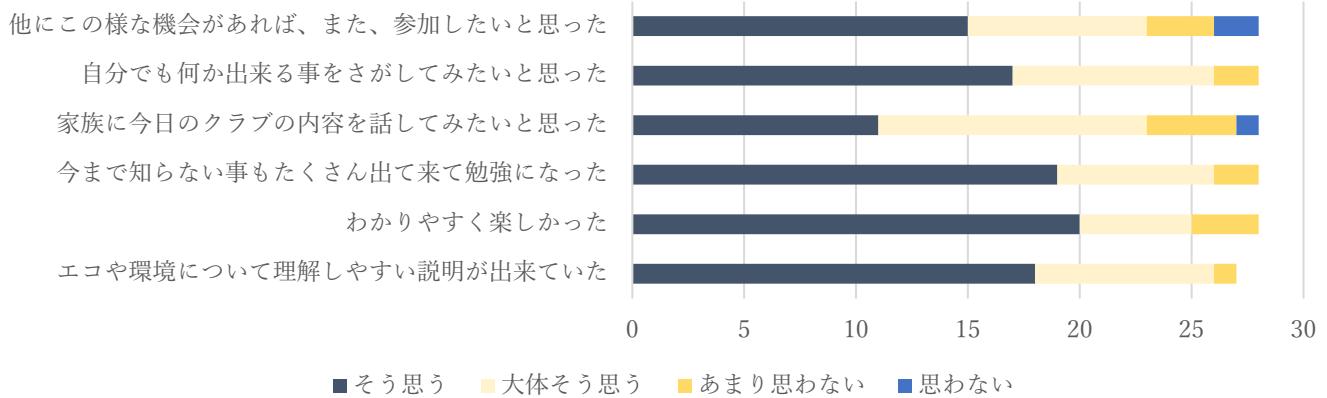
- ・日本国民で1人がお茶碗1杯分の食べ残しが出ている事。
- ・食品ロスについて解決方法や食品ロスの原因がよくわかった。
- ・食品ロスを減らす事は大きな事に繋がるので頑張りたいと思った。
- ・好き嫌いを克服する様に努力する事も食品ロスを減らす事になると思った。
- ・SDGsの大事さがよくわかった。
- ・たこ焼きが出来るまでにもたくさんの食品ロスがある事がわかり驚いた。
- ・楽しく食品ロスについて学べた、もっとしたいと思った。
- ・食品ロスを減らすには、簡単な事で出来る事に気づいた。
- ・食品ロスの量に驚いた。
- ・この機会で楽しいゲームが出来て嬉しかった。

明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- ・好き嫌いを無くす。
- ・食べ残しをしない。
- ・着る事が出来なくなった服は知り合いに渡して着てもらう。
- ・いらない食べ物は買わない、飲みきる、食べきる。
- ・買い物をする時に手前取りをする。
- ・食べきれる量だけ買ったり、作ったりする。
- ・賞味期限が短いものは早めに食べる。
- ・家族に食品ロスの事を知らせる。
- ・手前取りをしようと思った。
- ・これから、食品ロスを心掛けたいと思った。

9月11日（水）吹田市立山田第二小学校エコクラブ環境出前講座

参加者28名（4年生11名・5年生10名・6年生7名）



9月18日（水）12:30～14:10 兵庫県立加東市立滝野南小学校 環境出前講座
Get The Point カードゲーム 参加者 150名



10月19日（土）10:00～14:00 第2回もったいないバザール 千里リサイクルプラザ

SDGs啓発プロダクトチーム・環境事業協会ワークショップ

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 参加家族23組 参加者47名 アンケート回答 22名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
楽しかった。もう1回やりたいと思った。	17	5	0	0
食品ロスの事が少し理解出来た。	19	3	0	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。	20	2	0	0
自分の家族や友人にも体験してほしいと思った。	14	8	0	0
SDGsに興味を持つ事が出来た。	19	3	0	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	17	5	0	0

ご意見が有りましたら自由に記入下さい。

- ・また、機会があれば参加します。
- ・簡単でわかりやすく、食ロスの理解が進むと思いました。
- ・自分も心掛けてエコに頑張ります。
- ・初めてのカードゲームでしたが、他の知り合いの人とも一緒にやってみたいと思いました。

10月19日（土）第2回もったいないバザール 千里リサイクルプラザ

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 参加家族23組 47名

アンケート回答 22名 SDGs啓発PT&環境事業協会ワークショップ

他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った

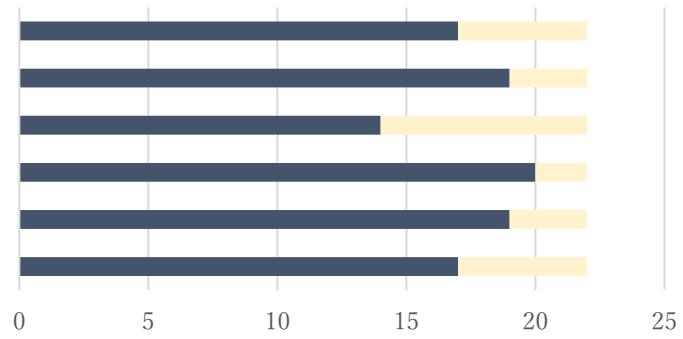
SDGsに興味を持つ事が出来た。

自分の家族や友人にも体験してほしいと思った。

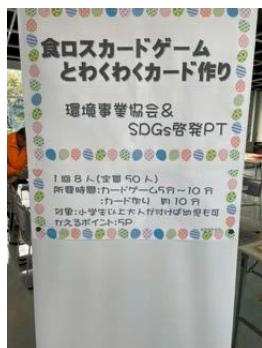
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。

食品ロスの事が少し理解出来た。

楽しかった。もう1回やりたいと思った。



■ そう思う ■ 大体そう思う ■ あまり思わない ■ 思わない



10月31日（木）12:30～14:10 千里金蘭大学 ワークショップ

ついついカードゲーム 参加者9名



11月13日（水）14:20～15:30 吹田市立吹田第二小学校 環境クラブ

Get The Point カードゲーム

市民研究員（三枝・井上） 山下（見学）

参加者 20名 内訳 (4年生7名 5年生6名 6年生6名 先生1名) アンケート回答18名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない	無回答
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	15	3	0	0	0
わかりやすく幅広い年代で楽しめる内容だと思った	14	3	0	0	1
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	17	1	0	0	0
自分もカードゲームのワークショップをしてみたいと思った	13	1	4	0	0
SDGsについて何か出来る事を具体的に探してみたいと思った	13	3	1	1	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	13	3	1	1	0

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- ・資源を大切にする。
- ・資源を使い過ぎた。
- ・普段、携帯を毎日たくさん見ていたけどダメな事だなと気づいた。
- ・楽しかったし、SDGsの事が良くわかった。
- ・資源の大切さがわかった。
- ・資源は少しづつ使わないといけないと感じた。
- ・明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動。
- ・好き嫌いをしない。
- ・リサイクルをしようと思った。
- ・携帯を使う時間を決めようと思った。
- ・もったいなく、ならない様に資源を使わなくてはならないと思った。
- ・出来るだけ野菜を食べる。
- ・資源を無駄にしない。

吹田市立吹田第二小学校 環境クラブ

11月13日（水）14：20～15：20 参加者20名

内訳 4年生7名・5年生6名・6年生6名・先生1名

アンケート回答18名

他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った

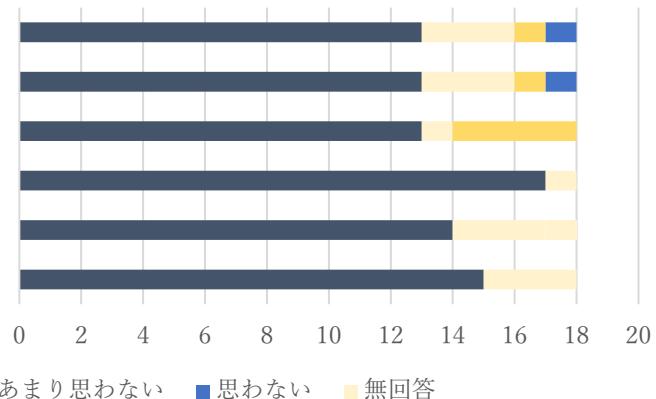
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った

家族に今日の話を聞かせてみたいと思った

今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった

わかりやすく楽しかった

エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた



11月25日（月）14：40～15：40 環境出前講座（エコ体験クラブ） 吹田市立藤白台小学校

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 参加者 16名（4年生3名・5年生6名・6年生9名）

アンケート回答内訳 4年生3名・5年生6名・6年生7名

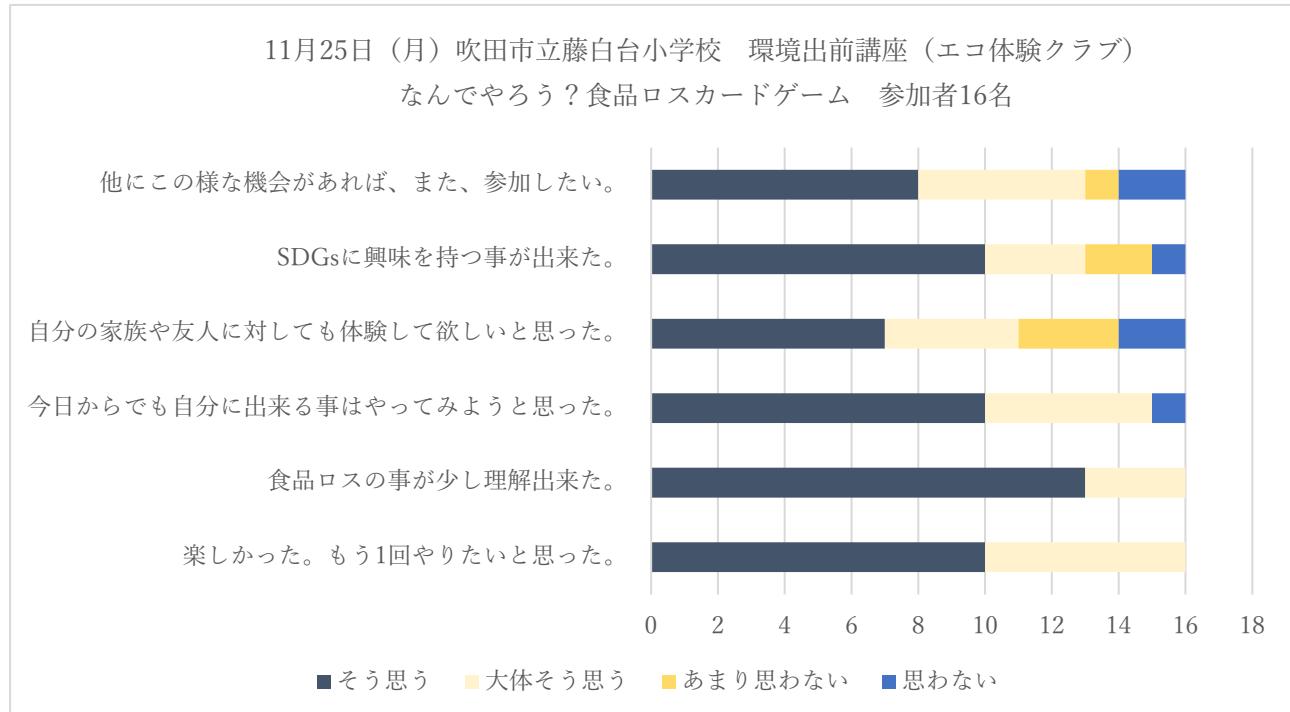
質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
楽しかった。もう1回やりたいと思った。	10	6	0	0
食品ロスの事が少し理解出来た。	13	3	0	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。	10	5	0	1
自分の家族や友人に対しても体験して欲しいと思った。	7	4	3	2
SDGsに興味を持つ事が出来た。	10	3	2	1
他にこの様な機会があれば、また、参加したい。	8	5	1	2

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- ・資源を大切にする。
- ・資源を使い過ぎた。
- ・普段、携帯を毎日たくさん見ていたけどダメな事だなと気づいた。
- ・楽しかったし、SDGsの事が良くわかった。
- ・資源の大切さがわかった。
- ・資源は少しずつ使わないといけないと感じた。

明日からの生活の中で自分が出来そうなSDGs達成に向けた行動

- ・好き嫌いをしない。
- ・リサイクルをしようと思った。
- ・携帯を使う時間を決めようと思った。
- ・もったいなく、ならない様に資源を使わなくてはならないと思った。
- ・出来るだけ野菜を食べる。
- ・資源を無駄にしない。
- ・食品ロスがないようにする。



12月9日（月）14:40～15:25 吹田市立千里第一小学校 エコクラブ 市民研究員（三枝）

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 参加者 24名

アンケート回答 24名 4年生8名 5年生8名 6年生8名

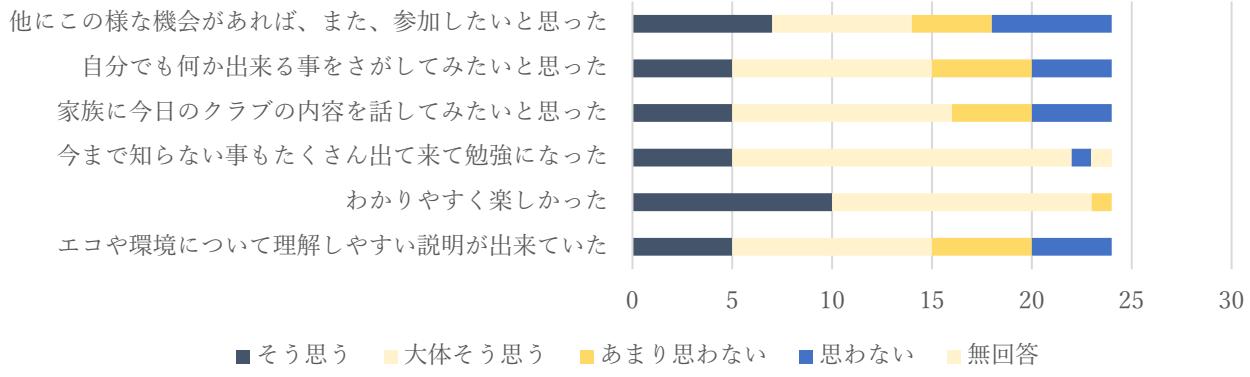
質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない	無回答
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	5	10	5	4	0
わかりやすく楽しかった	10	13	1	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	5	17	0	1	1
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った	5	11	4	4	0
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	5	10	5	4	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	7	7	4	6	0

ゲームをプレイしてみて感じたこと・気づいたこと

- SDGs とは何かが分かりました。
- 食品ロスを無くせる様に親や友達に広めたいです。
- もう少しシンプルにしたらやり易いと思った。3種類くらいがちょうどいいかも。
- もう少しルールを分かり易くしたら低学年でも出来ると思った。
- 楽しく遊びながら環境について学ぶ事はとても良い事だと思う。
- もっとやってほしいと思った。

12月9日（月）吹田市立千里第一小学校 エコクラブ

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 14:40～15:25



12月21日（土）10:00～11:45 くるくるキッズ環境スクール修了式ワークショップ

お野菜クイズ・なんでやろう？食品ロスカードゲーム

参加者7名 アンケート回答6名 市民研究員（三枝・井上）環境事業協会（佐藤・吾妻）

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
年間通して毎回楽しく参加出来ましたか。	5	1	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になりました。	6	0	0	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思いましたか。	5	1	0	0
自分の家族や友人にも体験してみてほしいと思いましたか。	5	0	0	1
SDGsに興味を持つ事が出来ましたか。	5	1	0	0
他にこの様な機会があれば、また、参加してみたいと思いましたか。	6	0	0	5

今日の講座について感想を聞かせて下さい

- ・ゲームが楽しかった。お野菜クイズの正解が多くて楽しかった。
- ・野菜とか食品ロスの事をいっぱい覚える事が出来た。
- ・キッズスクールの最終回でこんなに楽しい遊びが出来るとは思わなかった。
- ・カードゲームが楽しかった。

保護者の意見

- ・野菜のどの部分を食べていたとかを意識した事がなかったので楽しかった。
- ・いかに日本中で食品ロスが多いか自分自身の行動に気を付けないといけないと思った。
- ・街中で見かけるロスやSDGsに反応する様になった。
- ・いつもは行かない公園や知らない場所に行けて楽しかった。
- ・わかりやすく勉強になった。牛乳パック活用を意識する様になった。
- ・野菜クイズは意外な答えで驚いた。大根・リンゴは皮までピーマンの種まで食べられるとは試してみたい。
- ・友達とも会話出来て楽しいゲームだった。
- ・生活の中で勉強した事を試してみたい。
- ・食品ロスのカードゲームがある事を知らなかった。食品ロスの多さに改めて感じさせられた。
- ・牛乳パックが空になると子供達がリサイクルと言って中を洗ってくれる様になった。
- ・家で食品ロスに対して親子で楽しみながら取り組んでいきたい。
- ・親以外から情報を得る事で少しほは意識してくれる様になった。
- ・リサイクルについての意識が高まった。

12月21日（土）くるくるキッズスクール修了式

他にこの様な機会があれば、また、参加してみたいと思いましたか。

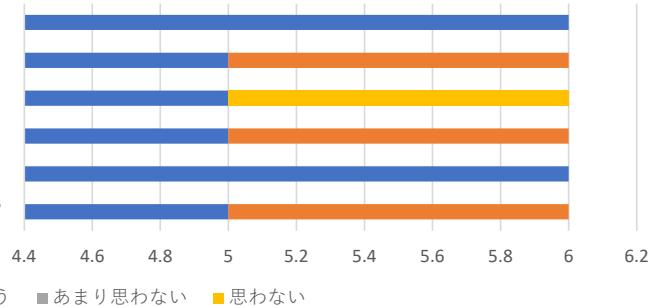
SDGsに興味を持つ事が出来ましたか。

自分の家族や友人に対してやらせてみたいと思いましたか。

今日からでも自分に出来る事はやってみようと思いましたか。

今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になりました。

年間通して毎回楽しく参加出来ましたか？





1月27日（月）14:10～15:10 SDGs クラブ環境出前講座 吹田市立山手小学校

Get The Point カードゲーム 参加者 17名 三枝・井上参加 環境スクール修了生 若生さん見学

アンケート回答内訳 4年生（3名）5年生（6名）・6年生（7名） 16名

	そう思 う	大体そう思 う	あまり思 わない	思 わない
他にこの様な機会があればまた参加したい。	10	6	0	0
SDGsに興味を持つ事が出来た。	13	3	0	0
自分の家族や友人にも体験して欲しいと思った。	10	5	0	1
今日からでも自分に出来る事はやってみたいと思った。	7	4	3	2
食品ロスの事が少し理解出来た。	10	3	2	1
楽しかった、もう1回やりたいと思った。	8	5	1	2

今日の学習で「よかった」「楽しかった」「がんばった」「わかりにくかった」と思うことあつたら自由に書きましょう

- ・資源の限りを考えながら使う事が難しかった。
- ・楽しかった。リサイクルについて考えさせられた。
- ・食事を残さずに食べようと思った。
- ・無駄に資源を使いたくないと思った。
- ・化石燃料は使わざるを得ないが長く使えるリサイクルをしたいと思った。
- ・1回目よりも2回目がチームで協力して考えて資源を循環出来る様になれた。
- ・地球の環境について理解出来ました。
- ・SDGsが無ければダメだと思った。
- ・皆で協力するのは大事だと思った。
- ・資源が無くならない様に使う分だけ作る事が大切だと思った。
- ・いろいろな問題点について改善点を見つける事が出来た。
- ・ゲームを通してSDGsを学ぶ事が出来て楽しかった。

1月27日（月）吹田市立山手小学校 SDGs クラブ環境出前講座

4年生3名・5年生6名・6年生7名 17名参加 アンケート回答16名

他にこの様な機会があれば、また、参加したい。

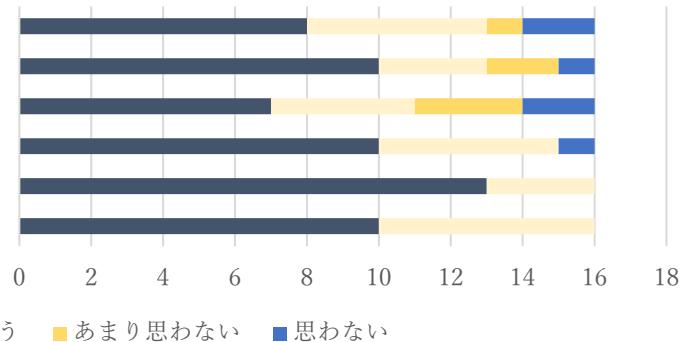
SDGsに興味を持つ事が出来た。

自分の家族や友人に対しても体験して欲しいと思った。

今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。

食品ロスの事が少し理解出来た。

楽しかった。もう1回やりたいと思った。





2月12日（水）13:40～15:25 環境出前講座（エコクラブ） 吹田市立山田第二小学校
なんでやろう？食品ロスカードゲーム
参加者28名（4年生10名・5年生9名・6年生7名・教師2名）
アンケート回答内訳 26名回答 4年生10名 5年生9名 6年生7名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
楽しかった。もう1回やりたいと思った。	23	3	0	0
食品ロスの事が少し理解出来た。	20	5	1	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。	19	5	1	1
自分の家族や友人に対しても体験して欲しいと思った。	16	8	2	0
SDGsに興味を持つ事が出来た。	18	5	1	2
他にこの様な機会があれば、また、参加したい。	16	8	1	1

2月12日吹田市立山田第二小学校環境出前講座（エコクラブ）

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 参加者28名アンケート回答26名

他にこの様な機会があれば、また、参加したい。

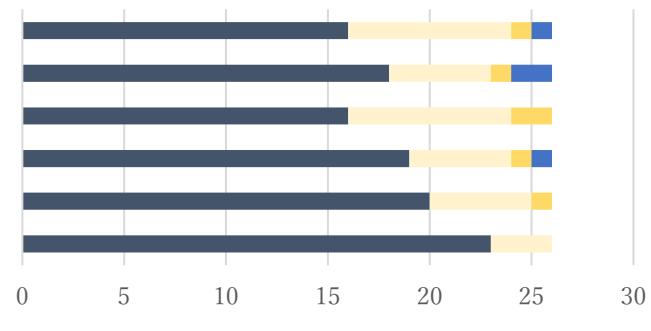
SDGsに興味を持つ事が出来た。

自分の家族や友人に対しても体験して欲しいと思った。

今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。

食品ロスの事が少し理解出来た。

楽しかった。もう1回やりたいと思った。

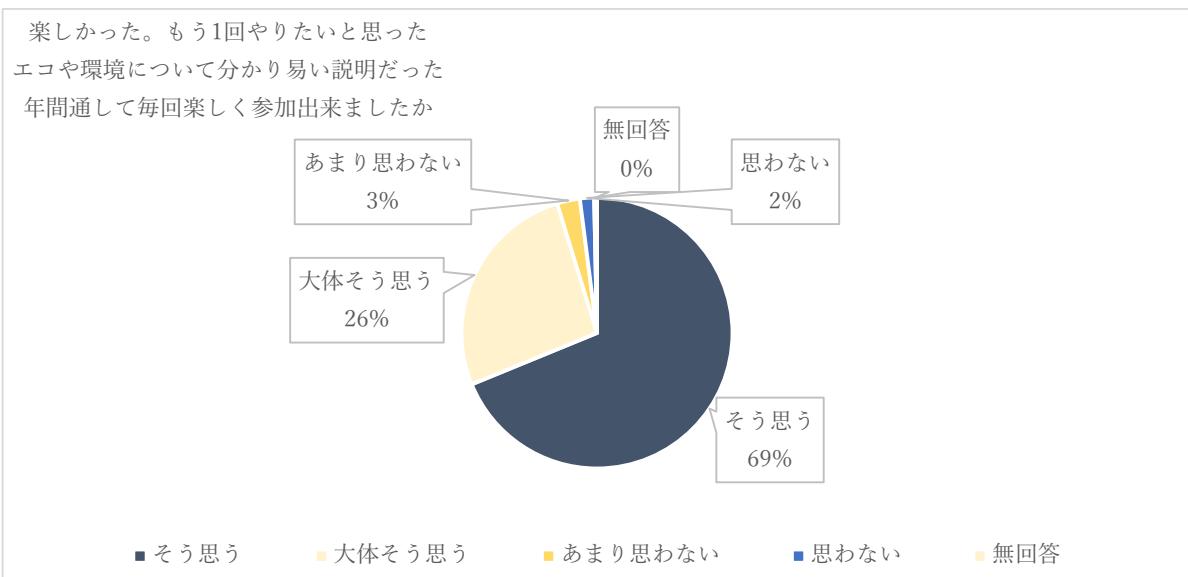
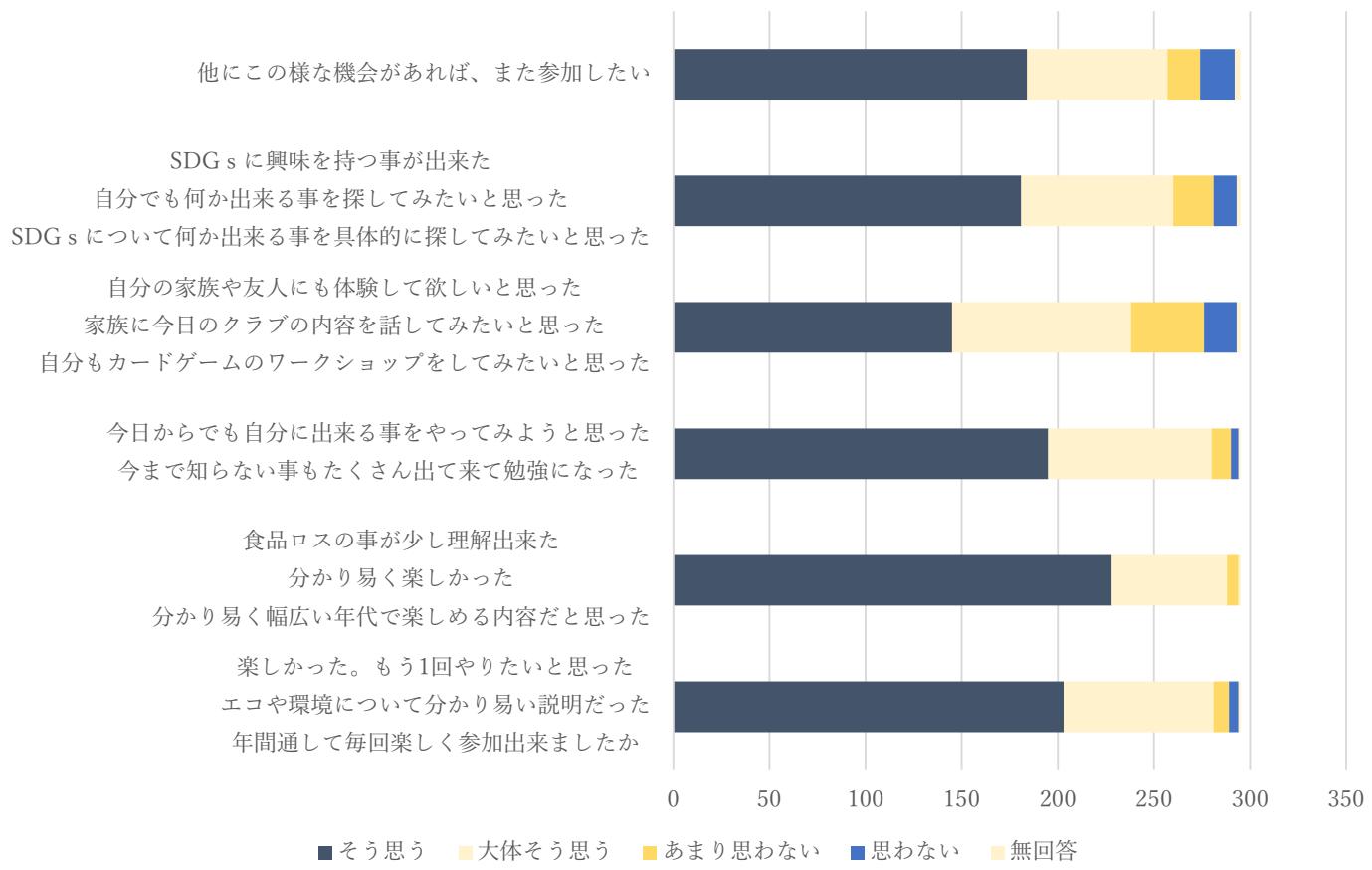


2024 年度環境出前講座総合計と質問別円グラフ統計

2024年度 環境出前講座 総合計

カードゲーム参加者 参加者319名

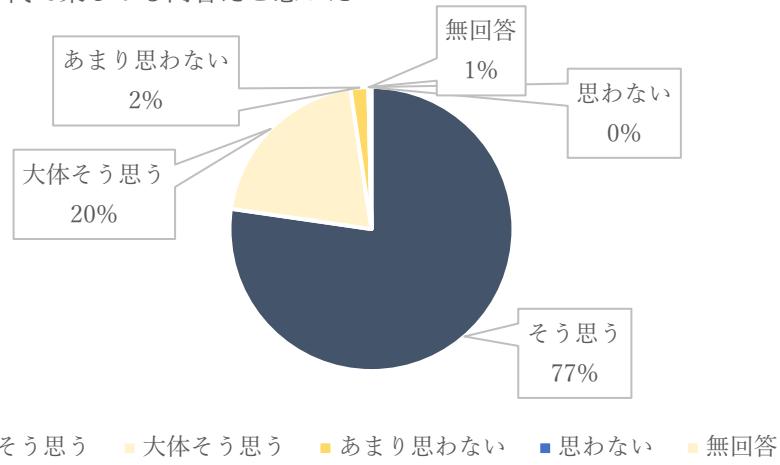
アンケート回答者合計 295名



食品ロスの事が少し理解出来た

分かり易く楽しかった

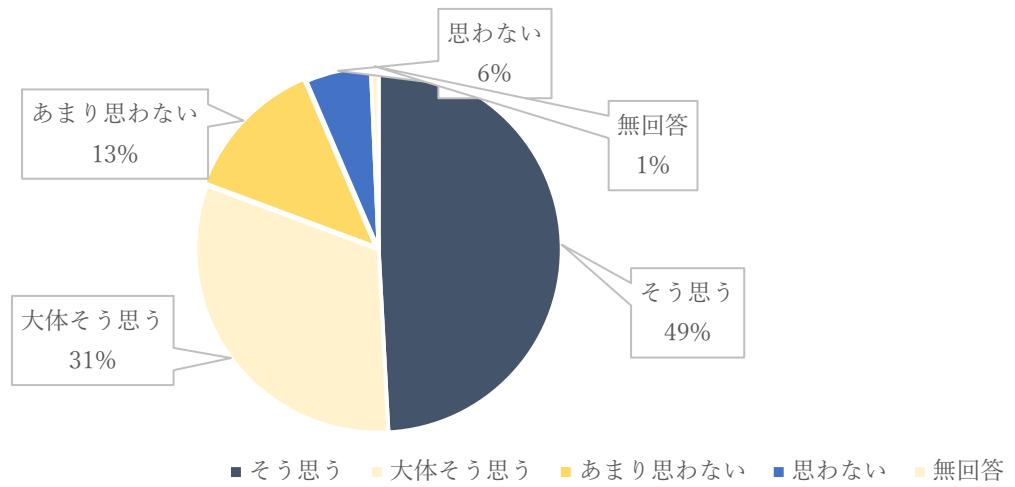
分かり易く幅広い年代で楽しめる内容だと思った



自分の家族や友人にも体験して欲しいと思った

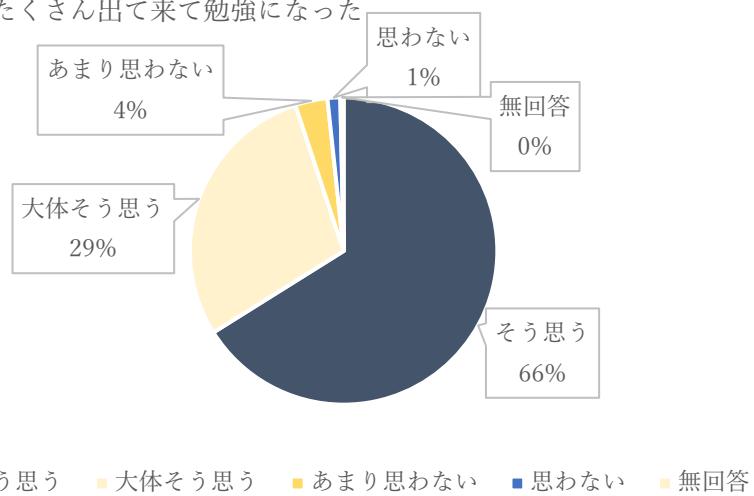
家族に今日のクラブの内容を話してみたいと思った

自分もカードゲームのワークショップをしてみたいと思った



今日からでも自分に出来る事をやってみようと思った

今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった

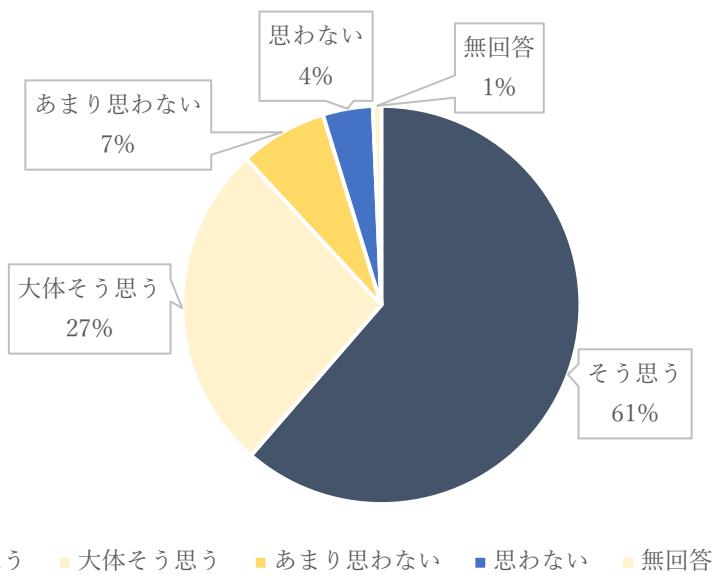


■ そう思う ■ 大体そう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答

SDGsに興味を持つ事が出来た

自分でも何か出来る事を探してみたいと思った

SDGsについて何か出来る事を具体的に探してみたいと思った



■ そう思う ■ 大体そう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答

2. その他

・PT新メンバーの抱負

2025年から新メンバーとして若生留美子さん・野村美幸さん・関ともえさん・森田佳子さん・金馬悦子さんの5名の方を迎える事が出来ました。今回代表として関ともえさんの自己紹介と抱負のコメントを掲載させて頂きます。

新メンバーの関ともえです。趣味はバレー、3年前に習い始めたばかりですが、下手の横好きで練習中です。子供を通して環境問題への意識が強まり、スクール参加したところ、市民研究員の皆様の取り組みを知り、私も微力ながら共に活動したいと思い参加しました。手身近に始められることは何だろうと思いつつ、まずは、家族、友人と『話題にする』ことから始めてみました。恥ずかしながら、いざ人に伝えるとなると、話題の広げ方に工夫がいる事を感じます。地球1個分の生活や、温暖化の深刻さなど具体的な数値を示しつつ話題を広げるにも、自分の力不足を痛感します。色々な角度から学ばせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

・「ゲット・ザ・ポイント」で、子ども達に伝えたいこと 井上道代

昨年度は、SDGs啓発PTとして2年目、「ゲット・ザ・ポイント」のファシリテーターとしても2年目になり、多くの学校で、出前授業をさせて頂きました。

60分でゲームを楽しみながら、振り返りもしてゆくことは、なかなか難しい時もあります。子ども達に「持続可能な社会」に向けて、行動してゆくことの大切さ、そしてそのためには、協力し工夫してゆくことが不可欠であることを伝えたいと思うものの、限られた時間の中で、もどかしさを感じる時もありました。しかし、そのたびに改善し、取り組んできました。

また、小学校だけでなく、地域の公民館で親子を対象にして、「ゲット・ザ・ポイント」を行う取り組みにも、初めて挑戦しました。

地域の方の協力を得て、チラシを作り、小学校に配ったり、地域の方に呼び掛けたりしましたが、土曜の午後は子ども達も習い事で忙しく、人数集めに苦労したりもしました。でも、参加した方からは、とても好評をいただきました。

ESDでお聞きした、「足元からできること」「グローバルに考えること」その両方をすることの大切さ、そして、すぐに解決できない大きな問題なのだから、子ども達と一緒に、あきらめず考え続ける姿勢が大切だ…ということがとても心に残りました。これから子ども達に関わってゆくときも、このことを胸に止めて関わってゆきたいと思いました。

今年度は、「ゲット・ザ・ポイント」を出前授業で経験した子ども達が、家に帰って家族とSDGsについて会話できるようにと振り返りの資料も作成したので、それを活用していきたいと考えています。

8月31日（土）14時～16時

親子で参加して、カードゲームを楽しみながら、SDGsを知りましょう。

「ゲット・ザ・ポイント」は、資源を使ってアイテムをゲットし、ポイントを競うゲームです。ゲームに夢中になりながら、自然とSDGsの大切なポイントがわかります。

対象：小学生の親子/大人のみも歓迎
(小学3年生以上は、子どもさんだけでの参加も可能)

参加費：無料
参加される方は、おとな・子どもの人数とともに、子どもさんの学年をお知らせください。

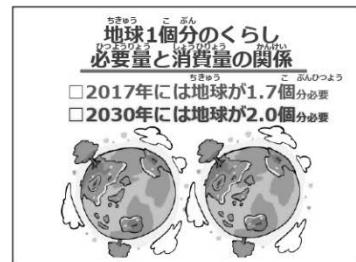
申し込みは、公民館に電話でお願いします。



今日のカードゲーム「ゲット・ザ・ポイント」で学んだことのまとめ

じぞくかのう しゃかい
持続可能な社会ってどういうこと？ →

げんじつ
現実は？ →

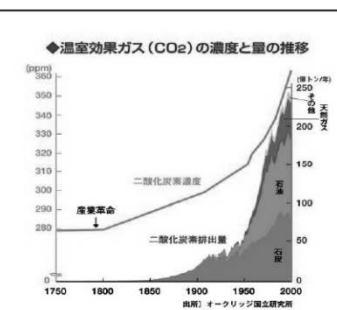
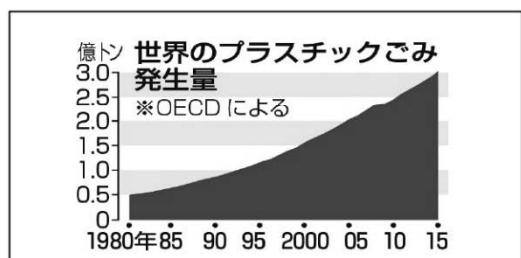


まな こ どん
みんなで地球1個分の暮らしをしよう



おお さ
そして大きな差 →

ふ づ
*しかも増え続ける、プラスチックごみ、
ちきゅうふつとうか
地球沸騰化をもたらすCO₂（二酸化炭素）。



参 考 資 料

1 令和 6 年度（2024 年度）公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告書

2 しみんけんきゅうニュース 2024 年度年間概要

3 マイ食器持参啓発運動アンケート

4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所設置規則

5 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所運営方針

令和6年度(2024年度) 公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告書

脱炭素社会の実現に向けて、地球温暖化防止等を含む環境への負荷を少なくする循環型社会を構築し、人々が環境に配慮したライフスタイルを実践、また環境保全を定着・促進するため、市民の参加の下に次の事業を行いました。

1. 公益目的事業として、次の事業を実施しました。(公1)

(1) 啓発・普及活動に関する事業

ア. 市民工房の運営(受託事業)

市民工房は、市民の日常生活に密着し、修理・再生やそれに係る伝承技術の事例展示を目的として活動しました。ここではジェンダーやジェネレーションを問わず、来館者が楽しみながらリユース(再使用)及びリサイクル(再生利用)できるよう、修理・再生・リフォームの助言・指導を行いました。併せて再生材料を用いた成果品の展示を行いました。

木材の再生利用を行う木工工房、紙すきを通じて森林資源の保護を考える緑工房、移動手段としての自転車の修理と再生利用等を指導する自転車工房、また人間の生命維持のためのエネルギー消費量の軽減に役立つ衣類のリフォームや活用方法を指導する布工房の諸活動により、市民が自ら実践を通じてCO₂削減による脱炭素社会、地球温暖化防止等をはじめとする環境問題を考え行動する場を運営提供しました。

工房名	対象品	見学者数	実技受講者数	成果品展示数
布工房	衣類	1,715名	1,608名	122点
緑工房	紙パック	544名	522名	5点
自転車工房	自転車	283名	198名	89点
木工工房	家具類	1,215名	967名	326点
合 計		3,757名	3,295名	542点
合 計 (前年度)		3,942名	3,459名	518点

イ. 観察・見学者の応対(受託事業)

観察や見学では吹田市小学4年生の見学については教育委員会と連携を図り、他市小学校や、地域の自治会等の見学対応も行いました。また、5人未満のグループであっても施設案内人を要せず館内見学ができるシステムについては、くるくるプラザ全体をカバーするように館内随所にデジタルサイネージを設置できるよう準備を進めています。

区分	団体数	人 数	前 年 度	
			団体数	人 数
小～大学生	56団体	5,574名	52団体	4,813名
市民団体	10団体	284名	17団体	311名
行政	4団体	27名	1団体	5名
民間企業	2団体	47名	3団体	77名
海外	7団体	129名	4団体	66名
計	79団体	6,061名	77団体	5,272名

ウ. 環境啓発動画コンテスト事業(受託事業)

地球温暖化防止やごみ問題における3Rの取組等について、SDGsの枠組みを踏まえ、全国版の雑誌やHPを通じて環境啓発動画を広く募集し、コンテストの実施により環境問題や環境保全への市民の積極的な活動参加を促しました。優秀作品は表彰するとともに、様々な機会を捉えて多くの市民の目に触れるようにし、市民目線で環境啓発を考える有効な成果物として活用していきます。

実施日	内 容	対象者	応募作品及び受賞作品数	
			本年度	前年度
応募期間 7月26日(金)～ 9月29日(日)	地球温暖化防止、食品ロス、海洋汚染をテーマとする動画を募集しました。今年度は、募集枠を、家族部門、中・高生部門、大学生・一般部門の3部門へ分け年齢層での評価ができるようにしました。	市民	応募作品46作品 【大学生・一般部門】 優秀賞1作品 奨励賞1作品 【中・高生部門】 優秀賞1作品 奨励賞1作品	応募作品数 96作品 最優秀賞・優秀賞ともに該当なし 奨励賞8作品
投票期間 11月8日(金) ～12月7日(土)	地球温暖化防止、食品ロス、プラスチック問題をテーマとする動画を募集し、HP上での人気投票を実施			
応募作品審査 12月20日(金)	専門家の意見を参考に、応募作品の審査を実施			
表彰式 2月16日(日)	受賞式と受賞者から作品作りの工夫や苦労話など発表			

エ. 展示等に関する事業(受託・自主事業)

① 展示コーナーの常設(受託事業)

市民工房で再生した成果品、施設の活動内容に関する動画や環境問題の啓発につながるパネルや日本の優れた環境技術製品の展示にも努めています。また環境問題をSDGsに始まる世界共有の問題として認識し考えてもらうため、諸外国からの来館者に向け可能な限り英語他の他言語表示を行いました。

② あげます・もらいますコーナーの利用状況(受託事業)

市民から使用しなくなった衣類・食器・皮革製品やその他の未使用品の提供を受け、必要な市民に利用してもらう「あげます・もらいますコーナー」を常設し、HP、SNSやチラシ等での広報を通じて、幅広く市民の利用により資源のリユース(再使用)、リサイクル(再生利用)を促進しました。また、「サスティナブルアッショングラネットフォーム」への衣類提供しました。

当施設の目的の一つである「ゴミ排出量抑制」を進めていくため、10月の食品ロス削減月間において、来館者に家庭で賞味期限の比較的近い品物を再確認し、食品ロス削減の意識を持つてもらう機会を提供しました。これらの取組を通じて食品ロスについてわかりやすく伝え、食品を無駄にしないという意識啓発の一助として今後とも継続して取組んでいく予定です。

品 目	持ち込み品	持ち帰り品
衣 類	13,184点	10,155点
食 器	7,816点	6,286点
合 計	21,000点	16,441点
件 数	865件	2,157件
前 年 度	数量 812件	14,908点 1,830件

実施日	内 容	対象者	食品の預かり数及び持ち帰り数	
			本年度	前年度
食ロス あげます・もらいます 10月～12月	食品ロスを削減することをテーマに、くるくるプラザ館内に食品ロス削減啓発として食品庫(零蔵庫=れいぞうこ)を展示。 賞味期限間近のものや沢山買いましたために食べ切る事が困難な未開封食品などを集め、それをイベントで必要な方に持つて帰ってもらう「食ロスあげます・もらいます」実施。 くるくるクリスマスでSNSにフォローしてくれた方に食品を提供しました。	市民	食品の預かり数 61点 食品の持ち帰り数 30点	食品の預かり数 210点 食品の持ち帰り数 166点

③ 出張展示会(受託事業)

7月20日(土)、ららぽーとEXPOCITY光の広場にて『吹田市情報発信プラザInforestすいた リバイバルマンスリーフェア～Inforestすいたスタッフが選んだ過去ベスト6展～』が開催されました。ベスト6展にくるくるプラザが選ばれ、のぼる君、エコすごろく等を展示しました。

11月1日(金)、2日(土)の2日間、万博記念公園の東の広場にて開催されたロハスフェスタ万博2024秋に参加しました。2日目は荒天により中止となりましたが、プラザの紹介ポスターの展示や工房成果品の展示販売、マイ食器啓発活動を行いました。今回で19年目を迎えるロハスフェスタに参加することで「LOHAS」という言葉の意味する心身の健康、持続可能な社会や地球環境を大切に考え、心豊かに暮らす生活スタイルについて参考になる事多くありました。また、R7年2月15日(土)から2月21日(金)まで、千里ニュータウンプラザにて環境学習展示発表会と同時開催で、市民工房、市民研究所の展示を行いました。

④ 再生成果品等の販売(自主事業)

市民工房で再生した成果品(くるくるグッズ)や市民から提供された未使用品等(セカンド品)を展示し、廉価で販売しました。らつくdeフリマ(常設型フリーマーケット)を設置し、施設開館日には常時フリーマーケットを利用できるようにすることで、平日の来館者の集客増を図りました。

工房名	対象品	成果品販売数
布工房	衣類	92点
緑工房	紙パック	8点
自転車工房	自転車	93点
木工工房	家具類	297点
合 計		490点
合 計 (前年度)		382点

販売時期	販売品目	内容
常時	衣類のリフォーム品 紙すき製品 木工小物	市民工房において再生した成果品を販売。
毎月	自転車	毎月1回の抽選販売。 売れ残りは随時販売。
随時	家具	修理後(HPに掲載)随時販売。

対象品	販売数	前年度
セカンド品 (未使用の市民提供品等)	1,415点	1,579点

常時	セカンド品	市民から提供を受けた未使用の衣類・食器等を販売。
----	-------	--------------------------

らつくdeフリマ 出店期間	来室者数	出店数	出店形式	出店内容
第1期 R6年4月～6月	1,287名	49店舗	4段・3段・2段・ ハンガーラック	リメイク・リユース品を中心 に展示し低額で販売。

第2期	R6年6月～8月	1,826名	50店舗	4段ラック 3段ラック 2段ラック ハンガーラック	市民に場所を提供し、使わなくなったもの等、リメイク・リユース品を中心に展示し低額で販売。
第3期	R6年9月～10月	973名	50店舗		
第4期	R6年11月～R7年1月	1,246名	50店舗		
第5期	工事の為中止	—	—		
合 計		5,332名	199店舗		
合 計 (前年度)		6,519名	250店舗		

才. 市民・企業参画事業(受託・自主事業)

① もったいないバザール(受託事業)

市民、企業、学生団体、その他の外部団体等との協働による環境啓発活動として、リユースの大切さを楽しみながら学べる、おもちゃのかえっこバザール、衣類と食器の持ち帰り、環境に関するワークショップで構成するイベントを開催しました。また、第4回実行委員会を行い次年度に向けての協議を行いました。

事業名	実施日	実施内容	参加者数	前年度	
				参加者数	
令和6年度(第2回) もったいないバザール 第1回実行委員会	6月14日(金)	実行委員会メンバーによる、本年度の実施内容や運営方法についての討議。	21名	33名	
第2回実行委員会	8月23日(金)		23名	16名	
第3回実行委員会	9月20日(金)		22名	—	
もったいないバザール	10月19日(土)	雨天のため、おもちゃのかえっこバザールやワークショップコーナーをプラザ4階と5階の室内で実施。 運営はプラザ事務局13人の他、大学生や環境スクール・キッズ環境スクールの受講生等の67人のスタッフが担当。	273名	241名	
第4回実行委員会	10月25日(金)	実施内容の報告及びアンケートを紹介。各担当からの反省等を踏まえ、次年度に申し送りを行った。	18名	20名	

② エコラボパートナーズ(自主事業)

施設活性化のために、当財団の事業目的を理解し環境保全活動に取り組む市民団体、企業、学生等の様々な団体が、当施設の貸室やその他スペースを利用し、展示会、講演会、イベント、教室等の開催を申し出た場合、その目的や内容を事前に審査した上で、エコラボパートナーズと認定・呼称し、連携を図り協働事業を実施しました。

開催事業名		実施回数	主催者	実施内容	受講者数	前年度	
実施回数	受講者数						
教室	アート クレイシルバー	36回	首藤みわ子	不要回収されたスマホ等から採取し再生利用された銀粘土を利用したクレイシルバー教室を開催。	126名	36回	120名
	GECS体験	3回	大阪大学 環境サークル GECS	ペットボトルなどの廃材を使い創作する楽しさとリサイクルの重要性を学べるワークショップを開催	49名	3回	47名

イベ ント	GECSクエスト	1回	大阪大学 環境サークル GECS	9月7日(土)に施設内の部屋を使い、 その中で参加者の子供たちが謎解きや ゲームを行いSDGsに関する環境問題 へ興味・関心をもってもらうため開催しま した。	14名	1回	22名
----------	----------	----	------------------------	---	-----	----	-----

(注)アートクレイシルバーは体験コース、6回コース、3回コースの実施をそれぞれ1回と数えます。

カ. 環境実践教室の開催(自主事業)

市民が楽しみながら資源の再使用や再生利用を体験できるように以下の環境実践教室を実施しました。

教 室 名		1教室当 開催日数	実施回数	受講者数	延受講者数	前年度		
						実施回数	受講者数	延受講者数
布	布のリメイク1日	1日				3回	17名	17名
	布ごもの	1日				2回	2名	2名
	布体験	1日	1回	12名	12名	4回	34名	34名
木工	木工体験	1日	3回	43名	43名	4回	60名	60名
	夏休みこども木工	1日	2回	60名	60名	4回	52名	52名
	包丁研ぎ	1日	3回	21名	21名	3回	27名	27名
クラフト	革小物	1日	24回	41名	41名	24回	36名	36名
	夏休みレザークラフト	1日	2回	8名	8名	2回	5名	5名
おも ちゃ り	オイル万華鏡	1日	2回	26名	26名	2回	21名	21名
廃段 ボーリ	廃段ボール体験	1日	3回	53名	53名	4回	66名	66名
	夏休み廃段ボール	1日	2回	19名	19名	2回	20名	20名
LED	LED体験	1日	2回	31名	31名	3回	52名	52名
	LED夏休み	1日				2回	18名	18名
ガラス	フュージング体験	1日	3回	45名	45名	5回	64名	64名
陶芸	陶芸絵付け体験	1日	2回	30名	30名	5回	57名	57名
	夏休み陶芸絵付け	1日	1回	5名	5名	1回	4名	4名
自転車	自転車安全教室	1日	2回	10名	10名	2回	5名	5名
施設見学後	布体験	1日	5回	47名	47名	8回	66名	66名
	木工体験	1日	9回	85名	85名	11回	100名	100名
合 計			66回	536名	536名	91回	706名	706名

キ. イベントの開催(自主事業)

① フェスタ

事業名 (当初予定)	実施日	内 容	参加者数	前年度 参加者数
くるくる ファイナルフリマ	5月19日(日)	長年に亘り実施してきたイベント日単日のフリーマーケットは、常設型のらっくdeフリマの定着により今回をもって最終としました。出店数は40店舗でマルチホールで実施しました。 他にも紙すき、ガラス、陶芸絵付け等の各種体験を実施し、市民研究所の身近な環境を調べようPTによる「顕微鏡でプランクトンを見てみよう」や手作りおもちゃ体験ATによる「鯉のぼり」も併せて実施しました。	約500名	232名
くるくる 夏フェスタ	8月4日(日)	親子で参加しやすい夏休み期間中に、地球環境保全や3Rの輪を広げるためにフェスタを実施しました。 木工、ガラス工芸、陶芸絵付け体験等の各種体験や廃段ボール工作・LED作品制作、市民研究所PTからは顕微鏡でプランクトンを見てみよう、手づくりおもちゃ体験、あげますもらいます詰め放題を行いました。 また、猛暑のためチューペットを販売しました。	約170名	239名
くるくる ハロウィン				159名
くるくるクリスマス	12月15日(日)	地球環境保全や3Rの輪を広げるためにフェスタを実施しました。 布、木工、ガラス工芸等の各種体験や廃段ボール工作、市民研究所PTからは顕微鏡でプランクトンを見てみよう、手づくりおもちゃ体験などを行いました。 また、吹田お話しの会によるクリスマスにちなんだお話、影絵を提供しました。他にも食ロス削減・マイ食器持参啓発活動として、家庭での余った食材を利用して調理した豚汁を販売し、アンケートを実施しました。なお、体験参加者には食ロス削減を目的に商品化されたお菓子を配りました。	約250名	133名
くるくる 春フェスタ				251名
合 計			約920名	1,014名

② その他の催し物

事業名	実施日	内 容	参加作品数	前年度 参加作品数
くるくるアイデア コンテスト	応募期間	応募期間:7月17日(水)～8月10日(土) 投票期間:8月16日(金)～9月15日(日)	38作品	48作品
	投票期間	地球環境保全や3Rの輪を広げるために、SDGsも踏まえた様々な3R作品の展示発表会の場として開催しました。身近に3Rを意識するきっかけとなる啓発活動となりました。		
	応募作品審査	展示会場及びインターネットでの市民の投票の合計獲得票数を基に、プラザ執行役員及び事務局が最終審査し優秀作品を選出。		

くるくるアイデアコンテスト	表彰式 9月29日(日)	優秀作品の制作過程での工夫等を本人が会場で説明後、表彰式を行いました。アイデア大賞1名、理事長賞1名、アイデア賞5名、キッズ部門賞2名という結果になりました。	38作品	48作品
---------------	-----------------	---	------	------

事 業 名	実施日	内 容	参加者数	前年度参加者数
ソーラーカー乗車体験	5月19日(日)	ソーラーカーそらくる号の広場での乗車体験を通して、楽しみながらクリーンエネルギーについて考える機会を提供する予定でしたが、雨天のため中止しました。	—	—
	8月4日(日)	ソーラーカーそらくる号の広場での乗車体験を通して、楽しみながらクリーンエネルギーについて考える機会を提供する予定でしたが、猛暑で命の危険があると判断し中止しました。	—	50名
	[R5年 10月22日(日)]			50名
	12月15日(日)	ソーラーカーそらくる号の広場での乗車体験を通して、楽しみながらクリーンエネルギーについて考える機会を提供しました。	46名	34名
	[R5年 3月10日(日)]			50名
合 計			46名	184名

③ おもちゃ病院

毎月1回おもちゃ病院を開院し、市民の持ち込んだ壊れたおもちゃを、おもちゃドクターが即日又は入院修理し、リユースの啓発活動を行いました。

実 施 日		修 理 件 数	前年度修理件数
第1回	4月21日(日)	16件	13件
第2回	5月19日(日)	20件	14件
第3回	6月16日(日)	13件	17件
第4回	7月21日(日)	12件	10件
第5回	8月4日(日)	11件	14件
第6回	9月15日(日)	17件	14件
第7回	10月19日(土)	26件	12件
第8回	11月17日(日)	25件	33件
第9回	12月15日(日)	34件	16件
第10回	1月19日(日)	22件	25件
第11回	2月16日(日)	15件	21件
第12回	3月16日(日)	20件	23件
合 計		231件	212件

ク. リユース食器貸出に関する事業(自主事業)

		件数	食器類	箸等	前年		
貸出	吹田市内				件数	食器類	箸等
	吹田市外	11件	5,594点	2,530点	17件	25,500点	15,660点
合計		14件	7,154点	2,610点	23件	27,335点	15,770点
洗浄作業受託(注)		1社	6,427点	0点	1社	2,463点	0点
総計		13,581点	2,610点		29,798点	15,770点	

(注) 他の法人・団体が有するリユース食器の洗浄作業を受託するもの。

令和6年3月まで被災救済のため協力していたNPO地域環境デザイン研究所ecotoneが、改めて令和6年4月以降もリユース食器の洗浄機使用を依頼してきたため、吹田市環境部環境政策室の確認・了承を得て使用を許可しました。

	食器類	箸数 (ラック洗浄回数)	前年度	
			食器類	箸数 (ラック洗浄回数)
洗浄機使用	140,999点	361回	118,689点	221回

ケ. 会員(プラザメイト)に関する事業(自主事業)

ごみ問題や地球温暖化などの環境問題をより多くの人々に理解してもらい、つながりを広げてゆくため会員(プラザメイト)を募集しました。会員には財団が発行する情報紙や、各種催しの案内を送付しました。

(2) 調査研究・情報提供に関する事業

ア. 調査・研究及び実践活動(受託・自主事業)

① 主担研究員による調査・研究(受託事業)

市民研究所の主担研究員が各々の専門の立場から廃棄物・環境問題について調査・研究を行いました。また新たに環境教育企画グループ(PG)を立上げ、主担研究員と環境教育に精通した事務局メンバー、環境アドバイザーにより調査・研究を進めました。

事業名	実施回数	内容	参加者	会場	前年度
環境教育企画グループ	11回	月1回の定例会及び環境出前講座での指導助言を行いました。また、教員向けの研修講座内容の検討や授業支援プログラムの作成を行いました。	市民研究所長 三輪信哉 事務局主幹 大森宣 事務局 安田典彦 環境アドバイザー 山中貞志 環境アドバイザー 下村研司	市民研究所 環境出前実施校	—

事業名	実施日	内容	参加者数	会場
くるくるサロン	5月25日(土)	講話テーマ: 「江戸時代の人々のリサイクル術を 学んでみよう」 主担研究員 谷村綾子	20名	つながりラボ (市民工房3)
	9月1日(日)	講話テーマ: 「天神祭ごみゼロ大作戦」 主担研究員 花嶋温子	16名	

くるくるサロン	1月26日(日)	講話テーマ: 「中国古典から見るSDGs あるいは環境問題」 主担研究員 内田慶市	24名	講義室2
	3月8日(土)	講話テーマ: 「ごみって何だろう」 環境アドバイザー 山中貞志 「食べ物はどこからどこへ」 環境アドバイザー 下村研司	14名	

② 市民研究員による調査・研究及び実践活動(自主事業)

市民研究員がテーマごとにチームを組織し、生活者の視点で調査・研究を行うとともに、啓発・普及のための実践活動を行いました。施設案内・見える化PGとして市民への活動内容の見える化にも取組みました。

また、関西大学食文化研究会と共に9月15日(日)「ハインリッヒが撃った鴨」をテーマにシンポジウムが開催され、市民研究員も発表を行いました。

プロジェクトチーム(PT) アクションチーム(AT)	活動目標と内容	開催数
PT	市民とお店をエコでつなぐ	42回
	「食品ロス削減」は社会の大きな問題でもあるので引き続き研究し、一昨年から取組んでいる「プラスチックごみ削減」(主に食品トレー、食品容器、ペットボトル)問題を研究	
	・「風呂敷の包み方」の名称を「おもしろ風呂敷」に変更しました。 ・環境アドバイザーから出前講座での指導助言を頂いたので、今後の活動に活かしていきます。 ・各々の研究テーマをまとめて研究報告書に掲載しました。	
	ごみゼロ(するをなくす)へのシステム研究	
吹田ごみゼロ システム研究	・各担当の調査研究の進捗状況を報告 ・研究報告書原稿を確認 ・ブログ原稿を確認 ・ワークショップで新聞エコパック作りを行いました。 ・神戸市の資源ごみステーション「エコノバ」を視察。 ・プラごみについて、市民とお店PTとの意見交換を検討。 ・他チームへブログの投稿を依頼しました。	21回
	吹田市に点在する身近な環境を調べ、現状を把握するとともに、その保全の大切さを啓発しました。糸田川同様に「池の観察チェックシート」を用いて環境調査を実施	
SDGs啓発	・池実態調査について計画しました。 ・くるくる夏フェスタとくるくるクリスマスで「顕微鏡で微生物を見よう」を実施しました。 ・9/15メイシアターにおいて「ハインリッヒが撃った鴨」をテーマにしたシンポジウムに参加して、チームの活動を発表しました。 ・もったいないバザールでクリスマスオーナメント作りを担当しました。 ・11/16キッズスクールにおいて、自然観察会を春日大池で実施しました。 ・1/25にインスタグラムを開設しました。 ・20のため池を調査しました。	36回
	SDGs啓発を推進	
	・新規ゲーム体験会を実施しました。 ・もったいないバザールにおいて、環境事業協会とコラボしてカードゲームを担当しました。 ・キッズスクールで食品ロスカードゲームと野菜クイズを行いました。また、環境事業協会を講師として招いてメッセージカード作りも合わせて行いました。 ・新たなワークショップについての構想を検討しました(3Rカードゲーム)	31回

A T	紙すき体験と環境	牛乳パックをリサイクル啓発することによって、資源循環型社会を構築することを目指し、ひいては世界の森林資源の保全に向けた研究活動を推進	32回
		<ul style="list-style-type: none"> ・パルプの取り出し方法を圧力鍋で行うことにより時間短縮につながりました。 ・チーム内で出前講座の研修を行い指導力向上をめざしました。 ・9/7のキッズスクールで修了証書を紙すきで作成しました。 ・牛乳アレルギーの児童への対応の確認と準備を行いました。 	
	手作りおもちゃと環境	<p>廃品を再利用した手作りおもちゃの指導を通して、ごみの減量化と環境問題の啓発・意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座において、明るい児童たちに元気をもらいました。 ・UFOぶんぶんゴマ、ビックリ箱の実習を定例会で行いました。 ・9/20「WCD2024国際デー」としてチームで万博周辺のごみ拾いを実施。 ・出前講座への人数確保に苦慮しました。 	53回
マイ食器啓発		<p>リユース食器からマイ食器へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディング実施 ・もったいないバザール、ロハスフェスタ、クリスマスイベントにおいて、マイ食器の啓発活動を行いました。 ・イベントで食事の提供と共に容器の持参を広め、合わせて容器の販売も行いました。 	10回
合 計			225回
合 計 (前年度)			280回

事業名	活動目標と内容	参加人数
くるくるつながり広場(1回目)	市民と環境スクール修了生対象に、12月21日(土)につながり広場を開催しました。参加者は各チームからの活動紹介を熱心に聞き、7名の修了生が市民研究員として次年度から活動することになりました。次回のつながり広場でも丁寧に市民研究員への参加を促しています。	27名
くるくるつながり広場(2回目)	市民と環境スクール修了生対象に、1月11日(土)に第2回つながり広場を開催しました。すでに第1回目で7名が市民研究員として次年度から活動することになっていたのでまだ決めていない方の参加が少なかったが、引き続き丁寧に説明を行いました。	12名
合 計	2回	39名 (1回)

()内は前年度

事業名	実施回数	内容	参加者	会場	前年度
施設案内 見える化 企画グループ	2回	施設内の展示物や施設案内専門員等について、課題と改善策を協議しました。	市民研究所長 三輪信哉 主担当研究員 金子泰純 事務局参事 天野美晴 事務局 安田典彦 環境アドバイザー 山中貞志 環境アドバイザー 下村研司	講義室2	—

会議名	主催団体名	実施日	内容	会場
第1回吹田市ごみ 減量再資源化 推進会議	吹田市	7月9日(火)	フードドライブの取組報告、ごみ減量に向けた取り組みを交流	メイシアター
第2回吹田市ごみ 減量再資源化 推進会議	吹田市	2月7日(金)	北摂7市3町と民間との協定進捗状況報告。食品ロス削減やマイパック持参率向上について報告	千里山 コミュニティセンター

すいた環境教育フェスタ	吹田市	2月8日(土)	くるくるプラザの紹介と市民研究所の環境啓発活動紹介	マイシアター
合 計		3回		(3回) ()内は前年度

イ. 研究報告書の発行に関する事業(自主事業)

令和5年度の市民研究所各チームの研究成果等を研究報告書としてまとめ、7月に発行いたしました。

ウ. 機関紙「しみんけんきゅうニュース」の発行(自主事業)

市民研究員の調査・研究、実践活動を中心とした機関紙「しみんけんきゅうニュース」の発行及びホームページへの掲載を行いました。

号 数	No.	発行部数	配 布 先
2024年5月号	321号	各850部	市民研究員をはじめ、来館者や地区公民館、その他関係団体に配布しました。
2024年7月号	322号		
2024年9月号	323号		
2024年11月号	324号		
2025年1月号	325号		
2025年3月号	326号		

エ. 情報紙「くるくるプラザ」の発行(自主事業)

一般市民で構成したスタッフが情報収集し編集した、環境問題に関する身近で役立つ情報を中心とした情報紙「くるくるプラザ」を次のとおり発行し、ホームページにも掲載しました。

号 数	発行月	発行部数	配 布 先
98号	7月	各1,500部	市民研究員をはじめ、来館者や地区公民館、その他関係団体に配布しました。
99号	11月		
100号	3月		

オ. ホームページの公開及び情報スタジオコーナーの常設(自主事業)

財団ホームページの公開を行いました。また情報スタジオコーナーについては、室内のレイアウトを決定し機器を整備しています。また、市民研究員の活動拠点としても使用しています。

(3) 講演・講座の開催及び環境学習の支援に関する事業

ア. 講演会の開催(受託事業)

事業名	実施日	内容	参加者数	会場
環境問題講演会	6月 16日(日)	テーマ: 「2050年の環境を考えよう～にぎやかに楽しく未来を話し合おう～」 講演及びパネルディスカッション参加者: 市民研究所長 三輪信哉、 主担研究員 金子泰純、 市民研究員 三枝茂 他3名(小学校長、大学生、高校生各1名)	52名	マルチホール

環境問題 講演会	6月 16日(日)	四半世紀後の未来の環境を見据えた、環境専門家、市民研究員、学生、学校関係者による講演とパネルディスカッション	52名	マルチホール
計		1回	52名	(1回 47名)

()内は前年度

イ. 入門講座(自主事業)

① くるくるキッズ環境スクール

事業名	実施日	内 容	対象者	参加者数	会 場
くる く る キ ッ ズ ス ク ー ル	7月27日(土)	開講式及び 出前講座(ふろしき、おもちゃ)	受講者 〔事務局〕	23名 〔7名〕	講義室2
	8月8日(木)	見学バスツアー (琵琶湖博物館)	受講者 〔事務局〕	28名 〔5名〕	滋賀県立 琵琶湖博物館
	9月7日(土)	工房体験(木工、紙すき)	受講者 〔事務局〕	13名 〔4名〕	B棟4階ホール つながりラボ
	10月19日(土)	もったいないバザールでの かえっこバザールスタッフ体験	受講者 〔スタッフ〕	19名 〔3名〕	B棟5階 展示室・生活学習室
	11月16日(土)	春日大池にて自然観察会 クリスマスオーナメントづくり	受講者 〔スタッフ〕	16名 〔6名〕	桃山台市民ホール
	12月21日(土)	SDGs啓発PTによるゲーム他 及び閉校式	受講者 〔スタッフ〕	12名 〔5名〕	講義室2
計			のべ 受講者数	111名	(6回 95名)

(注) 参加者数には保護者数も含みます。ただし、その他参加の子どもは含みません。 ()内は前年度

② くるくる環境スクール

事業名	実施日	内 容	対象者	参加者数	会 場
くる く る 環 境 ス ク ー ル	6月8日(土)	開講式及び 破碎選別工場、市民工房の見学	受講者 〔スタッフ〕	18名 〔5名〕	講義室2
	6月16日(日)	環境問題講演会聴講	受講者 〔スタッフ〕	15名 〔5名〕	マルチホール
	7月13日(土)	SDGsカードゲーム体験	受講者 〔スタッフ〕	18名 〔2名〕	講義室2
	9月14日(土)	エコクッキング (大阪ガスネットワーク)	受講者 〔スタッフ〕	15名 〔5名〕	大阪ガス ハグミュージアム
	10月19日(土)	もったいないバザール	受講者 〔スタッフ〕	15名 〔5名〕	くるくるプラザ
	11月30日(土)	見学バスツアー	受講者 〔スタッフ〕	16名 〔4名〕	さすてな京都、 京エコロジーセンター

く ス る く ー る ル 環 境	12月7日(土)	令和6年度市民研究所 研究実践発表会	受講者	12名	講義室2
			【スタッフ】	[7名]	
く ス る く ー る ル 環 境	12月21日(土)	閉校式とつながり広場 講話、市民研究員との交流	受講者	15名	講義室2
			【スタッフ】	[6名]	
合 計		8回	のべ 受講者数	124名	(9回 43名)

()内は前年度

ウ. 環境出前講座の実施(自主事業)

身近な環境問題について考える事を目的に、小中学校の授業・クラブ活動、環境学習等を対象とし、市民研究員が出向く実践講座について要請に基づき実施しました。

実施日	チーム名	事業名	対象者	参加者数	会 場
5月8日(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	佐竹台小学校 4年～6年	21名	学校教室
5月13日(月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	吹田第一小学校 4年～6年	14名	学校教室
5月14日(火)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	吹田第一小学校 4年	13名	緑工房
5月14日(火)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	吹田第一小学校 4年	17名	講義室2
5月19日(日)	手作りおもちゃと環境	【くるくるワークショップ】	来館者	15名	つながりラボ
5月19日(日)	身近な環境を調べよう	【くるくるワークショップ】	来館者	45名	B棟4階ホール
5月20日(月)	SDGs啓発	【クラブ支援】	千里第一小学校 4年～6年	25名	学校教室
5月21日(火)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	岸部第一小学校 4年	11名	緑工房
5月21日(火)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	岸部第一小学校 4年	17名	講義室2
5月22日(水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	山手小学校 4年～6年	18名	学校教室
5月22日(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	吹田第二小学校 4年～6年	21名	学校教室
5月22日(水)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	千里第二小学校 4年～6年	29名	学校教室
5月24日(金)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	吹田第二小学校 4年	20名	緑工房
5月24日(金)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	吹田第二小学校 4年	7名	B棟4階ホール
5月24日(金)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	吹田第二小学校 4年	13名	講義室2
5月26日(日)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】	江坂大池地区公民館	15名	公民館
5月27日(月)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	吹田第一小学校 4年～6年	14名	学校教室

5月27日(月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	藤白台小学校 4年～6年	14名	学校教室
5月29日(水)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	山田第二小学校 4年～6年	28名	学校教室
6月5日(水)	SDGs啓発	【クラブ支援】	千里第二小学校 4年～6年	29名	学校教室
6月6日(木)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	青山台小学校 4年	14名	つながりラボ
6月6日(木)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	青山台小学校 4年	12名	講義室2
6月6日(木)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	青山台小学校 4年	12名	講義室1
6月8日(土)	手作りおもちゃと環境	【出前講座】	吹田南地区公民館	9名	公民館
6月8日(土)	身近な環境を調べよう	【出前講座】	吹田南地区公民館	8名	公民館
6月10日(月)	SDGs啓発	【クラブ支援】	吹田第一小学校 4年～6年	14名	学校教室
6月11日(火)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	吹田東小学校 4年	15名	緑工房
6月11日(火)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	吹田東小学校 4年	13名	講義室2
6月12日(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	山手小学校 4年～6年	18名	学校教室
6月17日(月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	千里第一小学校 4年～6年	27名	学校教室
6月17日(月)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	藤白台小学校 4年～6年	15名	学校教室
6月23日(日)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】	岸二地区公民館	14名	公民館
6月26日(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	山田第二小学校 4年～6年	26名	学校教室
6月26日(水)	SDGs啓発	【クラブ支援】	佐竹台小学校 4年～6年	23名	学校教室
6月26日(水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	千里第二小学校 4年～6年	29名	学校教室
6月28日(金)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	高野台小学校 4年	19名	緑工房
6月28日(金)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	高野台小学校 4年	13名	講義室2
6月28日(金)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	高野台小学校 4年	7名	講義室1
7月10日(水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	吹田第二小学校 4年～6年	19名	学校教室
7月13日(土)	SDGs啓発	【くるくる環境スクール】	くるくる環境スクール生	20名	講義室2
7月27日(土)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】	くるくるキッズ 環境スクール生	13名	講義室2
7月27日(土)	手作りおもちゃと環境	【出前講座】	くるくるキッズ 環境スクール生	13名	講義室2

8月1日 (木)	手作りおもちゃと環境	【出前講座】	千一地区近隣住民	19名	公民館
8月4日 (日)	手作りおもちゃと環境	【ぐるぐるワークショップ】	事前予約の4才～小学生	24名	つながりラボ
8月31日 (土)	SDGs啓発	【出前講座】	吹二地区近隣住民	14名	公民館
8月31日 (土)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】	北千里地区近隣住民	6名	公民館
9月2日 (月)	SDGs啓発	【クラブ支援】	藤白台小学校4年～6年	15名	学校教室
9月2日 (月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	吹田第一小学校4年～6年	14名	学校教室
9月4日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	千里第二小学校4年～6年	29名	学校教室
9月7日 (土)	紙すき体験と環境	【出前講座】	ぐるぐるキッズ環境スクール生	27名	つながりラボ
9月9日 (月)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	千里第一小学校4年～6年	6名	学校教室
9月11日 (水)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	吹田第二小学校4年～6年	18名	学校教室
9月11日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	佐竹台小学校4年～6年	22名	学校教室
9月11日 (水)	SDGs啓発	【クラブ支援】	吹田第二小学校4年～6年	28名	学校教室
9月25日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	佐竹台小学校4年～6年	19名	学校教室
9月25日 (水)	身近な環境を調べよう	【クラブ支援】	山手小学校4年～6年	18名	学校教室
10月2日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	千里第二小学校4年～6年	29名	学校教室
10月4日 (金)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	山田第五小学校4年生	10名	講義室2
10月7日 (月)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	藤白台小学校4年～6年	14名	学校教室
10月7日 (月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	吹田第一小学校4年～6年	19名	学校教室
10月9日 (水)	紙すき体験と環境	【出前講座】	吹田第5中学校1年～3年	9名	学校教室
10月16日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	吹田第二小学校4年～6年	17名	学校教室
10月16日 (水)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	山手小学校4年～6年	18名	学校教室
10月17日 (木)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	摂津支援学校児童	10名	緑工房
10月23日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】	吹田第5中学校1年～3年	13名	学校教室
10月30日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	山田第二小学校4年～6年	28名	学校教室
11月6日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】	吹田第5中学校1年～3年	11名	学校教室

11月11日 (月)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	吹田第一小学校 4年～6年	19名	学校教室
11月13日 (水)	SDGs啓発	【クラブ支援】	吹田第二小学校 4年～6年	20名	学校教室
11月13日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	千里第二小学校 4年～6年	25名	学校教室
11月16日 (土)	身近な環境を調べよう	【くるくるキッズ環境スクール】	くるくるキッズ 環境スクール生	8名	糸田川・春日大池
11月18日 (月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	千里第一小学校 4年～6年	27名	学校教室
11月25日 (月)	SDGs啓発	【クラブ支援】	藤白台小学校 4年～6年	16名	学校教室
11月27日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	佐竹台小学校 4年～6年	22名	学校教室
11月27日 (水)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	山田第二小学校 4年～6年	25名	学校教室
11月27日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	山手小学校 4年～6年	18名	学校教室
12月9日 (月)	SDGs啓発	【クラブ支援】	千里第一小学校 4年～6年	24名	学校教室
12月9日 (月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	藤白台小学校 4年～6年	14名	学校教室
12月15日 (日)	手作りおもちゃと環境	【くるくるワークショップ】	くるくるクリスマス 来館者	15名	マルチホール
12月15日 (日)	身近な環境を調べよう	【くるくるワークショップ】	くるくるクリスマス 来館者	24名	B棟4階ホール
12月18日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	山手小学校 4年～6年	14名	学校教室
12月18日 (水)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	佐竹台小学校 4年～6年	20名	学校教室
12月21日 (土)	SDGs啓発	【くるくるキッズ環境スクール】	スクール生	6名	講義室2
1月27日 (月)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	藤白台小学校 4年～6年	16名	学校教室
1月27日 (月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	吹田第一 小学校児童	17名	学校教室
1月27日 (月)	SDGs啓発	【クラブ支援】	山手小学校 4年～6年	17名	学校教室
1月27日 (月)	紙すき体験と環境	【クラブ支援】	千里第一小学校 4年～6年	28名	学校教室
1月29日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	佐竹台小学校 4年～6年	22名	学校教室
2月5日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	吹田第二小学校 4年～6年	18名	学校教室
2月5日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	千里第二小学校 4年～6年	29名	学校教室
2月10日 (月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	千里第一小学校 4年～6年	28名	学校教室
2月12日 (水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	佐竹台小学校 4年～6年	22名	学校教室
2月12日 (水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	吹田第二小学校 4年～6年	18名	学校教室

2月17日(月)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	千里第一小学校 4年～6年	27名	学校教室
2月17日(月)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	藤白台小学校 4年～6年	15名	学校教室
2月8日(土)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】	一般市民	6名	マイシアター
2月8日(土)	吹田ごみゼロシステム研究	【出前講座】	一般市民	6名	マイシアター
2月12日(水)	SDGs啓発	【クラブ支援】	山田第二小学校 4年～6年	26名	学校教室
2月26日(水)	身近な環境を調べよう	【クラブ支援】	山手小学校 4年～6年	18名	学校教室
3月12日(水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	千里第二小学校 4年～6年	29名	学校教室
合 計		計	100回	1,815名	(94回 1,686名)

エ. 環境学習発表会動画及び展示の開催(自主事業)

教室からの発信「広がれ！環境の輪」と題して、小中学校等で取り組まれている環境学習の成果を動画発表と展示発表を次のとおり実施しました。尚、マイシアターでの展示は環境教育フェスタと同時開催で行いました。

① 環境学習発表会(動画)

開催日(期間)	開催場所(上映)	参加校数(作品数)	前年度
2月7日(金)	マイシアター		
2月7日(金)～3月31日(月)	くるくるプラザホームページ(WEB上)	小学校3校(16作品) 中学校1校(4作品)	小学校2校(6作品) 中学校1校(4作品)

② 環境学習発表会(展示)

開催日(期間)	開催場所(展示)	参加校数(作品数)	前年度
2月15日(土)～2月21日(金)	千里ニュータウンプラザ	小学校6校 (150作品)	小学校14校 (140作品) 中学校1校(1作品)

オ. 大学関係等の支援(自主事業)

インターンシップ学生の受け入れ状況は次のとおりでした。

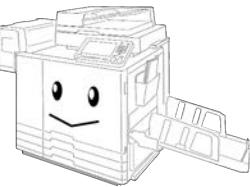
区分	期 間	学校名	人 数	内 容
イ ン タ ン シ ョ ン プ リ ン	8月13日(火) ～18日(日)	大阪経済大学	1名	破碎選別工場とエネルギーセンターの施設見学と、事務局業務の補助作業。情報発信をメインに、プラザ館内を自ら取材して貰い、SNSで投稿しました。また、動画を作成し、環境啓発動画コンテストへも応募しました。
合	計	1校	1名	(2校 3名)

()内は前年度

1. しみんけんきゅうニュース R6年度(2024 年度)年間概要

毎月の代表者会議を経て原稿を点検し、所内のカラー印刷機で 400 部印刷し(4 色高速安価インクジェット印刷機↓)公民館等に配布。(隔月発行)なお各 PT 活動内容は本報告書に詳しく掲載しているのでここでは掲載略。

R6 年はようやくコロナから回復、ただしエコイベント PT はそれ以前に解散した。また 3R の次を求めるようのことからマイ食器啓発 AT を行う。活動も R4 から研究活動(PT)と実践活動(AT)に分けたこともあり、紙すき手作りの活動は回復したが、本報告書及びニュースには執筆していない。
研究員の拡大に向けて、環境スクールを開催し、そこから研究員に参加される方も増えてきた。ニュースの HP 化は 2018 年(H30)から PDF にて掲載。「身近 PT」は独自のフェイスブック作成。R4 年から研究員に印刷版は郵送しないことに。また改革の一環として、配布先の見直し、印刷発行数の抑制、また 327 号から年 4 回の季刊になる。



表紙 P1 はその月あった主要事項を意匠している。公民館に並ぶ各施設冊子の中で 表紙が見えている訳なので、数秒見て活動をご理解していただけるよう、配慮している。

P2 は当月の行事概説 P3 は各 PT の活動概説で各 PT あたり 2~3 行の簡易報告なので ここでは解説略。

P4-P5 は PT 持ち回りで深堀りした記事を執筆している。P6 は主担研究員の持ち回り。P7 は事務局からの必要事項を記載。

P8 は 2 か月分のカレンダーになっていて、行事の日時を記載。(No327 から季刊なので日時のみとする)

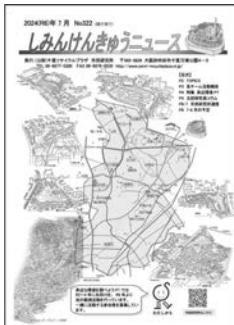
また別の公募市民編集スタッフによる情報紙も発行している。公民館等に配布。プラザの HP にも掲載。

2024 年(R6 年)5・6 月号 No321

昨年の報告書に記載

2024 年(R6 年)7・8 月号 No322

- TOPICS
- 各チーム活動報告
- 特集:身近環境 PT
- 主担研究員コラム(谷村)
- 市民研究所通信(所長)
- 7-8 月行事予定



P1 表紙は各池のイラスト。

P4 身近 PT では初年は糸田川、昨年からため池の観察活動を行っている。概観・ごみ量などの視覚的なものだけでなく、pH、化学的酸素要求量など数値的な記録もおこなっている。

P5 江戸の生活事情(蠟燭の明るさたった 10 ルクス)

P6 30 年来お世話になっている三輪主担が、本年度より所長就任。ごみ施策に関し、アジア学生からの意見。日本は清潔快適は実現してきたのだが、他国のはうが少ない CO2、今後はどうあるべきか。

2024 年(R6 年)9・10 月号 No323

- TOPICKS
- 各チーム活動報告
- 特集:吹田ごみゼロ PT
- 主担研究員コラム(土屋)
- 市民研究所通信
- 9-10 月行事予定



P1 表紙は環境スクールの様子、ふろしき、施設見学、琵琶湖博物館見学、SDGs カードゲームなど実施。

P4-5 リサイクル率トップの大崎町のリサイクル事情解説。廃油、剪定枝、生ごみのリサイクルも実施し高いリサイクル率

「経費：全国平均 15,500 円/人 ⇄ 大崎町 7,700 円/人」

P6 土屋先生による PM2.5 による影響の研究データでは 4 万人が平均より早く死亡。

P7 事務局による「環境教育企画グループ」立ち上げ記事

2024 年(R6 年)11・12 月号 No324

- TOPICKS
- 各チーム活動報告
- 特集:市民とお店 PT
- 主担研究員コラム(金子)
- 市民研究所通信
- 11-12 月行事予定



P1 表紙はメイシアターにて黒田主担が関わる「釈迦ヶ池での鴨密猟・外交事件」シンポを開催し、市民研究員からも池の環境報告を実施。(記事は No326 にて掲載)

P4-5 市民研究員が豊中での会議に参加し、芝原浄水場の見学報告記事。他災害時の仮設タンクの紹介、吹田市給水マップの紹介。

P6 金子主担のごみ処理事業経費比較によると、処理場の内容等により、各市バラツキあり。吹田市は府下平均値である。

P7 紙すき報告、マイ食器経過報告。

2025年(R7年)1・2月号 No325

・TOPICKS

・各チーム活動報告

・特集:研究所の方向(所長)

・主担研究員コラム(内田)

・市民研究所通信

・1-2月行事予定



2025年(R7年)3・4月号 No326

・TOPICKS

・各チーム活動報告

・特集:マイ食器啓発 AT

・主担研究員コラム(黒田)

・市民研究所通信

・3-4月行事予定



2025年(R7年)5・6・7月号 No327

・TOPICKS

・各チーム活動報告

・特集:SDGs 啓発 PT

・主担研究員コラム(谷村)

・研究所長ご挨拶

・5-6-7月の行事予定



2. 市民研究所のホームページ

吹田市資源リサイクルセンター 本体

<https://www.kurukuru-plaza.jp/>

こちら側には市民研究所 PDF 化したニュースと情報紙があります。

(公財)千里リサイクルプラザ

<https://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

P1 年末開催の実践発表会の状況を表紙に、
プラごみ、焼却炉、プランクトン、カードゲームのアンケート、PTAT の発表画面を掲載。また身近 PT では子供向けの観察を行う。

P4-5 所長による研究所の方向について、4つの柱を軸に2026年の指定管理指名を目指す。毎年4000人の学校からの来所、ESD 拠点認定 ↓ <https://esdcenter.jp/kyoten/#kinki> 数少ない市民活動拠点としての必要性。

P6 内田主担によると環境の原意は4つに囲まれた地域の意で、明治になり日本人が eco の訳語とした。

環境が自己の周囲の意味を含む上でますます地球思考が必要となる。

P1 表紙は環境フェスタの様子。

P4-5 クラウドのご支援により、ようやくマイ食器が完成。ロハスフェスタで使用し、今後アンケートを実施。

P6 黒田主担による No324 の続き 釈迦ヶ池が吹田の南北をつなぐ役割。実際に鴨料理をしようという飲食店の流れがあり。

P7 新職員所感。これまでの経験を活かして環境啓発の未来を創造。

P1 大阪関西万博開催!当プラザは万博公園4-3に位置するので、表紙には○を3つ重ねて、委嘱式を含む新年度の所信表明。

P4-5 衣料品ロスに関し、平均年間、18枚購入、手放す15枚、着ない35枚。衣料にも多くの水を使用、海外との関連、素材リサイクルの難しさ、意識改革、技術革新が必要。

P6 谷村主担、学習する組織に。

P7 所長挨拶。

3. 情報紙の発行(開館以来プラザとしての発行)

こちらも公募された市民による編集です。HP掲載千里リサイクルプラザ



内容は多岐にわたる

No98 P2 水の話 P3 甲子園球場のエコ P4-5 身近なごみ減量 P6 お月見団子 P7 レザー教室レポ P8 行事・施設紹介

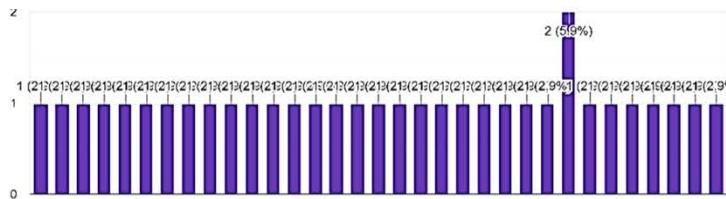
No99 P2 紙ごみはてな? P3 エコたわし P4-5 口の健康 P6 エコ歳時記(クマとどんぐり) P7 アイデアコンテスト P8 行事・施設紹介

No100 P2-3 歴代編集長座談会 P4-5 エコ歳時記(ミツバチ) P6 置き配メリット P7 天ぷら油から燃料 P8 行事・施設紹介

マイ食器持参啓発運動アンケート

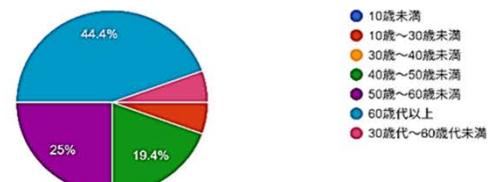
①お名前（匿名可）

34件の回答



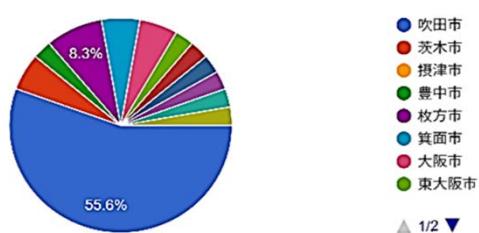
②あなたの年齢は

36件の回答



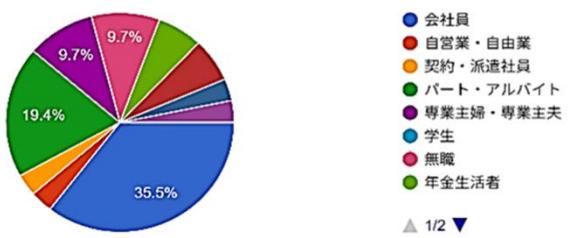
③お住まいはどちらですか

36件の回答



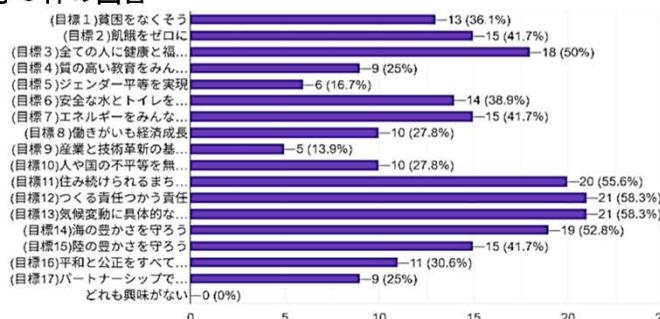
④ご職業は？

31件の回答



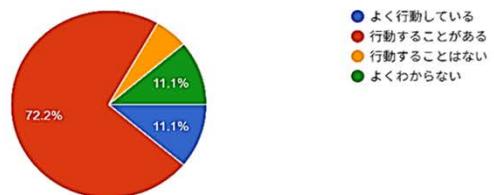
⑤国連の提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の17の目標の内、どれに関心がありますか（複数回答可）

36件の回答



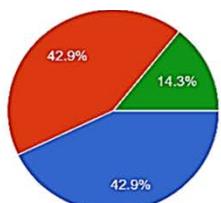
⑥SDGsの17の目標を意識して日常で行動することがありますか

36件の回答



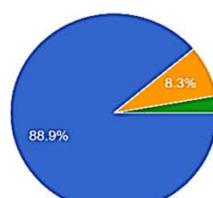
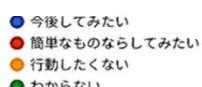
⑦質問6で「行動することはない・よくわからない」を選んだ方

7件の回答

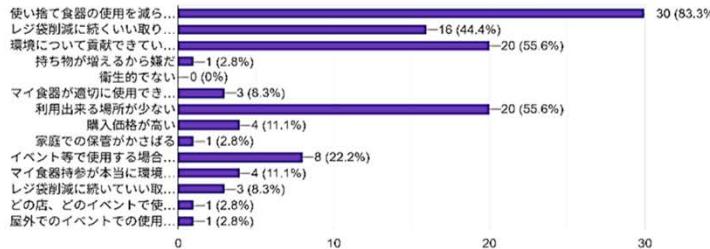


⑧マイ食器持参について

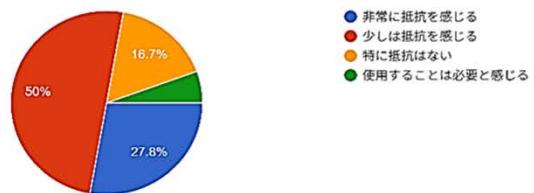
36件の回答



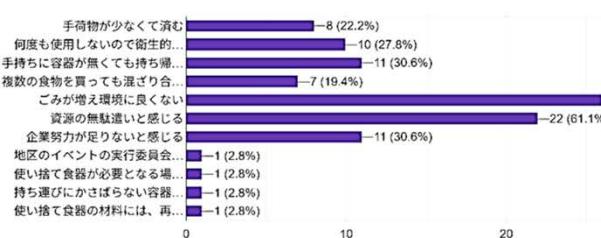
⑧マイ食器を使用することについてどう思いますか（複数回答可）
36件の回答



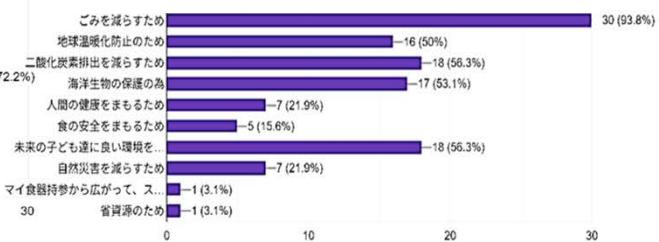
⑩使い捨て食器を使用することについて
36件の回答



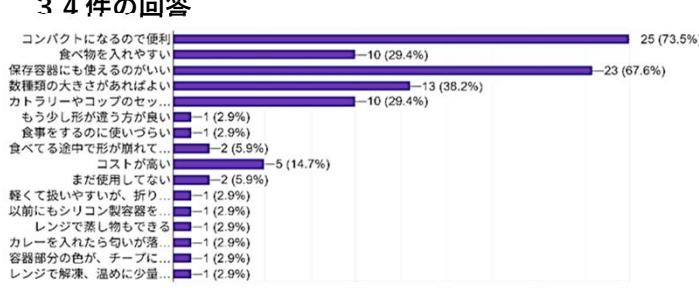
⑪使い捨て食器を使用することについてどう思いますか（複数回答可）
36件の回答



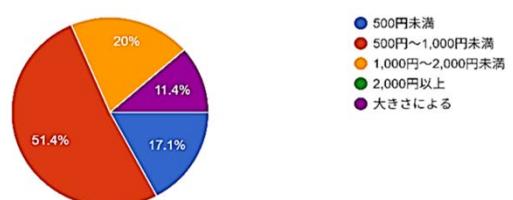
⑫質問⑧でマイ食器持参は「必要と思う」と答えた方はどんな理由がありますか（複数回答可）
36件の回答



⑬くるくるプラザで配布したマイ食器を使った方は使ってみてどうでしたか（複数回答可）
34件の回答



⑭今後マイ食器を購入する場合いくらが適正価格と感じますか
35件の回答



⑮今後どのようなマイ食器があれば使ってみたいですか

- ・中に仕切りもできるようなもの
- ・カトラリーセット マイボトル
- ・スープ、飲み物で、利用出来るもの
- ・今後ほしいマイ食器としては、持ち運びしやすい軽量なもので色んなサイズがほしいです。例えば、キャンプやピクニックなどアウトドアでも気軽に使えるものでデザインはシンプルで飽きがこないものや、手作り感がある温かみのあるものだとさらに食事の時間が楽しくなると思います。
- ・豆腐やサンドイッチを入れられるような四角いもの。例えば大・中・小の3サイズの食器の入れ子構造のもの。(タッパーewareでこのタイプをもつていて重宝している。)
- ・今回のマイ食器のような蛇腹タイプの蓋つきのタンブラー
- ・フタもお皿にできるような容器
- ・お皿とお箸とスプーン、ストロー・フタ付きのマイカップ 500mlリットルくらい・グラス、カップ

- ・たたむとペタンコになるマイカップ。スタバのコーヒーをいれて持ち歩けるよう、蓋が付いているとありがたい。
- ・上下で2つに分かれて、蓋にもなるし、2つ目の器になるような器
- ・可能な限りコンパクトになる食器、コップなど
- ・折りたためるコップ、袋タイプのシリコンジップロック
- ・小さめサイズがあつたら嬉しいです。また、マイ食器用のバッグもあると嬉しいです。
- ・箸、コップがセットになったコンパクトなマイ食器
- ・お弁当箱としても使える
- ・計量販売や容器が必要な物に対応できる用途(液、軟、粉粒等)毎の容器

*他にご意見、ご感想などがございましたらご記入ください

18 件の回答

- ・マイ食器を入れれるちょうど良い大きさの袋が欲しい
 - ・アンケートに答えてみて、違和感はありませんでした。また気がついたことがありましたらお知らせいたします。
 - ・ボトル系のもので、あれば、炭酸や酸に対応出来る商品が良い
 - ・自分だけの食器というだけで、いつもの食事が少し特別に感じられました。デザインや色合いも自分好みだったので、食卓が華やかになり、食事を楽しむ気持ちがより高まりました。また、洗って何度も使うことで、エコへの意識が高まり、環境への貢献を実感できたのも嬉しいポイントでした。
 - ・水を張った中に硬くなつたお餅を入れて、600Wで2分ずつ様子をみながらレンジでチンしました。つきたての柔らかなお餅になりました。ラップを使わないことに、少しだけ環境に良いこととしてる気持ちになりました。
 - ・持ち運びを考えた時にマイ箸、マイカトラリー、水筒をより広めるような活動の方が実質的に思える。もしくは、例えば、ミスドとタイアップした取り組みで持ち帰り容器として提案するとか。広める手がかりが必要に思える。
 - ・素材が柔らかいので、洗いにくい。
 - ・カフェやファストフードなど使い捨て食器の店では、マイ食器は使用しにくい。そのような店に行かないが。まずはイベントのマイ食器持参ですが、市内にマイ食器持参対応の飲食店、スーパーなどが広がるような方向の運動も同時にできるといいと思います。またどこの店が環境にやさしい取り組みをしているかがすぐにわかるアプリがあれば、なお良いと思います。
 - ・まだまだマイ食器を推進しているお店が少ないので、持ち歩いても中々使える機会が訪れない。吹田市内だけでも、使えるお店が増えて、良いなと思う人が増えれば、他の市や県にも浸透していくのではないかと思います。
- 良い取り組みをされている、周りの人にも紹介したい
- ・高野山の釜飯屋さんで、食べ残しを持ち帰るためのラップがテーブルに置いてありました。そのような意識を持っているお店の意見も聞いてみたいです。
 - ・コーヒーチェーン店のように、持参者にメリットを付与するのが必須。まずは啓蒙が大事だと思います。
 - ・使い始めて1日目で蓋の出っ張っている所が割れました。まだ使えるのは使えますが、蓋だけ買えるかどうかが気になります。お店の人に蓋を閉めてもらおうとすると必ずしょんとなるので蓋は自分で閉めるように気をつけようと思いました。
 - ・(3)SDGsの質問は、SDGsウェディングケーキを参考にして選択肢を少なくする。食べ残し・ロスも聞いたら良いのでは。いろんなマイ食器の例を挙げて好きなものを選択してもらう。マイ食器の必要性、効果と問題点をもう少し整理して組み立てたらどうでしょうか。
 - ・食べ物を提供する店舗に対しても啓発活動が必要だと思う。
 - ・保存容器としても利用しています
 - ・供給者側の取組も必要になるので其方の現状や働きかけなどはどの様な状況。

3 公益財団法人千里リサイクルプラザ市民研究所設置規則

制 定 平成 4年3月23日 規則4
最近改正 平成31年3月25日 規則2

(趣旨)

第1条 この規則は、公益財団法人千里リサイクルプラザ（以下「プラザ」という。）の市民研究所の設置に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 プラザに市民研究所を置く。

(職制)

第3条 市民研究所に所長を置く。

2 市民研究所に副所長を置くことができる。

3 市民研究所に市民研究員を置くことができる。

4 市民研究員は、プラザ定款第3条及び第47条に掲げる市民研究所の設置目的を共有し、意欲的に取り組む一般の市民、大学職員、学生、企業や団体の職員、行政機関の職員等とする。

(職務)

第4条 所長はプラザ定款第3条の目的を達成するための研究課題に取り組み、所管の事務を掌理する。

2 市民研究員は所長の指導、助言を受け、自らの研究課題に取り組む。

3 所長に事故あるときは、あらかじめ所長が指定する者がその職務を代理する。

(分掌事務)

第5条 市民研究所の分掌事務は、別に定めがあるものを除き、次のとおりとする。

(1) 地球温暖化防止等を含む循環型社会を構築するための研究に関する事項

(2) 講演及び講座等に関する事項

(3) 研究成果の発表に関する事項

(4) 市民研究員募集及び登録に関する事項

(5) その他廃棄物の減量化及び資源循環促進に関する事項

(研究運営委員会の設置)

第6条 市民研究所に研究運営委員会を置くことができる。

2 研究運営委員会は、所長が主宰する。

(委任)

第7条 この規則の施行に関し必要な事項は、理事長が別に定める。

附 則

この規則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則（平成10年4月1日 規則1）

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日 規則2）

この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 5 月 9 日 規則 4 ）

この規則は、平成 24 年 5 月 9 日から施行する。

附 則（平成 29 年 3 月 28 日 規則 3 ）

この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 28 日 規則 1 ）

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年 3 月 25 日 規則 2 ）

この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所運営方針

令和4年4月1日改正

1 目的

公益財団法人千里リサイクルプラザ(以下「プラザ」という。)市民研究所は、市民社会への貢献や持続可能な社会の実現をめざし、市民が主体となって考え、活動している。この運営方針は、市民研究所設置規則に基づき、市民研究所の運営に必要な事項を定めることを目的とする。

2 市民研究員

(1) 市民研究員の委嘱

市民研究所設立の目的を実現するために、参加型活動組織である市民研究所に市民研究員を置く。

- ① 市民研究員は、広く一般の市民及び大学職員、学生、企業や団体、行政機関などから募集する。
- ② 市民研究員の委嘱は理事長が行い、委嘱については別に定める。

(2) 市民研究員の活動

委嘱を受けた市民研究員は、持続可能な社会の実現を目的に、ごみの減量、地球温暖化防止等を含む循環型社会の構築、推進をめざして、調査研究及び実践活動を行う。活動に際しては事務局との連絡を密にし、次の点にも留意する。

- ① 環境に関わる諸課題の中で自らの問題意識を明確にし、意欲的に取り組む。
- ② 市民研究所の諸事業への参加を通じ、常に他の市民研究員及び広く一般市民との交流、親睦に努める。

(3) プロジェクトチームとアクションチーム制

市民研究員はその円滑な活動をめざしプロジェクトチーム(以下「P T」という。)及びアクションチーム(以下「A T」という。)を組織することができる。

なお、チームの開設に際して、その名称は活動目的を象徴したわかりやすいものにする。

ア P T

P Tは、市民の目線から環境問題の解決に向けての調査研究を主たるテーマとして活動する。

- ① P Tは、原則として月1回以上定例会を開催し、チーム内の情報共有や調査研究、実践活動の具体的な計画を協議する。協議内容については事務局及びP T担当の主担研究員に報告を行う。
- ② P Tの研究テーマには適切で実施可能なもの、また、多くの市民研究員が容易に参加できるものを対象とするように努める。
- ③ 調査研究を主とするP Tの目標は、概ね3年で達成できる内容とする。3年経過後、成果の分析及び評価を行い、継続か否かの検討を行う。

イ A T

A Tは、市民の立場から環境問題の解決及び啓発に向けての実践をテーマとして活

動する。

① A Tは、事務局の助言のもと、適宜定例会等を開催し、実践活動や運営活動を行う。

②実践活動を主とする A Tは、常に実践内容の見直しを行い、よりよい成果を継続してあげられるよう改善に努める。

ウ 市民研究員の P T、 A Tへの所属

① 市民研究員は、原則として、何れかの研究テーマの下での P T、 A Tに所属して活動する。複数の P T、 A Tに所属する時は主たる所属を明らかにする。

② P T、 A Tの代表はチーム内の互選により決定し、市民研究員代表者会議（以下「代表者会議」と言う。）に出席する。同一人が 2つ以上の P T、 A Tの代表を兼任することはできない。

エ 新 P T、 A T開設の提案

新たな研究、活動テーマの下での P T、 A Tの開設の提案は、次に掲げる四者いずれかからによる。

① 市民研究員 ② 主担研究員 ③ 所長 ④ 研究運営委員会

（4）くるくるつながり広場

ア 目的

環境問題に関わって自分の興味・関心のあることを、幅広く市民研究員及び市民研究員に関心のある者が相互に意見交流をするなかで、以下のことを進める。

① 同じ目標を持つ仲間を募り、新しい P T、 A Tの立ち上げをめざす。

② 既にある P T、 A Tへ参加する。

③ 相互の意見交流をする中で、自身の知識や経験を深め、地域や身の回りで地球環境保全を進める活動を自主的に行う。

イ 活動計画・内容

目的達成に向け適切な時期に年 3～4回開催する。

① 参加者各自の研究テーマについての発表や P T、 A Tについての意見交流を行う。

② 主担研究員の指導・助言を受けることができる。

③ 事務局も参加し、会の進行、次回の決定、連絡は事務局が行う。

④ この活動について「しみんけんきゅうニュース」「研究報告書」で研究内容を発信することができる。

3 主担研究員および総括主担研究員

市民研究所は、その開設の趣旨に沿う成果を得るために指導的な役割を担う主担研究員を置くことができる。

（1）理事長は、環境及び環境のあり方に関連する分野の学識者から主担研究員を委嘱し、主担研究員の中から総括主担研究員を指名することができる。

（2）主担研究員は、市民研究所全体の戦略（企画・運営）を研究し、その成果をもって市民研究所の運営等に助言を行うとともに各 P Tに対して次の支援を行う。

① 主担研究員はいずれかの P Tの顧問として市民研究員への指導、助言を行う。

② 主担研究員は代表者会議に可能な限り出席し、コミュニケーションを図り指導

及び助言に努める。

③ 総括主担研究員はすべてのPTの顧問として全体の調整を図る。

(3) 理事長は、必要と認めたときは主担研究員に対し謝金を支給することができる。

4 市民研究所の運営

(1) 研究運営委員会

市民研究所の運営にかかる事項を協議して決定するため、研究運営委員会を置く。

ア 研究運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成し所長が召集する。

- ① 所長 ② 主担研究員 ③ 理事長及び執行役員 ④ 事務局長
- ⑤ 参事以上の事務局員 ⑥ その他所長が必要と認める者

イ 研究運営委員会は、次の各号について協議し、決定する。

- ① 市民研究所の運営
- ② 中長期計画の策定
- ③ PTの研究成果と次年度年間研究計画への助言
- ④ 新しいPT、ATの承認
- ⑤ その他市民研究所に関する事項

なお、PTの助言内容は次の通りとする。

① 今年度の研究活動の助言について

- ・ 研究テーマに沿って調査してきた事項の整理、または研究テーマに沿った実践活動の内容や修正の整理ができているか。
- ・ 調査研究による成果と課題の分析、または実践活動の効果の検証と課題の見直しができているか。
- ・ 進捗状況もしくは研究成果の発信はできているか。または実践活動を行ったことによる啓発効果の確認はできているか。

② 次年度の研究計画の助言について

- ・ 先行研究の調査から、または先行実践の見直しから、めざす研究テーマ（もしくはサブテーマ）として適切なものか。
- ・ 研究テーマ（もしくはサブテーマ）は年次計画に沿って達成できる可能性のあるものであり、明確性、計画性、継続性があるか。
- ・ 設定した研究テーマ（もしくはサブテーマ）は、啓発効果の大きさ、強さ等を備えた仮説が立てられているか。

ウ 研究運営委員会は概ね2ヶ月に1回開催する。その他必要な時は随時開催することができる。

(2) 代表者会議

PT、ATの調査研究及び実践活動を積極的に推進するため、また、PT、AT間の交流や連携を深めるため、代表者会議を置く。

ア 代表者会議は次の各号に掲げる者をもって構成し所長が召集する。

- ① 所長 ② 各PT（ATは必要に応じて）から1名（代表者または代理）
- ③ 主担研究員 ④ 市民研究所担当事務局員 ⑤ その他所長が必要と認める者

イ 代表者会議は、次に掲げる事項について協議、検討する。

- ①市民研究所の運営等に関すること。
- ②各PT、AT間の情報交換、協力要請等に関すること。
- ③しみんけんきゅうニュース、ホームページ等情報の外部発信に関すること。
- ④市民研究所の予算に関すること。
- ⑤その他所長が必要と認めること。

ウ 代表者会議は原則として毎月第一土曜日に開催し、参加者は次に掲げる事項について留意してその協力に努める。

- ①研究活動の内容を充実・発展させるのに役立つものにする。
- ②会議の内容をPT、ATに持ち帰りメンバーに確実に伝える。

5 活動に伴う経費・謝金について

市民研究員は、特に必要と認められるときは、次の各号に定める経費及び謝金の支給を受けることができる。ただし、活動報告があったものに限る。また、当該市民研究員が所属する大学等、又はその他の機関から支給を受けた時はこの限りではない。

- (1) 研究課題への取り組みに必要な調査研究にかかる経費
- (2) プラザが開催する講座等の講師に対する謝金、その他の事業における市民への指導等に対する謝金

6 研究成果の取り扱い

市民研究員は、研究成果に関する知的所有権については慎重に行動するものとし、次の各号を遵守しなければならない。なお、疑義が生じたときは、研究運営委員会の協議を経て理事会において決定する。

- (1) プラザからの研究成果公表に先立ち、他の情報媒体への掲載又はその他の方法によってこれを公表してはならない。ただし、理事長が認めるときはこの限りではない。
- (2) 研究の過程で生じた発明、発見、新技術開発、その他の知的所有権は、原則としてプラザに帰属する。ただし、市民研究員等が特別に申し出た場合は、研究運営委員会において審議のうえ必要な措置をとることができる。

7 くるくるサポーターへの協力要請

市民研究所は、プラザが募集しプラザに登録したボランティアとしての「くるくるサポーター」の中から、市民研究所の活動に賛同しその実践の一翼を担う希望者に協力を求めることができる。

編集スタッフ

編集長 山川 益弘
監 修 三輪 信哉
内田 慶市
金子 泰純
黒田 勇
谷村 綾子
土屋 正春
花嶋 溫子

研究報告書

[第32巻]
2025年(令和7年)7月25日発行

発 行 (公財)千里リサイクルプラザ
吹田市千里万博公園4番3号
Tel 06 (6877) 5300
Fax 06 (6876) 0530
<http://www.kurukuru-plaza.jp/>

印 刷 大和写真工業株式会社

公益財団法人 千里リサイクルプラザ 市民研究所

